指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第40集

株式会社ニシムタ店舗建設に伴う発掘調査報告書

新番所後遺跡

平成19年3月
指宿市教育委員会

新番所後遺跡正誤・追加説明表		
箇所	誤	正
14頁本文5行目	５月15日～６月26日	５月10日～６月27日
41頁本文3行目	打製石斧10点	打製石斧９点
85頁　本文下から２行分	第12ｂ層	第12層ｂ
86頁　本文上から18行目	第12ｂ層	第12層ｂ
91頁　写真37中の石器No	36	38
86頁で報告した312・88・1444・1448・321・800・906・954・1016・694・308の石器は未掲載。		

例　　言

1．本書は、平成 18 年 5 月 10 日から平成 18 年 6 月 27 日まで実施した鹿児島県指宿市に所在する新番所後遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、株式会社ニシムタと指宿市において委託契約を締結し、指宿市教育委員会で実施した。調査は中摩浩太郎・渡部徹也が担当し、鎌田洋昭の協力を得た。調査組織は以下のとおりである。

発掘調査主体	指宿市教育委員会		
発掘調査責任者	指宿市教育委員会	教育長	林　賢一郎
発掘調査担当組織員	指宿市教育委員会	教育部長	増元順一
		社会教育課長	岩崎三千夫
		社会教育係長	川路　潔
		社会教育係主査	東中川睦子
		社会教育係主事	岩松友美
		社会教育係主査	宮地主税
		社会教育係主事	野元暢治
		文化係長	西野　実
		文化係主事	吹留義輝
		文化財係長	下玉利　泉
	発掘調査・報告書作成担当	文化財主査	中摩浩太郎
		同上	渡部徹也
		同上	鎌田洋昭

発掘調査・整理作業員　林　美加子、堂薗眞弓、馬場シズ子、堀口ツユ子、篠崎秀夫、上玉利孝志、片平健一、下玉利郁代、増田末治、坂田　恵、久留須利恵、田井村浩三、松尾優子、吉元鈴子、東川達也、安永美穂、吉元　妙、清　秀子、竹下珠代、松元かおり、冨宿富美子

3．本書の編集、図面作成、写真撮影は、中摩浩太郎・渡部徹也・鎌田洋昭が分担し行った。

4．調査、及び報告書作成に要した経費は㈱ニシムタが全額負担した。

5．本報告書のレベルは、全て絶対高である。図中に用いられている座標値は、国土座標系第Ⅱ系に準ずる。

6．遺物観察表、遺物実測図、遺構図の表記凡例は、『橋牟礼川遺跡Ⅲ』（1992、指宿市教育委員会）と『水迫遺跡Ⅰ』（2000、指宿市教育委員会）に準ずる。観察表の特殊な表記については下記のとおりである。土器の混和剤【カ：角閃石、セ：石英、ウ：雲母、金：金雲母、白：白色粒、黒：黒色粒、赤：赤色粒】土器部位・法量【口：口縁部、口縁部径、肩：肩部、肩部最大径、胴：胴部、胴部最大径、底：底部、底部径】調整【内：内面、外：外面、口唇：口唇部、突：突帯部、底：底面、脚内：脚台内面、脚端：脚台接地面】色調【内：内面、外：外面、肉：器肉】※地層・遺物のマンセル値は、土色計 SCR-1 を使用し測色した。

7．調査にあたり、森脇　広氏（鹿児島大学法文学部教授）、東　和幸氏（鹿児島県歴史資料センター黎明館）に指導・助言をいただいた。また，石材認定については，桑水流　淳二氏（鹿児島県立博物館）に指導・助言をいただいた．記して感謝したい。

8．発掘調査で得た全ての成果については、指宿市考古博物館時遊館ＣＯＣＣＯはしむれで保管し、活用する。

本文目次

新番所後遺跡確認調査編

第１章　経緯と調査概要 …… 1
　第１節　遺跡の位置と環境 …… 1
　第２節　確認調査に至る経緯と調査の概要 …… 1
第２章　遺跡の層序 …… 4
第３章　調査の成果 …… 4

新番所後遺跡本調査編

第１章　調査区の設定と調査の概要 …… 14
第２章　調査区の成果 …… 14
　第１節　古墳時代 …… 14
　第２節　弥生時代 …… 36
第３章　まとめ …… 85

挿図目次

第１図　調査地点図１ …… 1
第２図　調査地点図２ …… 2
第３図　トレンチ位置図１ …… 3
第４図　層位模式柱状図 …… 4
第５図　トレンチ位置図２ …… 5
第６図　２トレンチ完堀状況図 …… 6
第７図　２トレンチ層位断面図 …… 7
第８図　3トレンチ完堀状況図及び層位断面図　8
第９図　4トレンチ完堀状況図及び層位断面図　9
第10図　４トレンチ出土遺物実測図 …… 9
第11図　８トレンチ完堀状況図及び断面図　10
第12図　８トレンチ出土遺物実測図 …… 11
第13図　本調査地点層位断面図 …… 12・13
第14図　古墳時代竪穴式住居検出層位図　14
第15図　古墳時代竪穴式住居遺物出土状況図１　15
第16図　古墳時代竪穴式住居遺物出土状況図２　16
第17図　古墳時代竪穴式住居遺物出土状況図３　17
第18図　柱穴埋土中遺物出土状況図 …… 18
第19図　古墳時代竪穴式住居平・断面図　19
第20図　古墳時代竪穴式住居柱穴、及び土坑・断面図　20
第21図　古墳時代遺物出土状況図 …… 21
第22図　古墳時代出土遺物実測図 …… 22
第23図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図①　23
第24図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図②　24
第25図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図③　25
第26図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図④　26
第27図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑤　27
第28図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑥　28
第29図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑦　29
第30図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑧　30
第31図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑨　31
第32図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑩　32
第33図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑪　33
第34図　弥生時代ピット検出状況図 …… 36
第35図　弥生時代ピット平・断面図①　37
第36図　弥生時代ピット平・断面図②　38
第37図　弥生時代ピット平・断面図③　39
第38図　弥生時代ピット平・断面図④　40
第39図　弥生時代遺物出土状況図 …… 41
第40図　弥生時代出土遺物実測図① …… 42
第41図　弥生時代出土遺物実測図② …… 44
第42図　弥生時代出土遺物実測図③ …… 46
第43図　弥生時代出土遺物実測図④ …… 48
第44図　弥生時代出土遺物実測図⑤ …… 49
第45図　弥生時代出土遺物実測図⑥ …… 50
第46図　弥生時代出土遺物実測図⑦ …… 51
第47図　弥生時代出土遺物実測図⑧ …… 52
第48図　弥生時代出土遺物実測図⑨ …… 53
第49図　弥生時代出土遺物実測図⑩ …… 54
第50図　弥生時代出土遺物実測図⑪ …… 56
第51図　弥生時代出土遺物実測図⑫ …… 57
第52図　弥生時代出土遺物実測図⑬ …… 58
第53図　弥生時代出土遺物実測図⑭ …… 59
第54図　弥生時代出土遺物実測図⑮ …… 60
第55図　弥生時代出土遺物実測図⑯ …… 61
第56図　弥生時代出土遺物実測図⑰ …… 62
第57図　弥生時代出土遺物実測図⑱ …… 63
第58図　弥生時代出土遺物実測図⑲ …… 64
第59図　弥生時代出土遺物実測図⑳ …… 65
第60図　弥生時代出土遺物実測図㉑ …… 66
第61図　弥生時代出土遺物実測図㉒ …… 67
第62図　弥生時代出土遺物実測図㉓ …… 68
第63図　弥生時代出土遺物実測図㉔ …… 69
第64図　弥生時代出土遺物実測図㉕ …… 70
第65図　弥生時代出土遺物実測図㉖ …… 71
第66図　弥生時代出土遺物実測図㉗ …… 72
第67図　弥生時代出土遺物実測図㉘ …… 73
第68図　弥生時代出土遺物実測図㉙ …… 74
第69図　弥生時代出土遺物実測図㉚ …… 75

写真目次

写真１　指宿市全景 …… 87
写真２　１トレンチ掘削状況 …… 87
写真３　２トレンチ掘削状況 …… 87
写真４　３トレンチ掘削状況 …… 87
写真５　４トレンチ掘削状況 …… 87
写真６　４トレンチ縄文晩期ピット断面 88
写真７　５トレンチ掘削状況 …… 88
写真８　６トレンチ掘削状況 …… 88
写真９　７トレンチ掘削状況 …… 88
写真10　８トレンチ掘削状況 …… 88
写真11　８トレンチ遺物出土状況 …… 88
写真12　９トレンチ掘削状況 …… 88
写真13　調査区全景（12 層 a 直下の旧地形） 88
写真14　作業状況１ …… 89
写真15　調査区東壁層位（10 トレンチ） 89
写真16　調査区北壁層位（10 トレンチ） 89
写真17　調査区南壁層位１ …… 89
写真18　調査区南壁層位２ …… 89
写真19　古墳時代竪穴住居検出状況 …… 89
写真20　埋土遺物出土状況１ …… 89
写真21　埋土遺物出土状況２ …… 89
写真22　埋土除去状況 …… 90
写真23　古墳時代竪穴住居完掘状況 …… 90
写真24　炭の集中部 …… 90
写真25　土坑炉 …… 90
写真26　付帯土坑（完掘状況） …… 90
写真27　付帯土坑（検出状況） …… 90
写真28　主柱穴Ａ（埋納遺物除去跡） …… 90
写真29　主柱穴Ａ（完掘状況） …… 90
写真30　主柱穴Ｂ …… 91
写真31　掘形確認状況 …… 91
写真32　弥生時代遺物出土状況遠景１ 91
写真33　弥生時代遺物出土状況遠景２ 91
写真34　土器出土状況１ …… 91
写真35　土器出土状況２ …… 91
写真36　軽石製岩偶出土状況 …… 91
写真37　軽石製獣形製品出土状況 …… 91
写真38　ピット１ …… 92
写真39　ピット２ …… 92
写真40　ピット３ …… 92
写真41　ピット４ …… 92
写真42　ピット５ …… 92
写真43　ピット６ …… 92
写真44　ピット７ …… 92
写真45　ピット８ …… 92
写真46　ピット９ …… 92
写真47　ピット 10 …… 92
写真48　ピット 11 …… 92
写真49　ピット 12 …… 92
写真50　ピット 13 …… 92
写真51　ピット 14 …… 92
写真52　ピット 15 …… 92
写真53　ピット 16 …… 93
写真54　ピット 17 …… 93
写真55　ピット 18 …… 93
写真56　ピット 19 …… 93
写真57　ピット 20 …… 93
写真58　ピット 21 …… 93
写真59　ピット 22 …… 93
写真60　ピット 23 …… 93
写真61　ピット 24 …… 93
写真62　ピット 25 …… 93
写真63　ピット 26 …… 93
写真64　ピット 27 …… 93
写真65　ピット 28 …… 93
写真66　ピット 29 …… 93
写真67　ピット 30 …… 93
写真68　ピット 31 …… 94
写真69　ピット 32 …… 94
写真70　ピット 33 …… 94
写真71　ピット 34 …… 94
写真72　ピット 35 …… 94
写真73　ピット 36 …… 94
写真74　ピット 37 …… 94
写真75　ピット 38 …… 94
写真76　ピット 39 …… 94
写真77　ピット 40 …… 94
写真78　ピット 41 …… 94
写真79　ピット 42 …… 94
写真80　ピット 43 …… 94
写真81　ピット 44 …… 94
写真82　ピット 45 …… 94
写真83　ピット 46 …… 95
写真84　ピット 47 …… 95
写真85　ピット 48 …… 95
写真86　ピット 49 …… 95
写真87　ピット 50 …… 95
写真88　ピット 51 …… 95
写真89　ピット 52 …… 95
写真90　ピット 53 …… 95
写真91　出土遺物写真１ …… 95
写真92　出土遺物写真２ …… 96
写真93　出土遺物写真３ …… 97
写真94　出土遺物写真４ …… 98
写真95　出土遺物写真５ …… 99
写真96　出土遺物写真６ …… 100
写真97　出土遺物写真７ …… 101
写真98　出土遺物写真８ …… 102
写真99　出土遺物写真９ …… 103
写真100　出土遺物写真 10 …… 104
写真101　出土遺物写真 11 …… 105

表 目 次

表１　確認調査結果一覧 …… 2
表２　古墳時代遺物観察表１ …… 34
表３　古墳時代遺物観察表２ …… 35
表４　弥生時代ピット法量表 …… 40
表５　弥生時代遺物観察表１ …… 76
表６　弥生時代遺物観察表２ …… 77
表７　弥生時代遺物観察表３ …… 78
表８　弥生時代遺物観察表４ …… 79
表９　弥生時代遺物観察表５ …… 80
表10　弥生時代遺物観察表６ …… 81
表11　弥生時代遺物観察表７ …… 82
表12　弥生時代遺物観察表８ …… 83
表13　4・8トレンチ出土遺物観察表 84

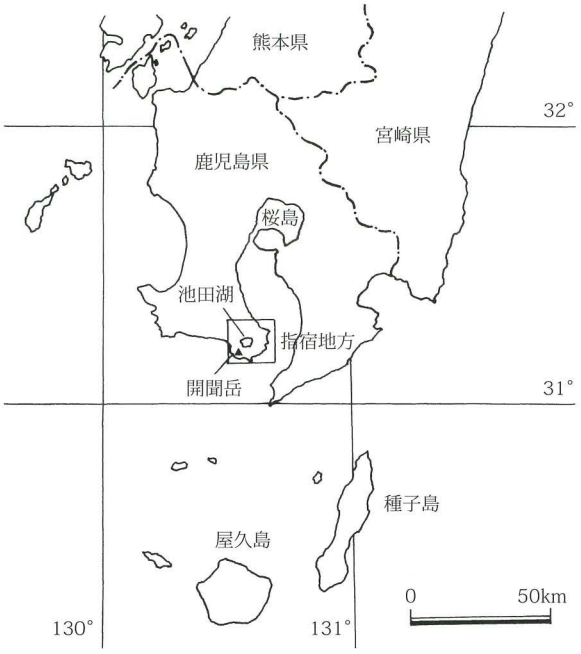
■新番所後遺跡確認調査編■

第１章　経緯と調査概要

第１節　遺跡の位置と環境

指宿市は、薩摩半島の南端に位置する。地形的には、山地、台地、平野、湖沼の４つに大別される。中でも九州最大のカルデラ湖である池田湖は、約5,500年前に噴火し、その噴出物は、厚く指宿地方を覆い、本市の地形形成の大きな要因となっている。

また、南西にある開聞岳も縄文後期に活動を開始して以来、噴火を繰り返していた。指宿市内の各地で、黄コラ（縄文時代後期）、暗紫コラ（弥生時代中期）、青コラ（７世紀第４四半期）、紫コラ（西暦874年3月25日）などの噴出物が確認され、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡は紫コラによる火山災害遺跡としても知られている。



第１図　調査地点図１

新番所後遺跡は、指宿市十二町字尻垂ノ上に位置する。遺跡は、西方にある鰻池マールの外壁をなす標高約280mの山から緩やかに下りてきた山裾、標高32m前後の緩傾斜地に立地し、付近には、橋牟礼川や山王川などの小河川が流れている。北方約0.5Kmには、国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡が、南方約１Kmの地点には成川遺跡があるなど周辺にも多くの遺跡が確認されている。

昭和49年に鹿児島県によって行われた指宿養護学校建設に伴い初めて発掘調査が行われ、弥生時代から古墳時代にかけての遺物が出土した(1)。その後、平成４年に行われた指宿国立病院職員官舎建設工事に伴う発掘調査では、縄文時代晩期から古墳時代にかけての遺物が出土している(2)。縄文時代晩期の遺物には、上加世田式、入佐式、黒川式、刻目突帯文などの数時期の土器をはじめ、扁平打製石斧、磨製石斧、石皿、叩石等良好な資料が得られている。

（文責　渡部）

(1)『新番所後遺跡』鹿児島県教育委員会　1985
(2)『新番所後遺跡Ⅱ』鹿児島県教育委員会1992

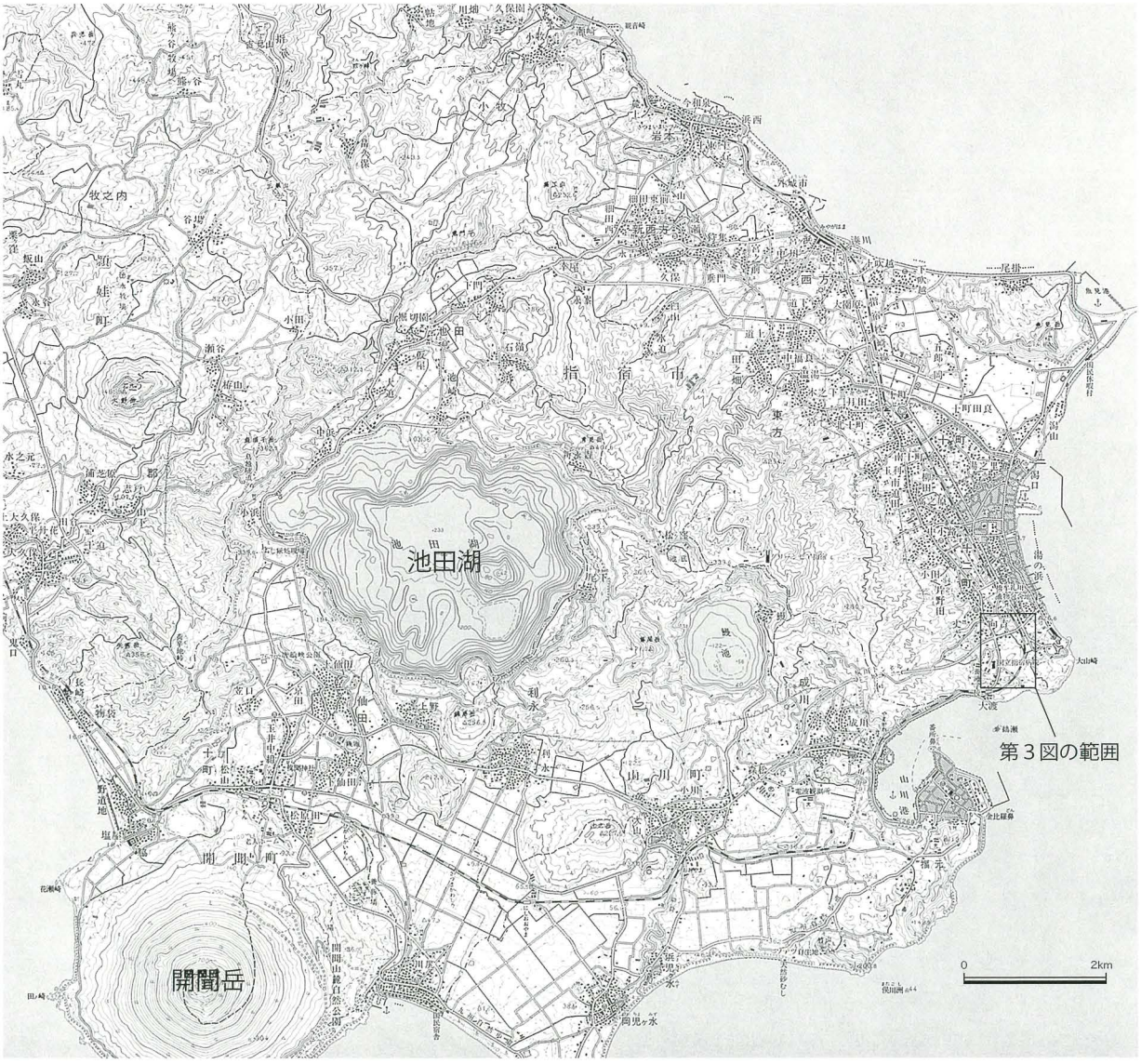
第２節　確認調査に至る経緯と調査の概要

平成18年２月２日、株式会社ニシムタより、指宿市十二町42224番地をはじめとする付近一帯の範囲での新店舗の建設計画に伴い、「周知の遺跡地における土木工事等の届出」（93条）の提出があり、遺跡の有無についての照会があった。鹿児島県文化財課の指導に基づき、遺跡の有無とその詳細を把握するために、工事予定地について９ヶ所のトレンチを設け確認調査を実施した。調査の概要は、下記のとおりである。

■確認調査期間　平成18年２月23日～28日、３月14日～17日
■調査面積　　のべ90㎡
■調査担当　　鎌田洋昭

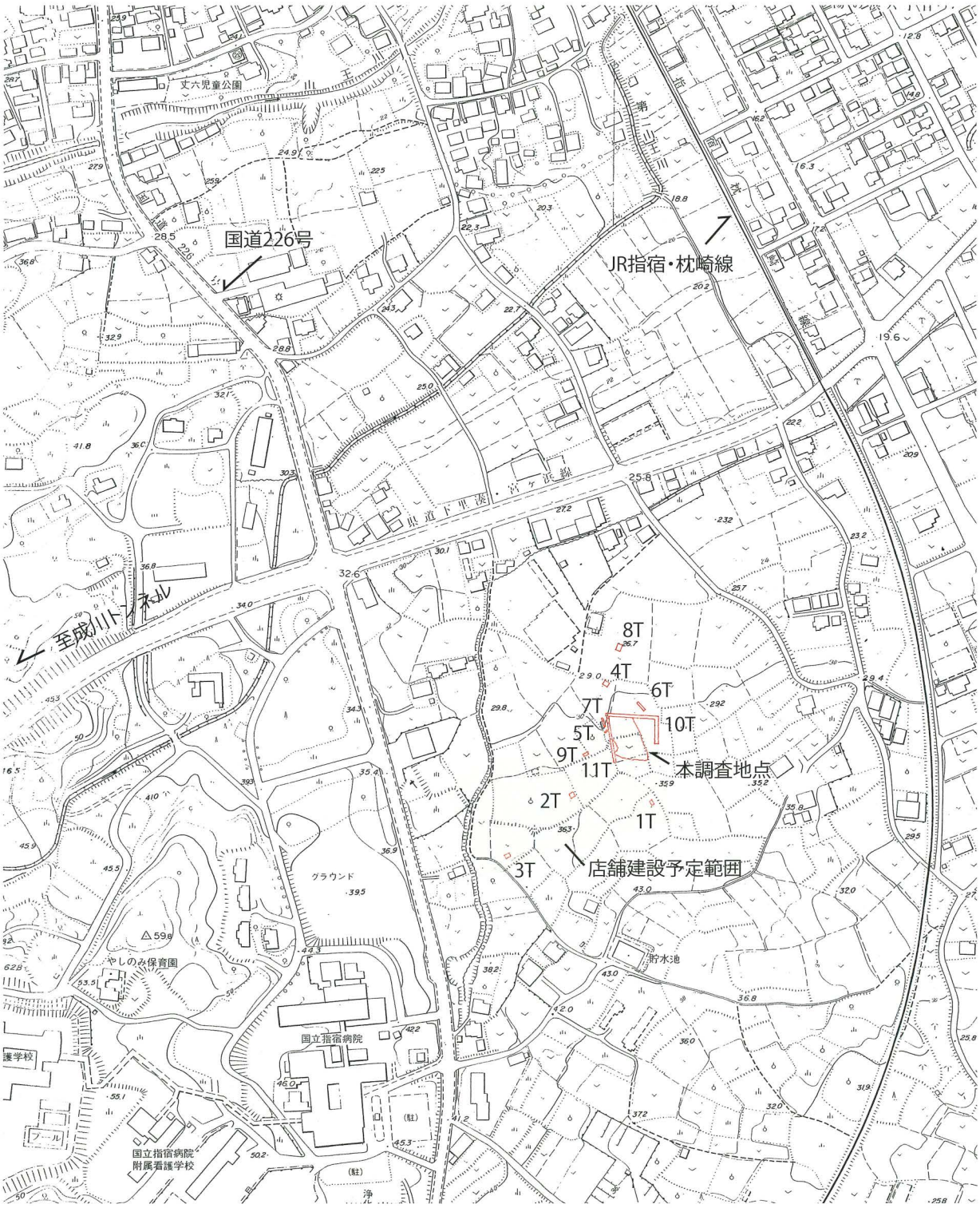
層　序	層　　名	出土遺物	遺構	１Ｔ	２Ｔ	３Ｔ	４Ｔ	５Ｔ	６Ｔ	７Ｔ	８Ｔ	９Ｔ
第１層	耕作土	磁器・陶器	イモ穴	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第２層	褐色土層	無遺物層				○						
第４層a	中世黒色帯	無遺物層			○	○					○	
第４層b	褐色土層	無遺物層				○					○	
第５層	紫コラ				○	○	○				○	○
第６層	暗褐色土層	無遺物層			○	○	○				○	○
第７層	青コラ				○	○	○		○		○	○
第８層	黒褐色土層	無遺物層				○	○		○		○	○
第９層	スコリア混在	成川式土器			◎	◎	○				○	◎
第11層	暗紫コラ				○	○		○			○	
第12層	褐色土層					○	○	○			○	
第13層	黒色土層	縄文土器・石斧	ピット		◎	○	◎	○	◎		◎	
第14層	茶褐色土層				○	○	○				○	
第17層	黄コラ			○	○	○	○	○	○		○	
第18層a	黒色土層	無遺物層		○	○	○	○					
第18層b	茶褐色土層	無遺物層		○	○	○	○	○				
第19層	シラス（池田カルデラ噴出物）			○	○		○	○	○	○		

表１　確認調査結果一覧



第２図　調査地点図２（S＝1/100,000）

確認調査の結果、2・3・4・6・8・9トレンチにおいて、地表面から約1mから2mの範囲で遺物包含層を確認した。2・3・9トレンチでは古墳時代の遺物が若干出土、4・8トレンチでは縄文時代晩期の遺物が出土した。1・5・7トレンチでは、遺物・遺構は見られなかった。なお、6、9トレンチ出土の遺物は、いずれも細片で摩滅が激しく、周辺から流れ込んできたものと考えられる。1・5・6・7・9トレンチの状況については、表1、及び写真2～12を参照いただきたい。2・3・4・8トレンチの状況については、第3章で後述する。　（文責　渡部）



第3図　トレンチ位置図1（S＝1/1,250）

第２章　遺跡の層序

新番所後遺跡の層序は、開聞岳火山灰が鍵層となっている。基本的な堆積状況は、近接する橋牟礼川遺跡と同様であることから、橋牟礼川遺跡の基本層序に対比する形で層名を決定した。以下に今回の調査で確認した層について、橋牟礼川遺跡の基本層序と対比しながら記述する。

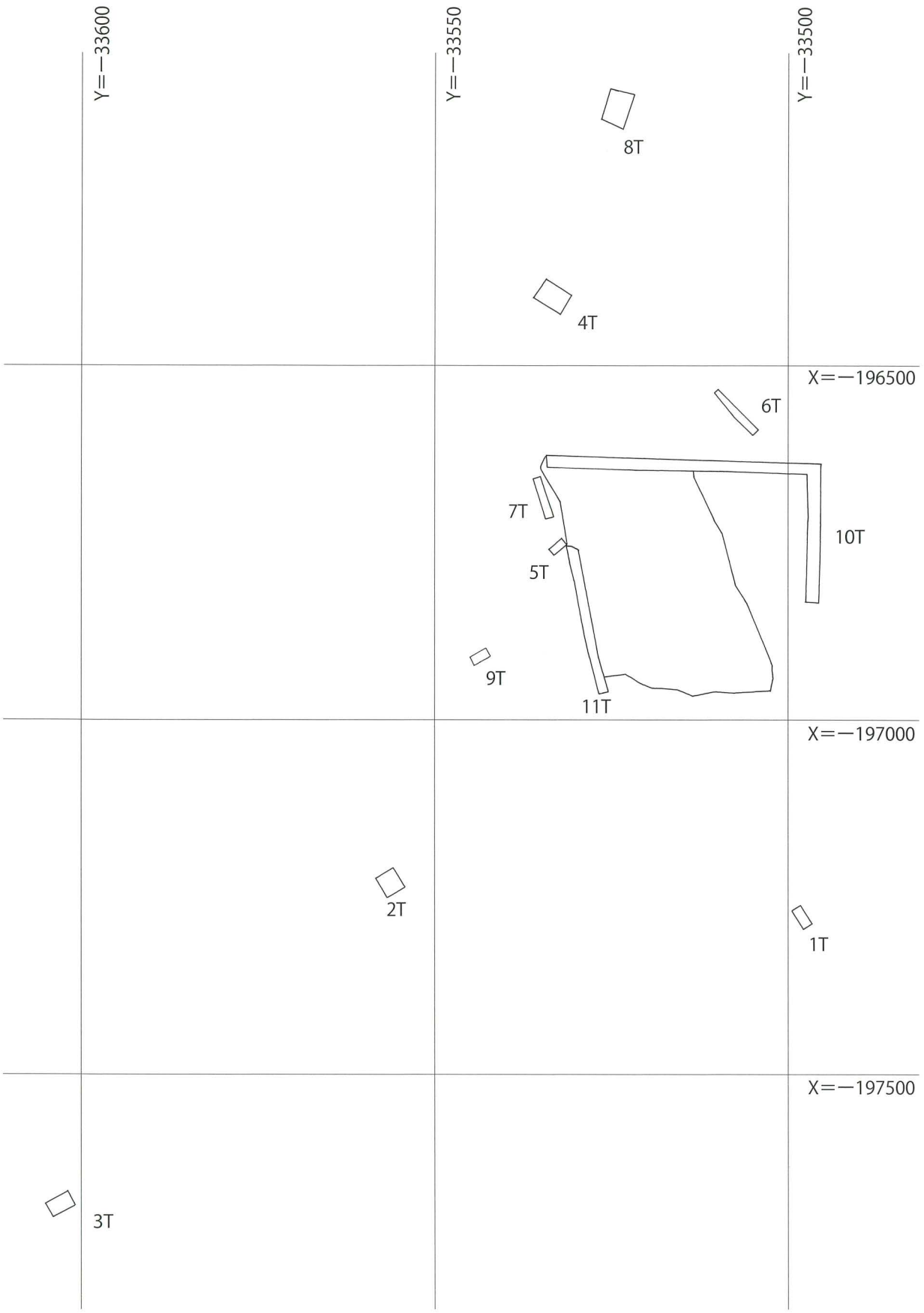
第４図　層位模式柱状図

第３章　調査の成果

第１節　２・３・４・８トレンチの概要

１．２トレンチ

１トレンチから北西へ約60mの地点に４×5.5mの範囲で２トレンチを設定し掘削した。表層から約１m掘削したところで、第５層を確認、以下、７層、11層、12層 a'の開聞岳火山灰を挟みながら、第９層、第13層より遺物の出土が見られた。第９層出土の成川式土器は、いずれも細片で摩滅しており、トレンチ周辺から流れ込んできたものと考えられる。た。また、13層出土の土器も胴部の細片で形式は特定できなかった。遺物の分布状況は第６図のとおりである。現地表より約２mのところで池田湖火山灰に達したため、その時点で調査を終えた。



第５図　トレンチ位置図２（S＝1/800）

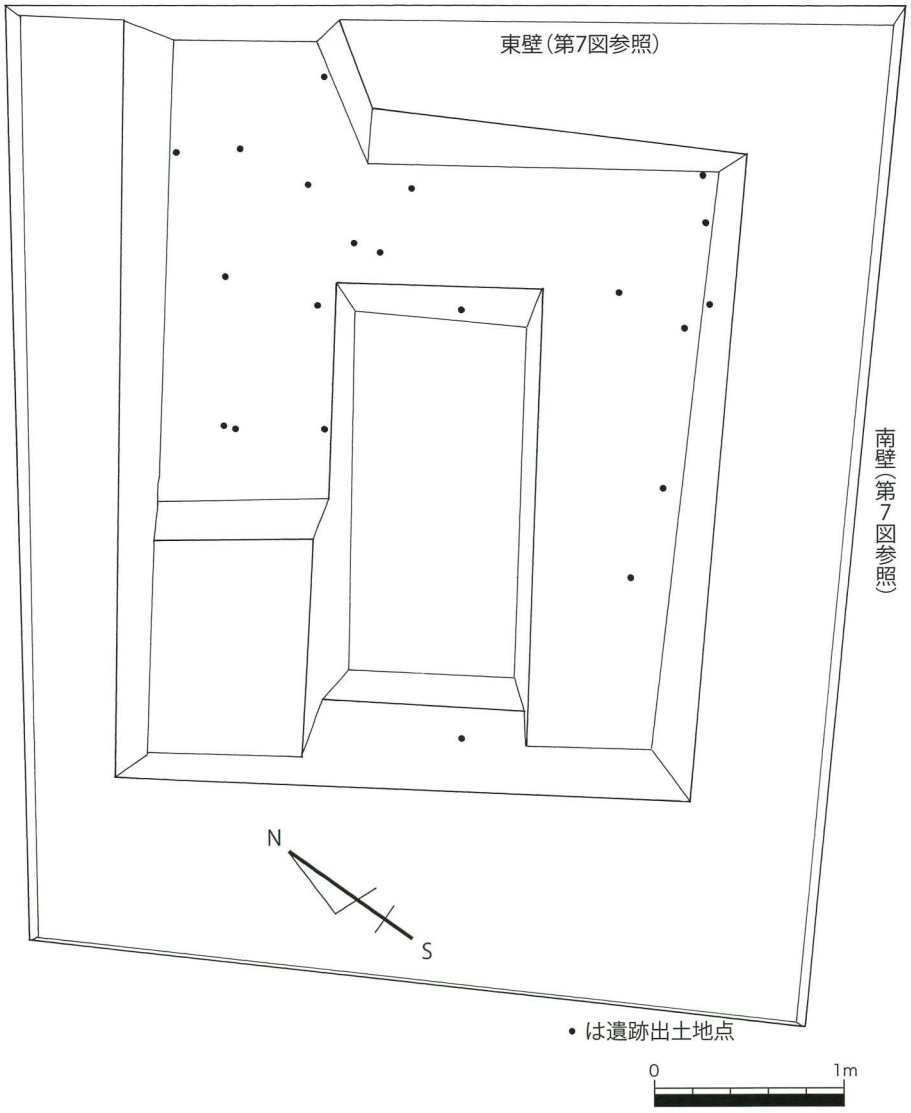
２．３トレンチ

２トレンチから南西へ約60mの地点に４×5.5mの範囲で３トレンチを設定し掘削した。表層から約２m掘削したところで、第５層を確認、以下、２トレンチ同様に７層、11層、12層 a'の開聞岳火山灰を挟みながら、包含層を確認した。第９層より２点の成川式土器の出土を見たが、いずれも細片で摩滅が激しい。トレンチ周辺から流れ込んできたものと考えられる。現地表より約３mのところで第13層を確認したが、第9層以外の包含層からは、遺物の出土はなかった。

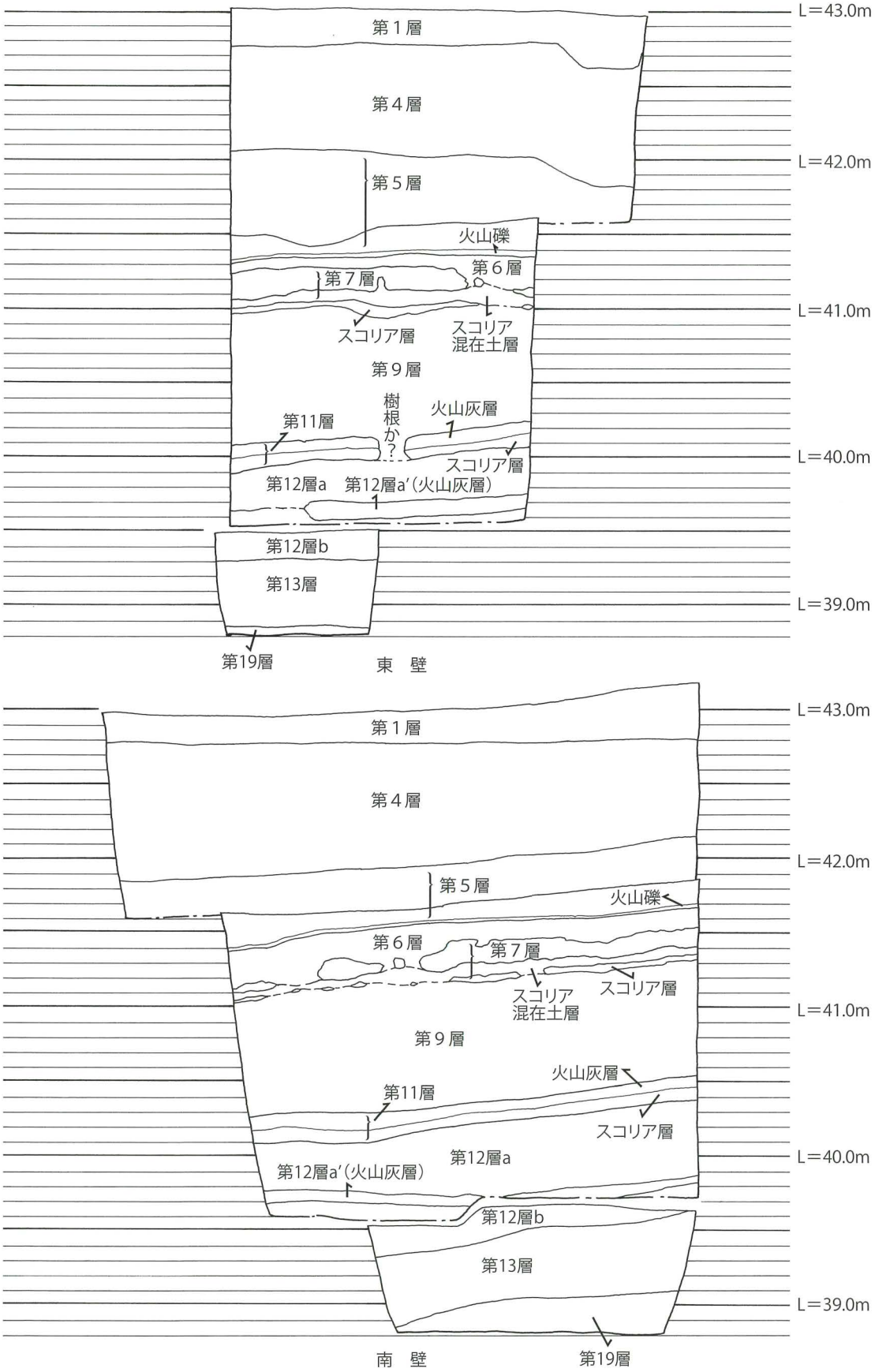
３．４トレンチ

３トレンチから北東へ約170mの地点に３×4.5mの範囲で４トレンチを設定し掘削した。表層から約40cm掘削したところで、第５層を確認、以下、５層、７層、17層、19層の開聞岳火山灰を確認、第13層より土器片及び打製石斧の出土が見られた。また、13層を埋土とするピット２基を確認した（第9図参照）。ピット１は、13層の中程から約90ｃｍ掘り込まれ、底面は第19層に達していた。

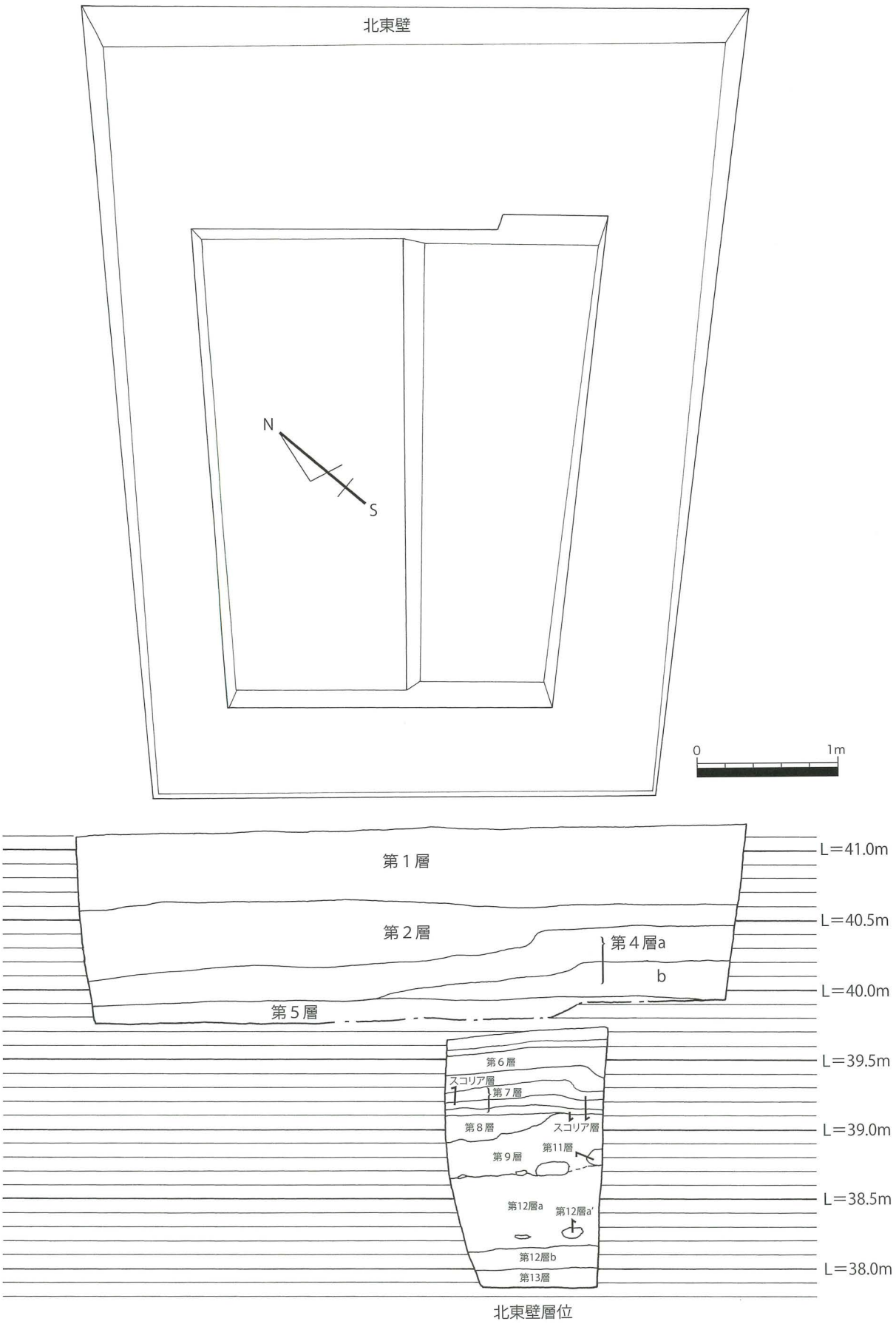
第10図No.１は、流紋岩製の扁平打製石斧である。両肩部に抉りが認められる形態を呈している。ｂ面中央部には、素材剥片のポジ面が大きく残されている。刃部はやや尖頭状を呈し、使用による摩滅が認められる。



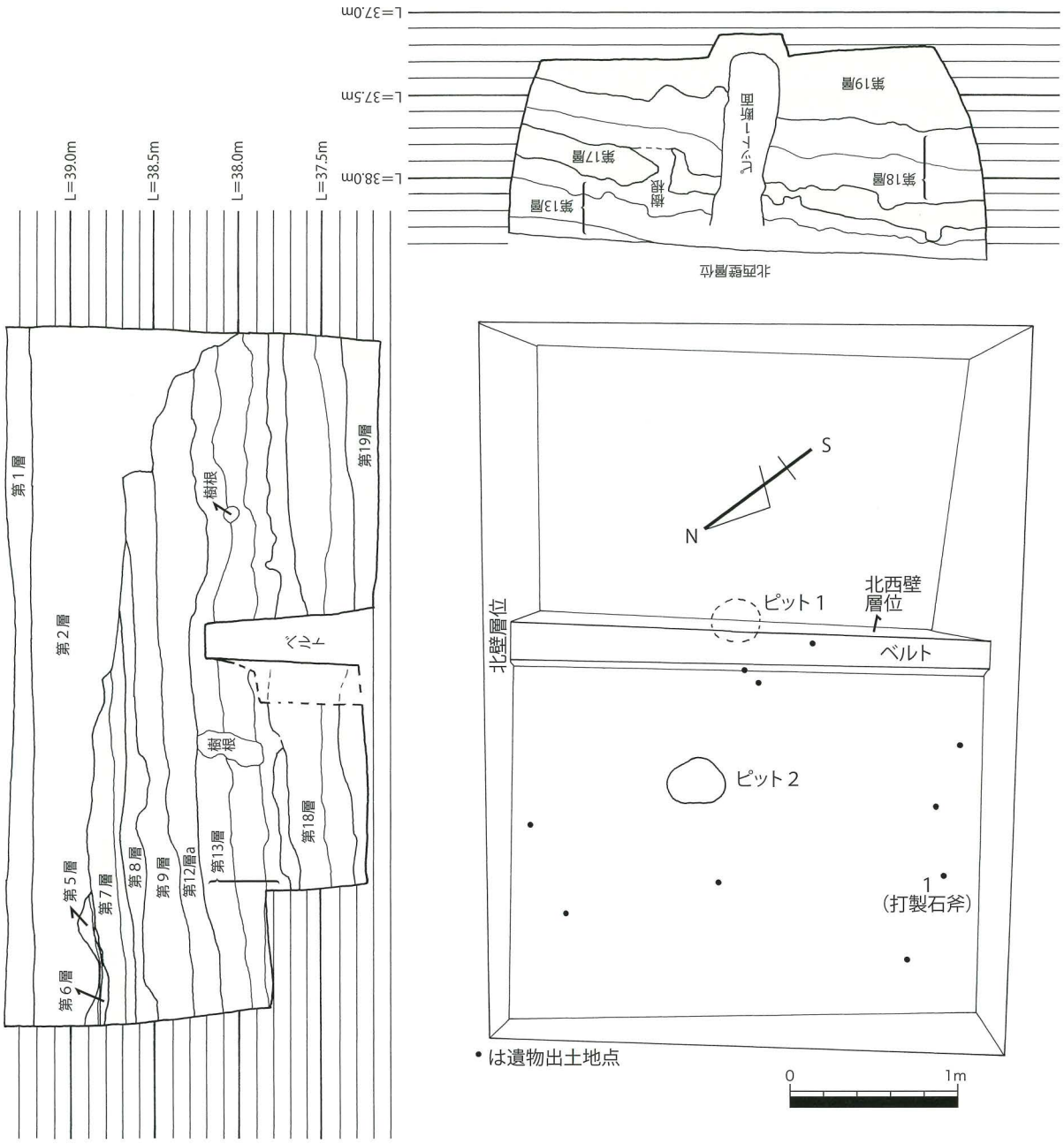
第６図　２トレンチ完掘状況図（S＝1/40）



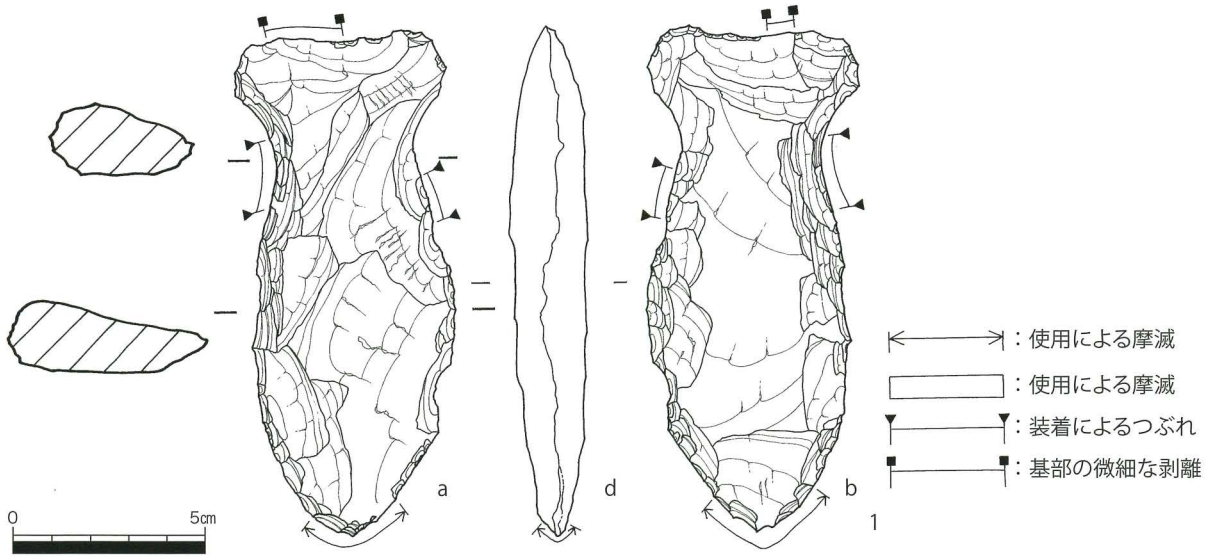
第７図　２トレンチ層位断面図（S＝1/40）



第８図　３トレンチ完掘状況図及び層位断面図（S＝1/40）



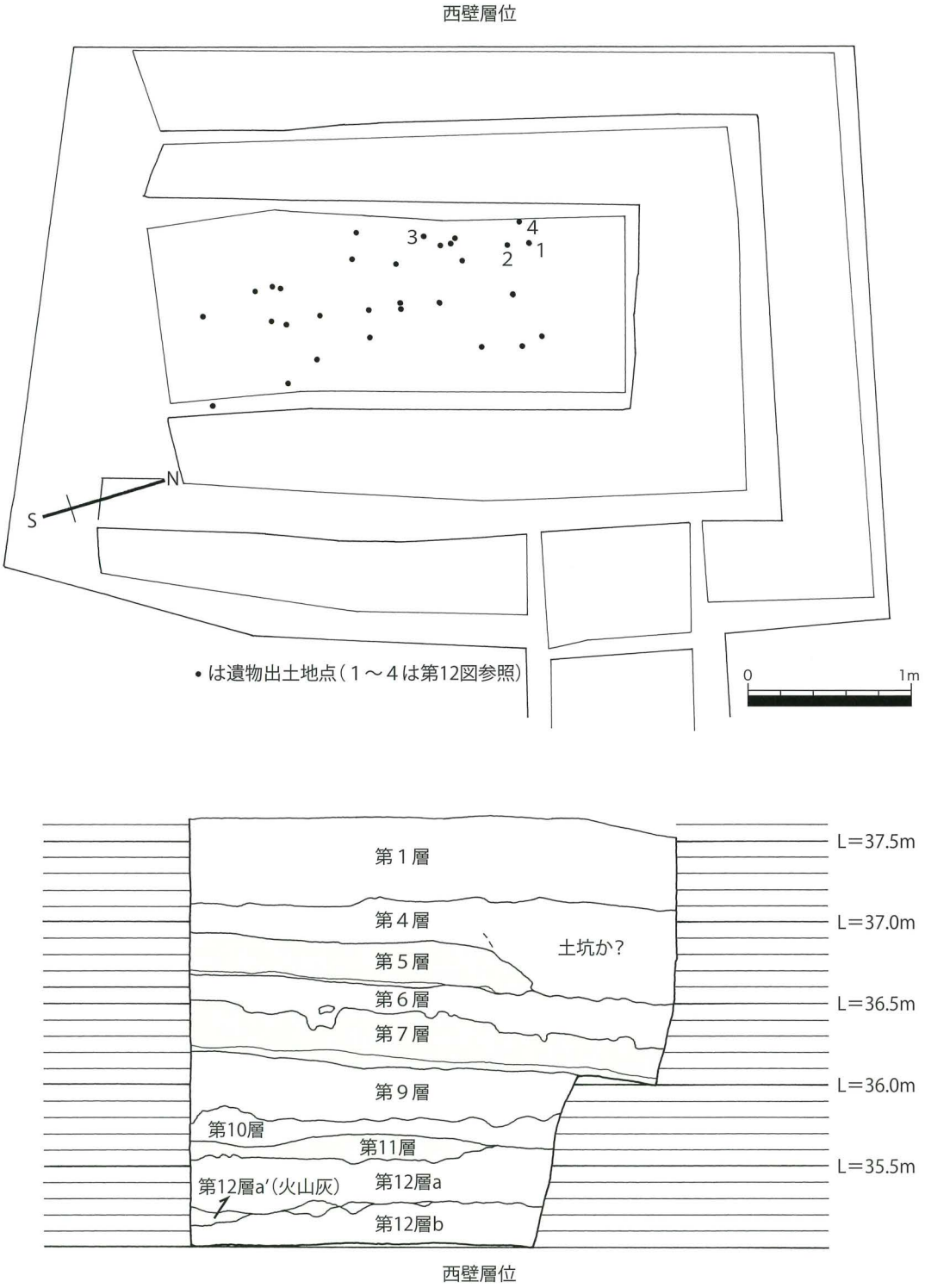
第９図　４トレンチ完全掘状況図及び層位断面図（S＝1/40）



第10図　４トレンチ出土遺物実測図（S＝1/2）

4．8トレンチ

4トレンチから北東へ約24mの地点に5×3.5mの範囲で8トレンチを設定し掘削した。表層から約80cm掘削したところで、第5層を確認、以下、7層、11層、12層aの開聞岳火山灰を挟みながら、第13層より土器片の出土が見られた。層位、遺物の出土状況は第11図を参照されたい。以下に図化した4点を記す。

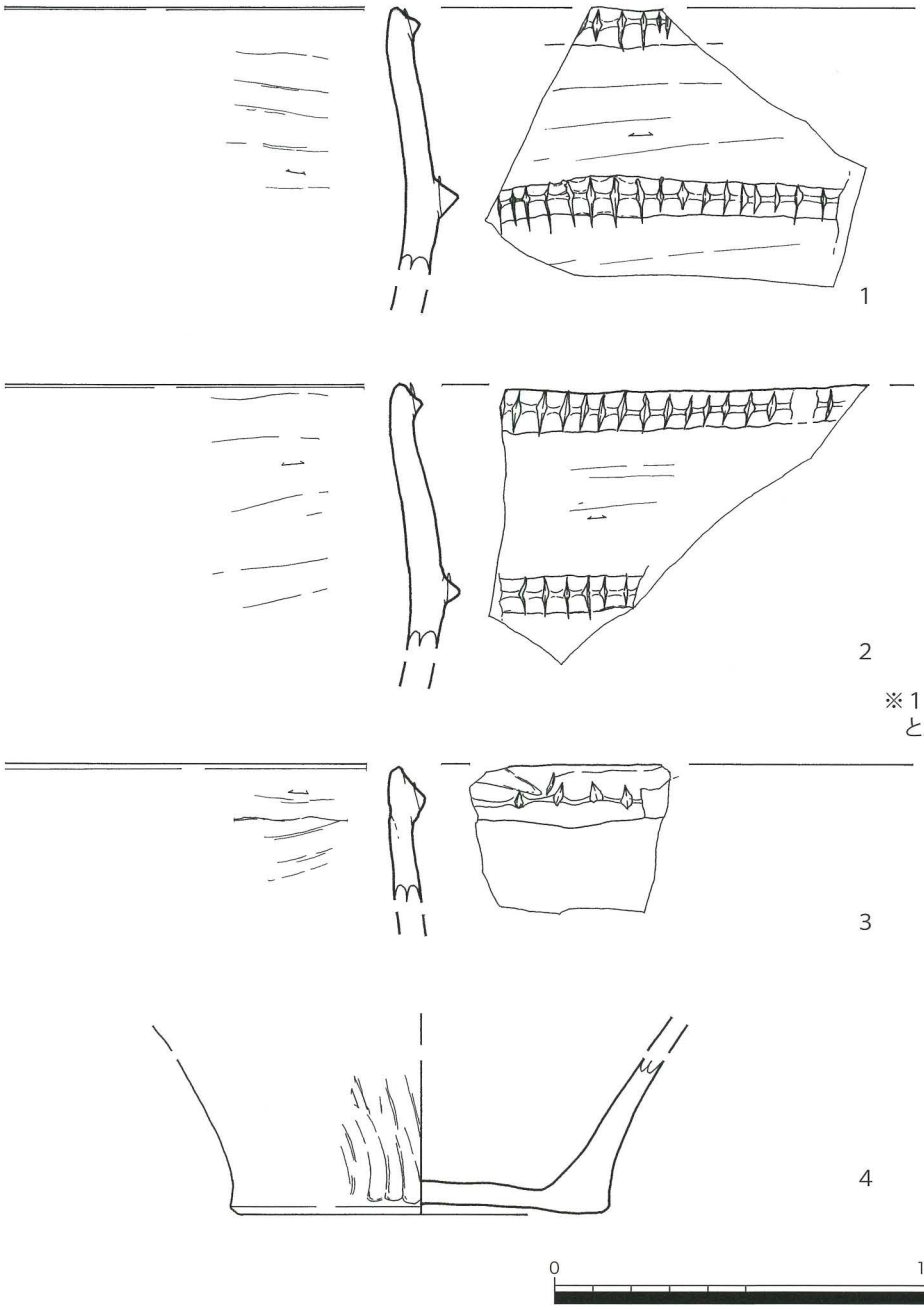


第11図　8トレンチ完掘状況図及び層位断面図（S＝1/40）

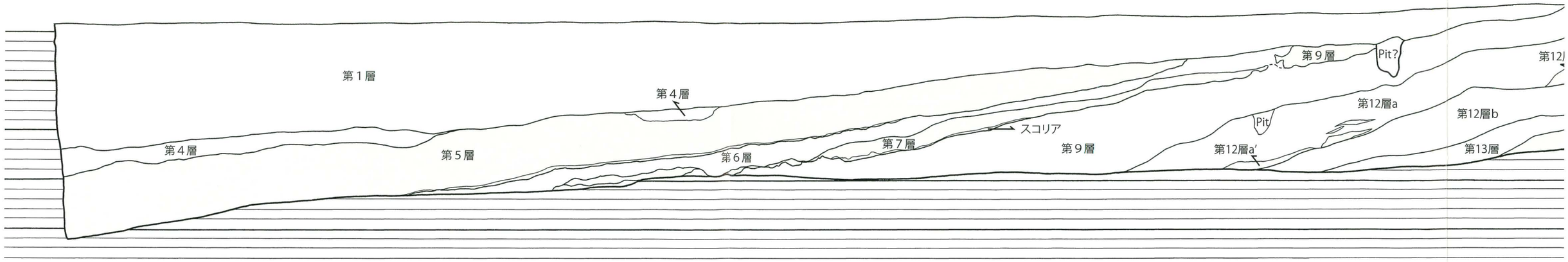
第12図No.１、２は、刻目突帯文土器の一群に属する深鉢の口縁部～突帯部の破片である。口唇部端部は丸みを帯びる。器形は、口縁部が直立からやや内傾するものと思われる。突帯部の刻み目は、幅の狭い板状の工具で鋭く施されている。接合はしないが、器形、色調、焼成の状況、刻み目の類似から同一固体と推測される。

第12図No.３は、刻目突帯文土器の一群に属する深鉢の口縁部の破片である。口唇部端部は丸みを帯びる。器形は、口縁部が直立からやや内傾するものと思われるが、破片が小さく判然としない。口縁部上位の内面には接合痕が残る。No.１、２の刻み目と比べると、刻みが鈍く小さい、爪状の痕跡をみせるもので、指刻みを想起させる。

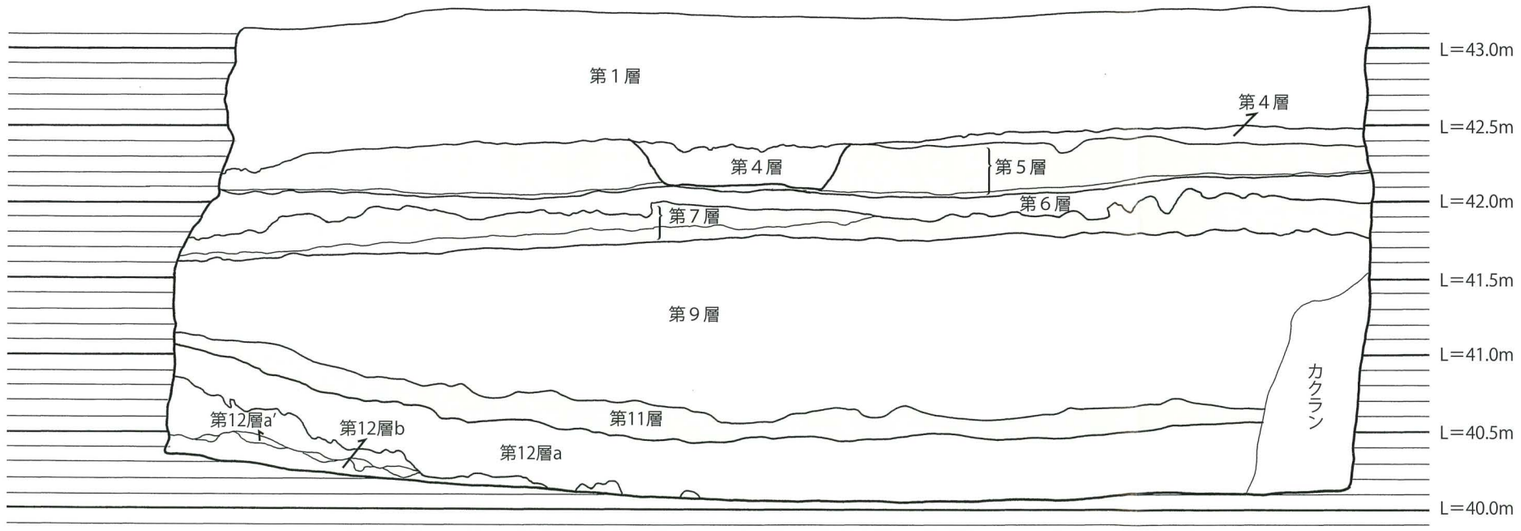
第12図No.４は、深鉢の底部の破片である。底面は、わずかに上げ底状を呈し、やや開き気味に胴部へと続く。器壁は、５mm前後と薄い。　（文責　渡部）

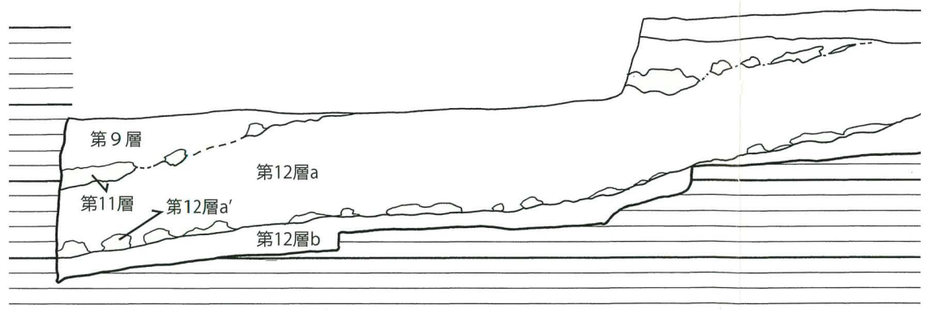


第12図　８トレンチ出土遺物実測図（S＝1/2）



調査区東壁





調査区南壁

第13図　本調査地点層位断面図（S＝1/40）

■新番所後遺跡本調査編■

第１章　調査区の設定と調査の概要

確認調査の結果を受け、株式会社ニシムタと協議を行い、可能な限りの建設位置の変更を依頼した。当初計画より、建物の建設位置を変更するなど、遺跡地の保存を図るため協力をいただいたが、４・８トレンチに近い建設予定範囲の北東隅部分については、工事によって破壊されるため本調査を実施することとなった。

当初は調査面積を550㎡で計画していたが、包含層の広がりに伴い最終的な調査面積は、約750㎡となった。

■調査期間　平成18年５月15日～平成18年６月26日

■調査面積　約750㎡

■調査担当　中摩浩太郎・渡部徹也

調査に当たり、まず旧地形の状況を把握するために、本調査範囲の外辺に沿って10トレンチ、11トレンチを設定し、重機により掘削した。その結果、旧地形は概ね南東から北西に向かって傾斜しており、かつ、調査区内には、丘陵部に入り込んだU字の谷地形が埋没している可能性がつかめた。

第12層ｂまで掘削した段階で、南西側丘陵上から弥生時代中期の土器が大量に廃棄された状況が見られた。谷地形に沿うような形で弥生中期に属するピット群を検出した。また、調査区北西部分から、第12層ｂの上面で第９層を埋土とする古墳時代に帰属する竪穴式住居一軒を検出した。

（文責　渡部）

第２章　調査区の成果

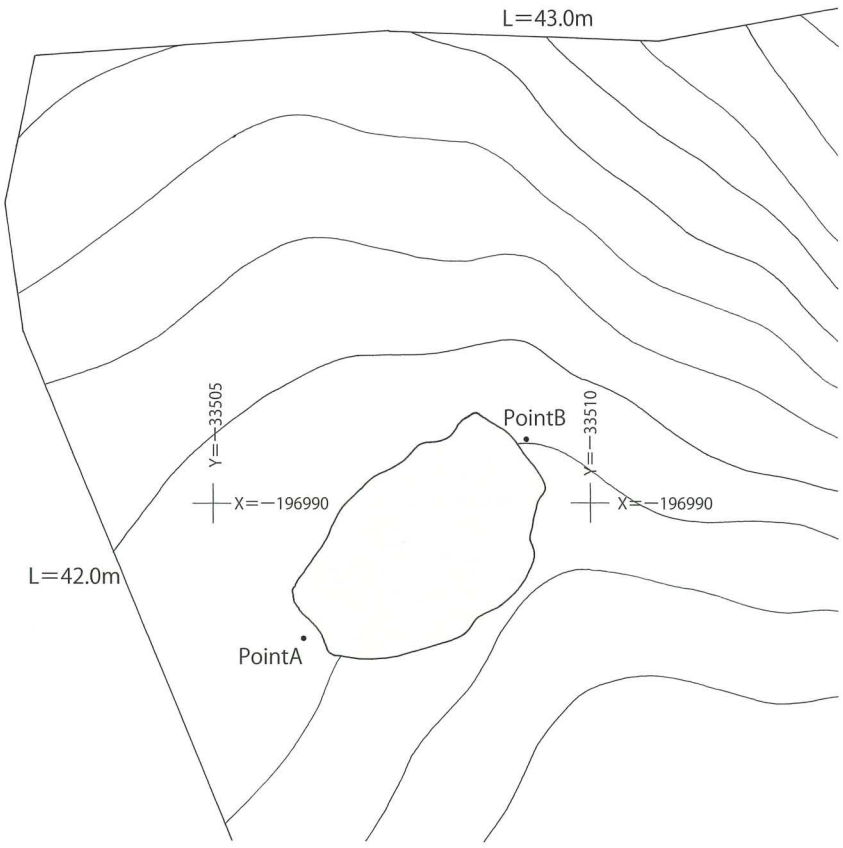
第１節　古墳時代

１.遺構について

竪穴住居跡（ＳＫ01）

９層中で検出した。北西に向かって傾斜するＵ字形の谷地形の東側斜面に立地するもので、調査区内ではこの１基のみが発見された。

長軸を略東西にとり、長軸3.5ｍ、短軸2.35ｍの不整長楕円形を呈する竪穴に、主柱穴２（A,B）を有する。竪穴の深さは、検出面から30cm程度である。当初の掘り方に平均12cm程度の埋め土をし、床面を整形したものである。主柱穴は、斜面下側の壁面に接して設けられる。柱間は95.5cmである。柱穴の間に、幅65cm・奥行き１



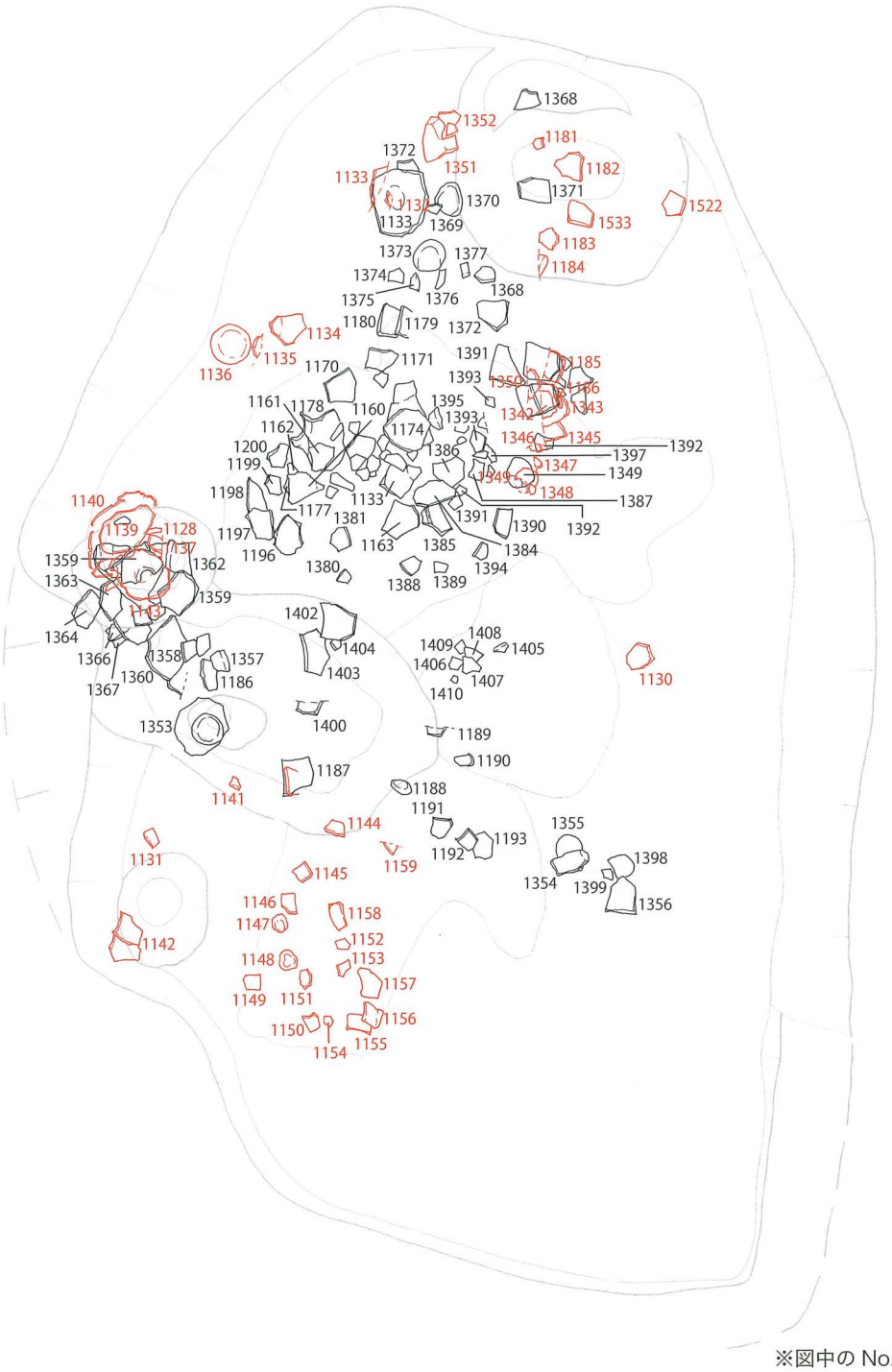
第14図　古墳時代竪穴式住居検出位置図（S＝1/100）

mの土坑炉が設けられる。叩き締められた炉面は、緩やかに壁面に向かって下っていき、最大で深さ18ｃｍ程度となる。検出時に底部が赤変していた。炉床には、小ピットが１穴検出された。

炉の南隣には、深さ12ｃｍ程度の浅い三角形の土坑が接して設けられている。埋土は灰混じりの土壌で

第15図　古墳時代竪穴式住居遺物出土状況図１（S＝1/20）

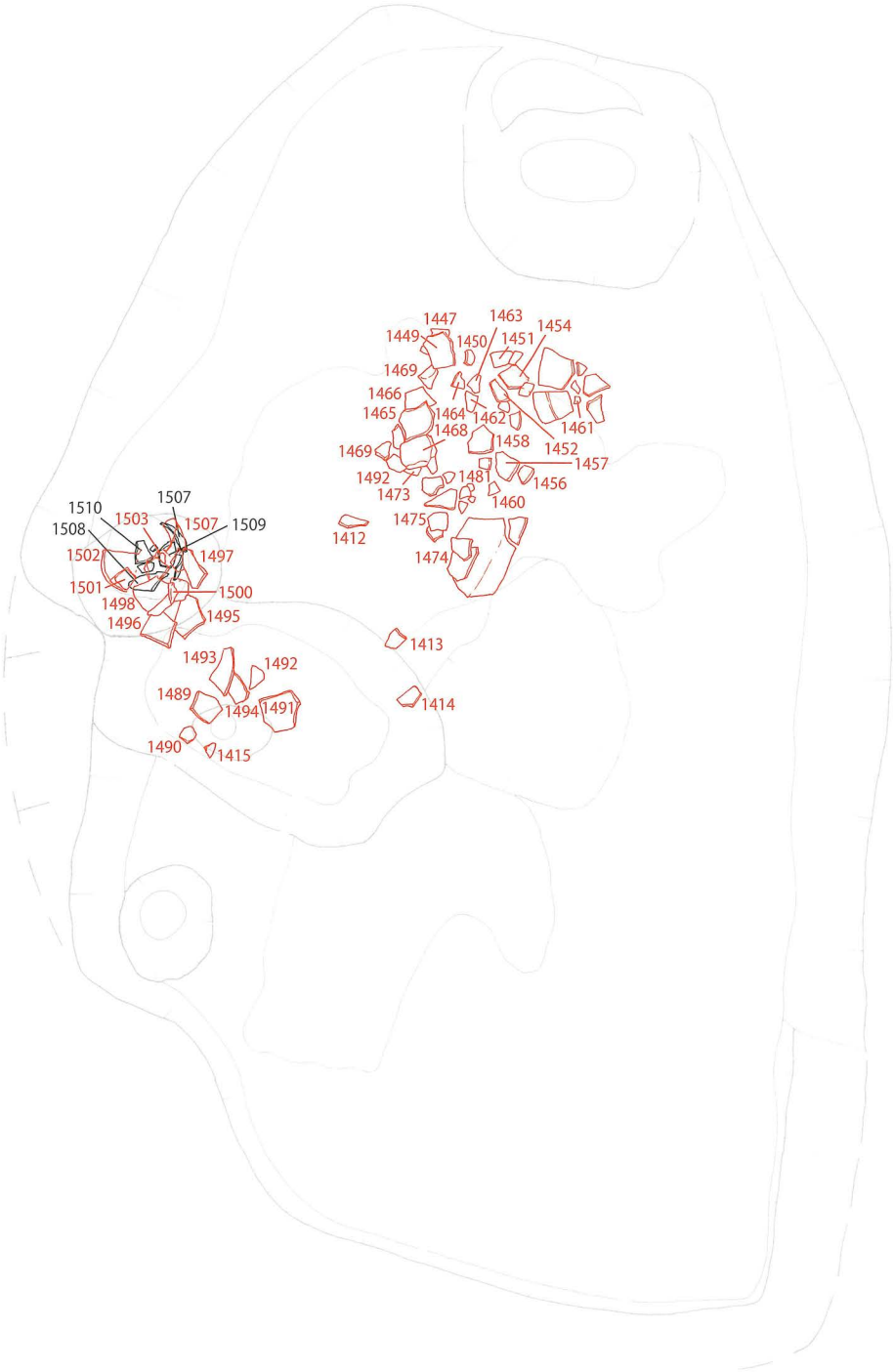
あり、「灰溜め穴」と見られる。土坑炉と灰溜め穴の東西の床面には貼り床が施されている。断面観察では径１ｃｍ未満の小礫が９層土と12層土を合わせた土壌に混ぜ込まれ、叩き締められた貼り床層が１ｃｍ程度見られた。床面の東隅には幅65ｃｍ・奥行63ｃｍ・深さ37ｃｍの隅丸方形の土坑が設けられている。



※図中の No. は取り上げ No.

第16図　古墳時代竪穴式住居遺物出土状況図２（S＝1/20）

さて、竪穴の形状は斜面上側の長辺が直線状であり、斜面下側の長辺は主柱穴に対して収斂されるような不整形な形状となる。平面形と柱配置から、この住居は傾斜を利用した片屋根の構造であったことが想定される。主柱穴は深さが、A約75ｃｍ、B約35ｃｍと不揃いである。埋土は、傾斜上からの斜堆積であり、埋



※図中の No. は取り上げ No.

第17図　古墳時代竪穴式住居遺物出土状況図３（S＝1/20）

土中遺物は、埋土２中が多く、床面直上のものもある。埋土中遺物の帰属時期は、口縁が外反気味に直立する笹貫式の時期に比定できる。なお、埋土中出土遺物と後述する土器埋納遺構中の遺物の中に、受熱により変色したものがいくつか含まれていることに注意したい。

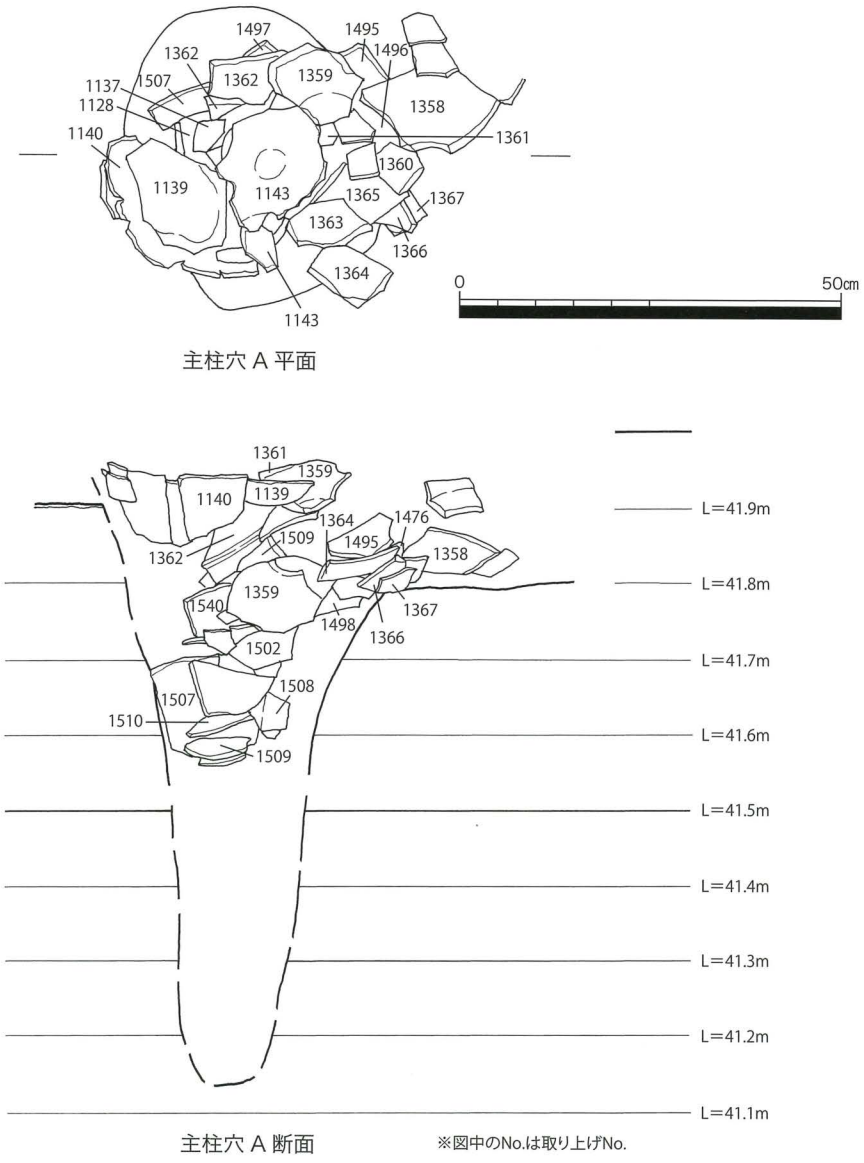
土器埋納遺構

主柱穴には、土器埋納が行われている。埋納された遺物は、壷2（掲載番号18・33）・甕４（28・29・30・31）・高杯１（33）・礫１である。埋納方法は、例えば高杯33は、脚部を取り除き、杯部を口縁部と杯部に分割した上で、口縁部を土坑の底部に埋納、杯を土坑上部に逆位に置いている。壷は底部のみを埋納し、甕については、分割した底部を土坑最下部に正位に置いているものがあるとともに、胴部破片を土坑内に詰め込むような埋納方法をとっている。その後に、最上位に礫（取り上げNo.1139）を載せて埋納を完了している。

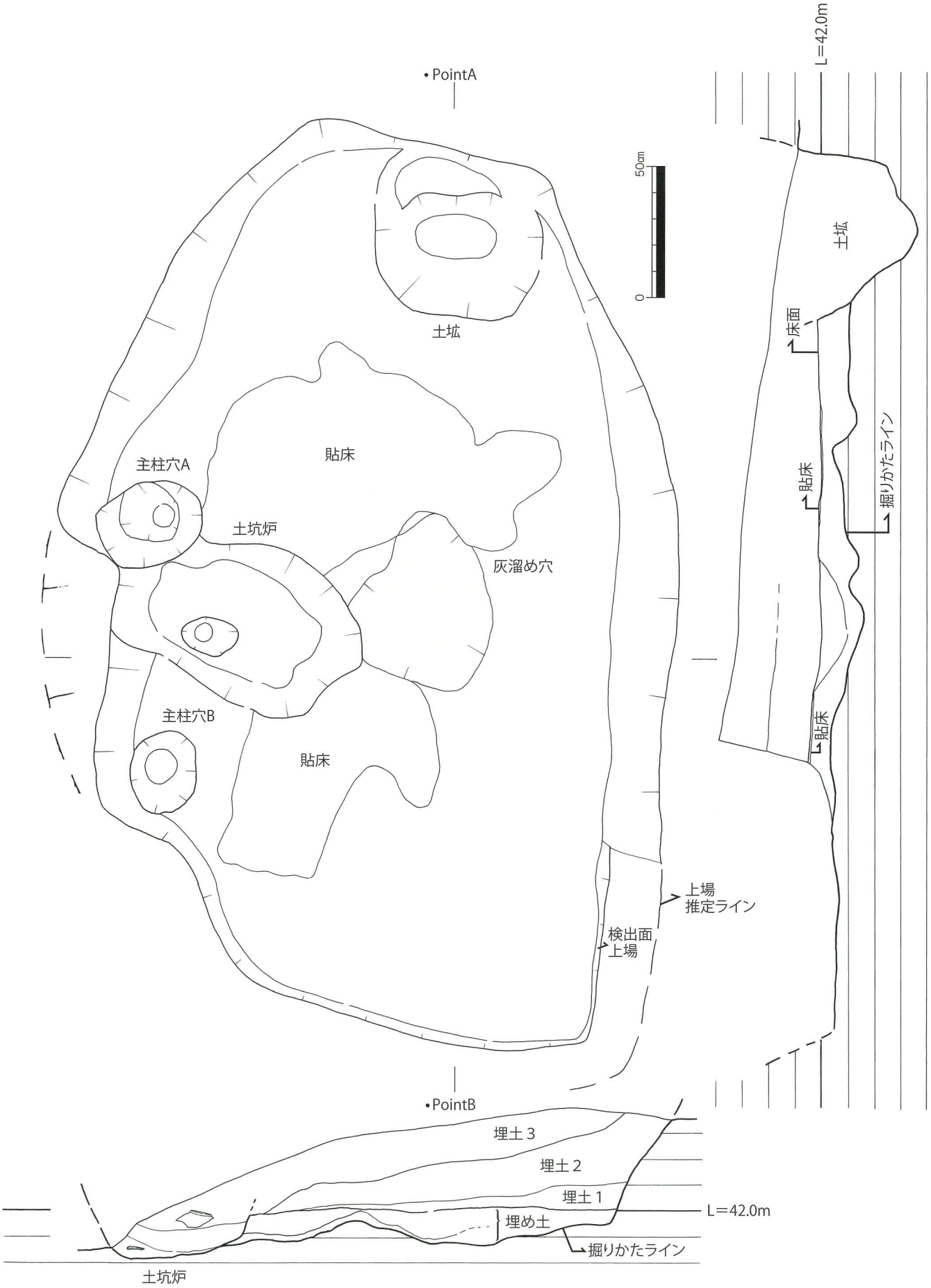
古墳時代における埋納遺構の例は、市内では向吉遺跡の事例があり、住居内の埋納の例として、姶良町の萩原遺跡の事例がある。これらは土器を「四段重ね」状態で埋納しており、本例と異なっている。一方、向吉遺跡では、高杯の脚部をはずし、杯部のみを逆位に置く。萩原遺跡では甕形土器の底部のみを埋納するなど、土器本来の形状を壊した上で埋納している。今例でも共通している。ただ、埋納の最終段階で礫を設置する例は、他の事例では見られない。向吉遺跡においては、自然石等を円弧状に配列した中に埋納遺構が含まれている。よって、埋納祭祀が自然礫を用いた祭祀の一端を担ったことが起想される。今回の事例もこの延長上にあるものと言えるかもしれない。

さて、検出状況からは、埋土３が被覆する段階において埋納が行われたことが伺える。また、甕形土器は、笹貫式の形態を残しながら、口縁部が伸びており、住居内遺物よりやや時期的に下る可能性がある。

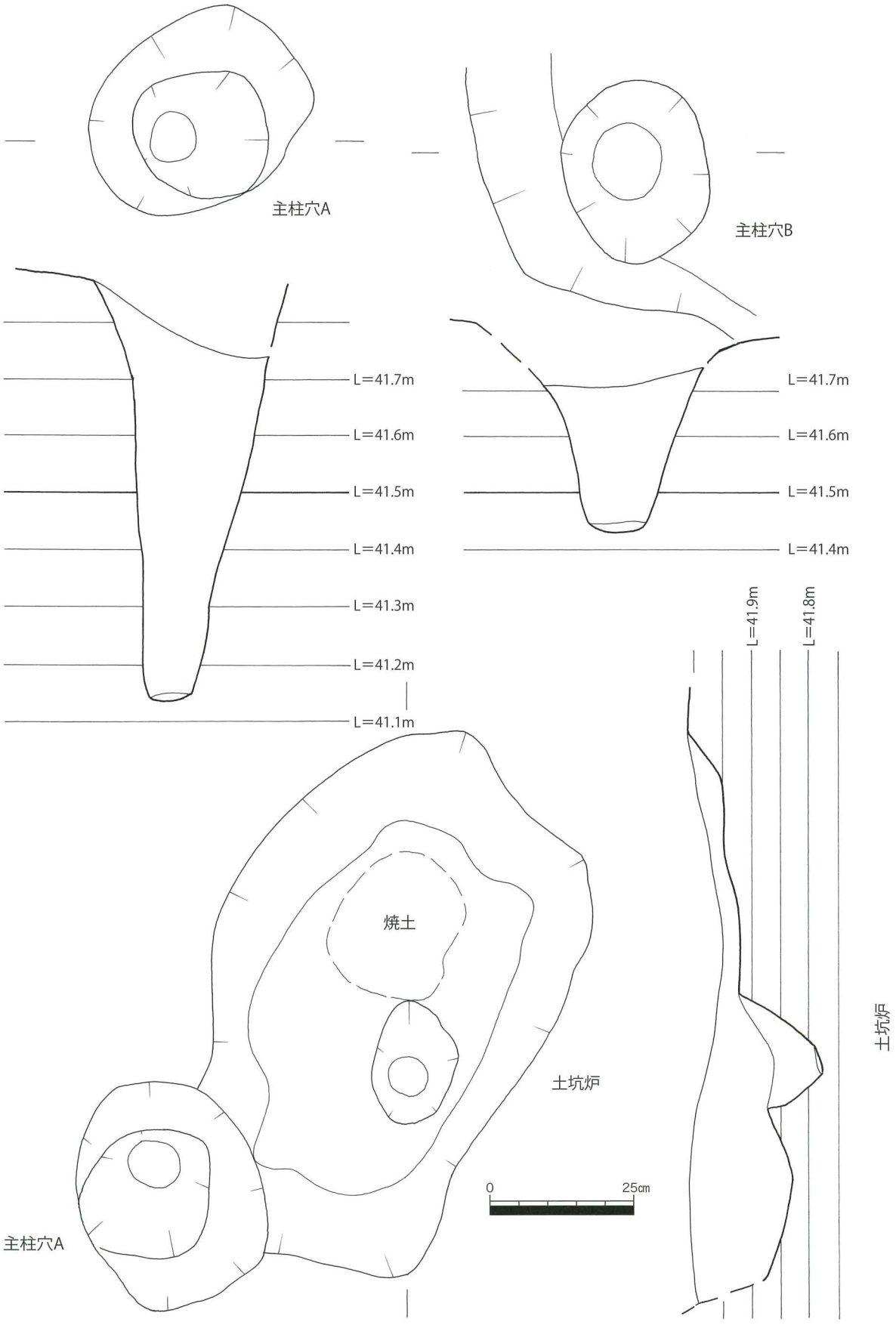
（文責　中摩）



第18図　主柱穴A内遺物埋納状況図（S＝1/10）



第19図　古墳時代竪穴式住居平・断面図（S＝1/20）



第20図　古墳時代竪穴式住居主柱穴、及び土坑炉平・断面図（S＝1/10）

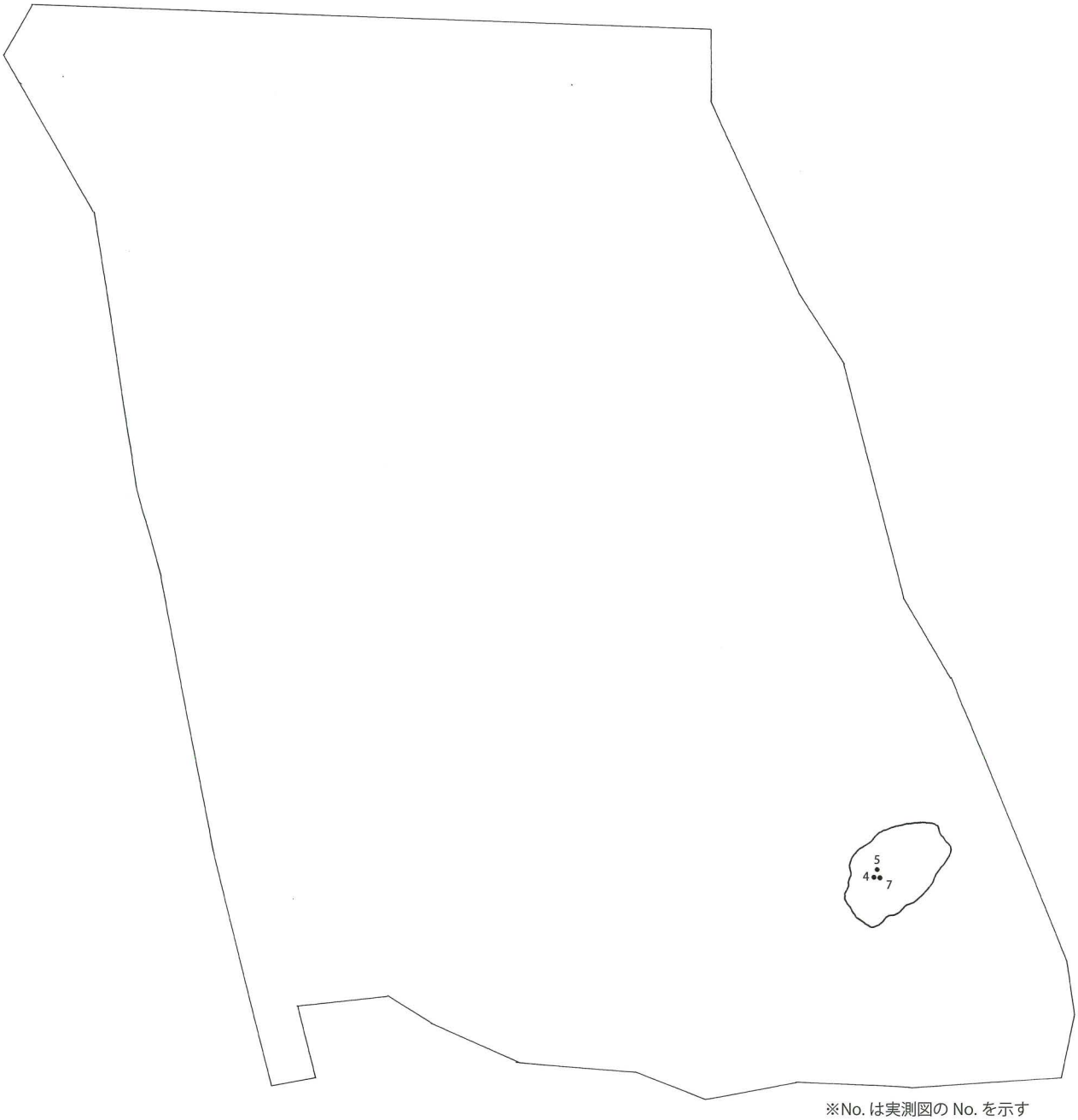
2．遺物について

第９層は、成川式土器を主体とする包含層で、甕、壷、坩、高杯などが認められる。遺構埋土中からも多量の遺物が出土したが、残存部位や破片の大きさ、遺物の特徴を考慮し、34点を図化した。以下、包含層中出土遺物と埋土中出土遺物とに分けて記述する。

包含層中出土遺物

No. 1 は、甕形土器の底部の破片である。底部は上げ底となる。

No. 2 は、鉢形土器の底部の破片である。復元底径は、11.1ｃｍを測る。底部は平底で、器壁が厚く胴部に向かいラッパ状に開く。



※No. は実測図の No. を示す

第21図　古墳時代遺物出土状況（S＝1/200）

No. 3は、鉢形土器の底部～胴部の破片である。復元底径は、7.6ｃｍを測る。底部は平底で、胴部に向かいラッパ状に開く。

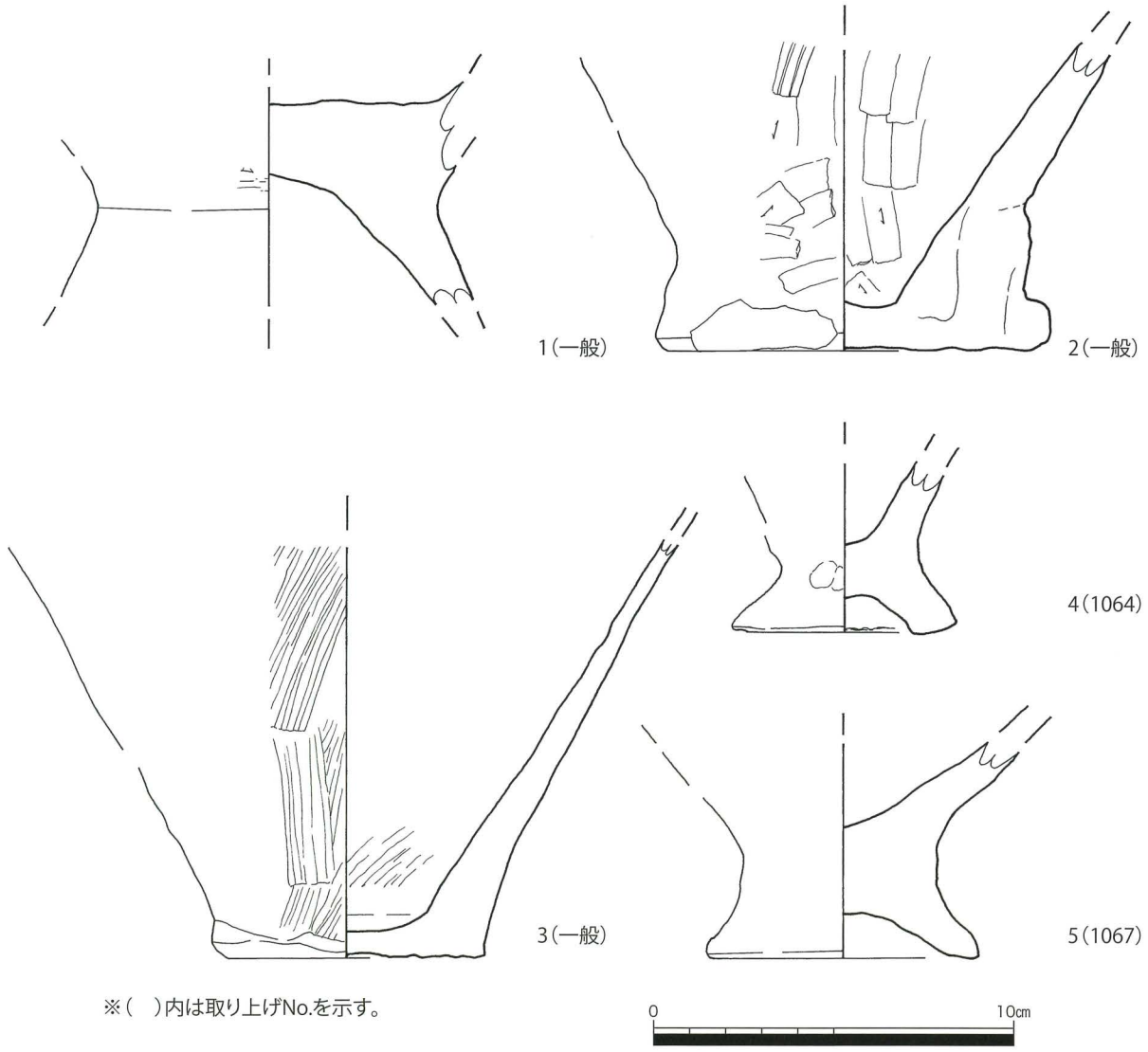
No. 4は、鉢形土器の底部の破片である。復元底径は、6.3ｃｍを測る。底部は上げ底で、見込み部の断面はカマボコ状を呈する。

No. 5は、鉢形土器の底部の破片である。復元底径は、7.7ｃｍを測る。底部は上げ底で、見込み部の断面はマウンド状を呈する。

竪穴式住居跡埋土出土遺物

No. 6は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は、30.1ｃｍを測る。口縁部はやや外反し、口唇部は、舌状をなす。口縁部下に一条の絡状突帯がめぐり、突帯の両端は、片方の端部が下に垂れて接しない。

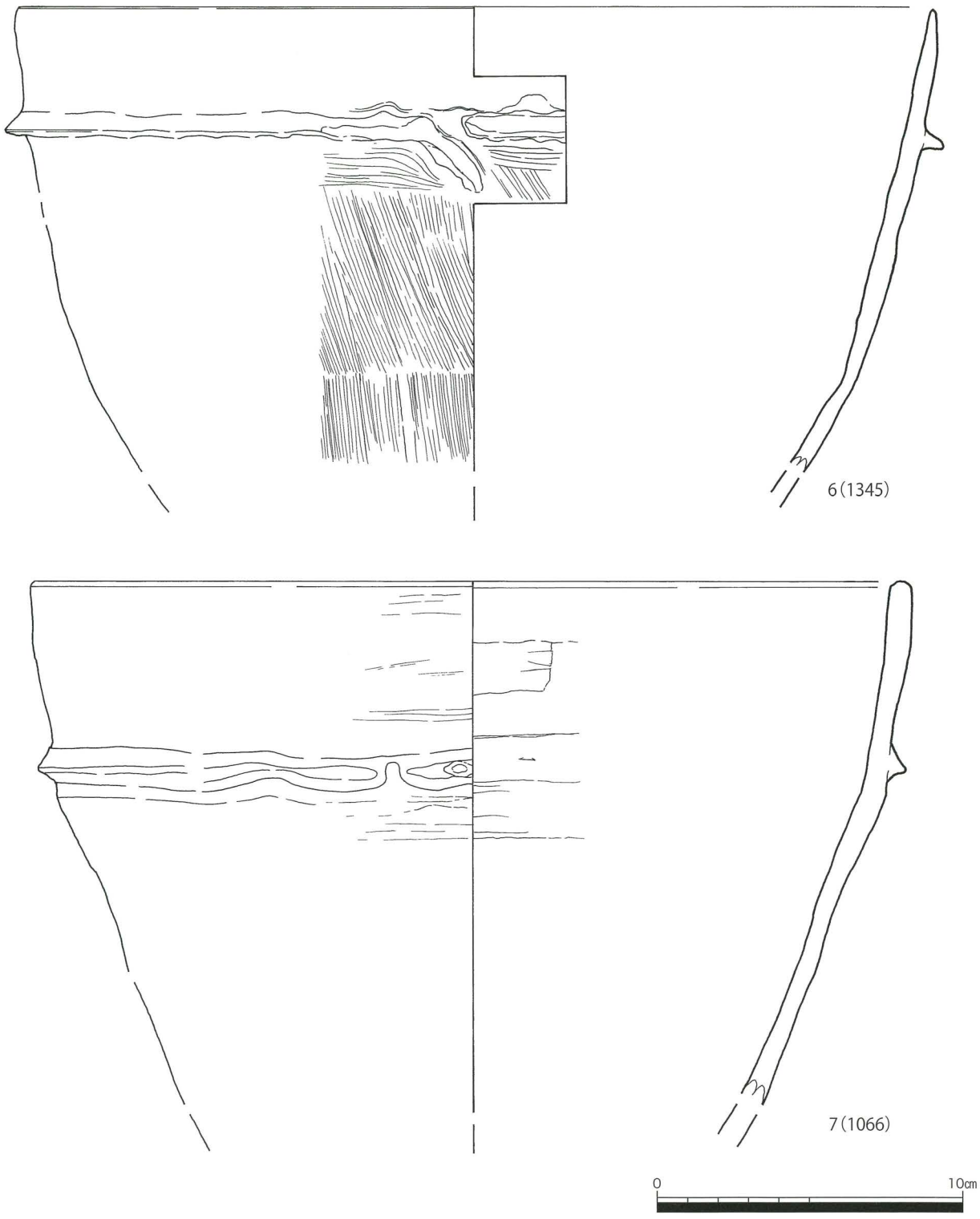
No. 7は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は、28.8ｃｍを測る。口縁部はほぼ直行する。口唇部付近は肥厚し、端部は丸みを帯びる。口縁部下に一条の絡状突帯がめぐり、一部途切れるところがある。



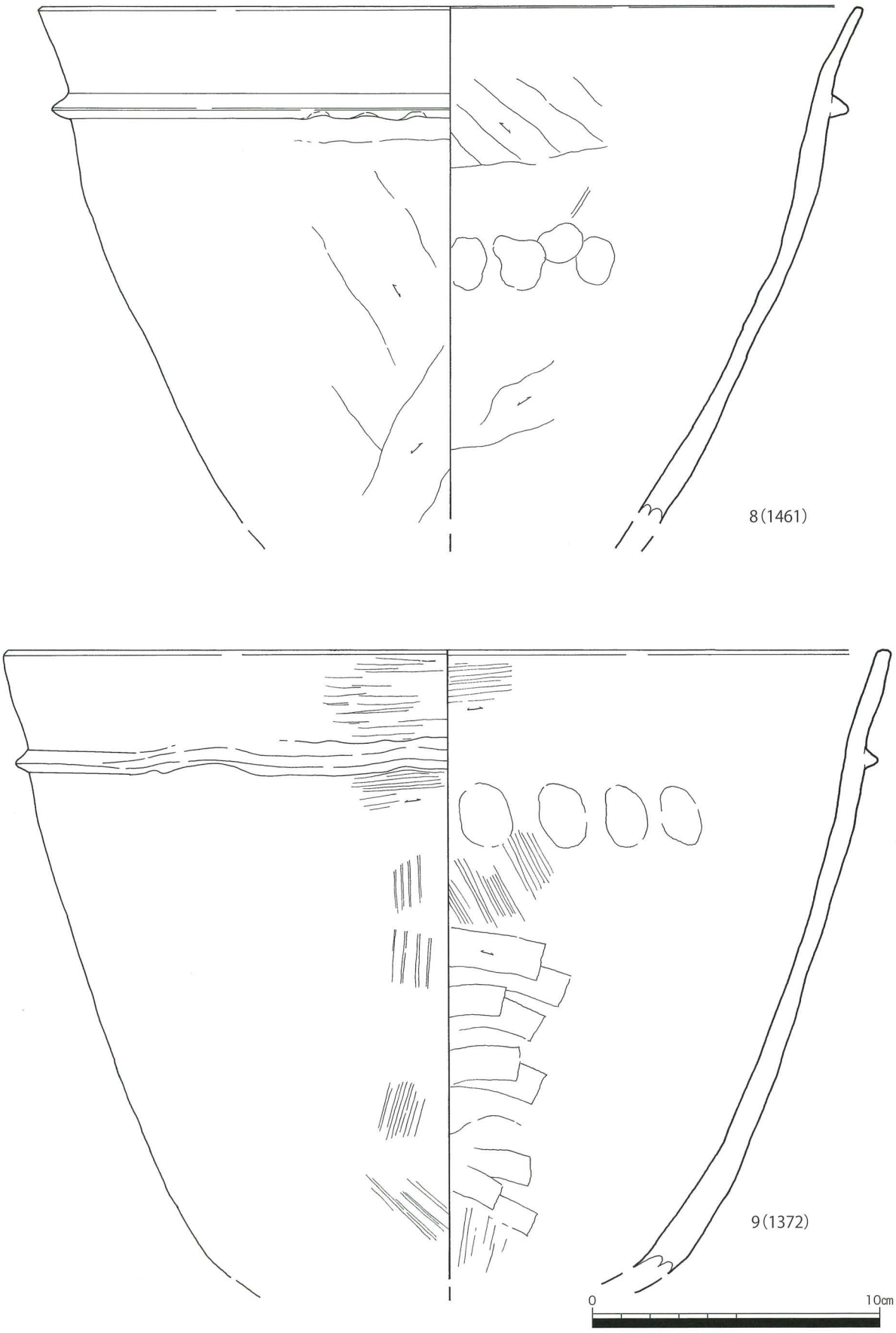
第22図　古墳時代出土遺物実測図(S＝1/2)

No. 8は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は、29ｃｍを測る。口縁部は外反し、口唇部は丸みを帯びる。口縁部下に一条の突帯がめぐる。

No. 9は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は30.8ｃｍを測る。口縁部は外反し、口唇部はやや丸みを帯びる。口縁部下に一条の突帯がめぐる。受熱によると思われる変色が見られる。



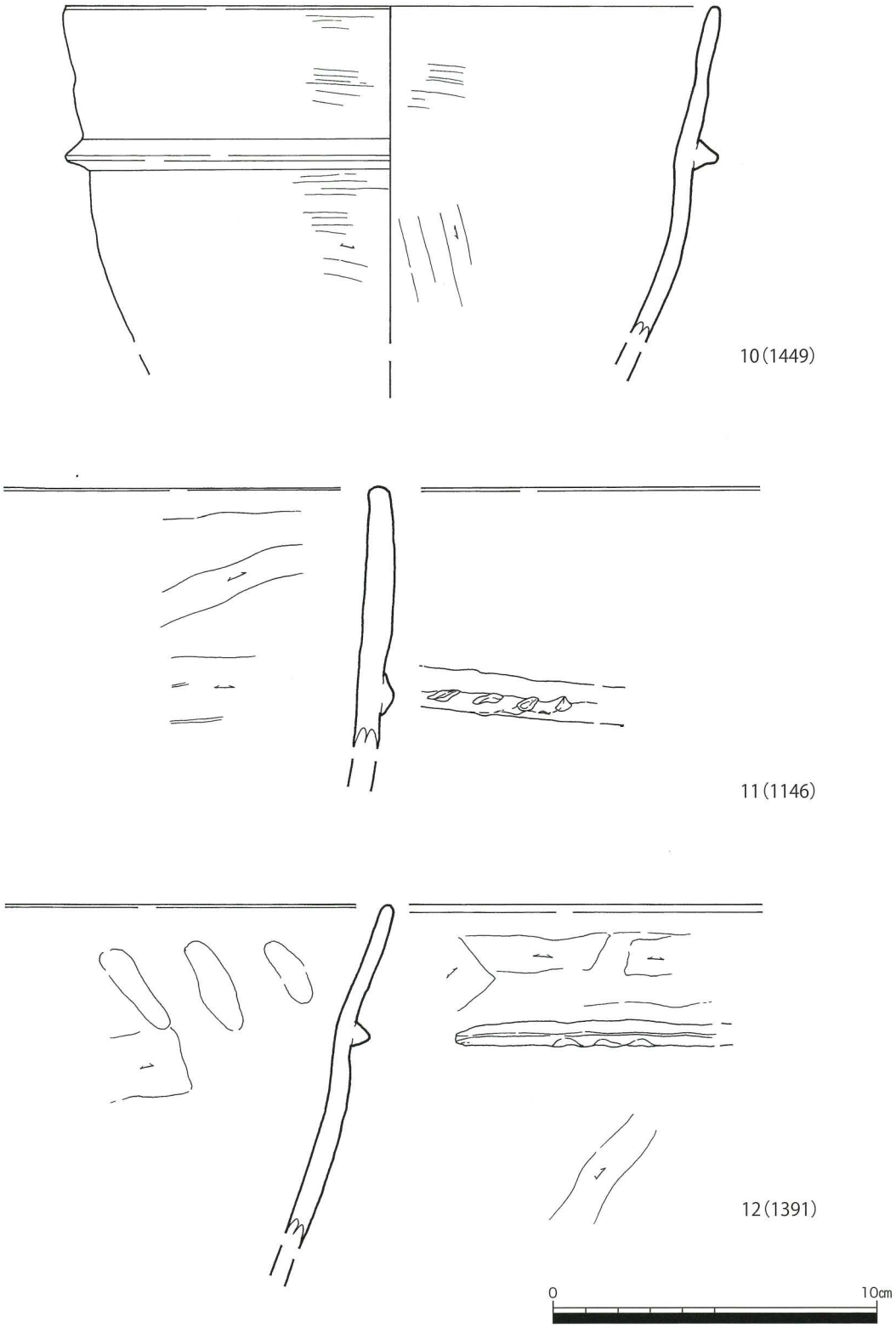
第23図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図①(S＝1/2)



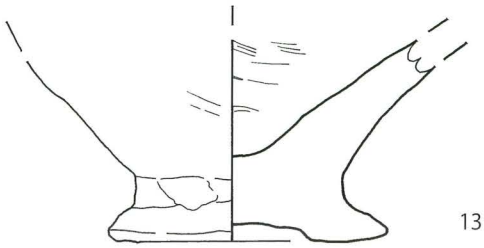
第24図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図②(S＝1/2)

No.10は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は20.2ｃｍを測る。口縁部は小さく屈曲しながら外反し、口唇部はや平坦となる。口縁部下に一条の突帯がめぐる。受熱によると思われる変色が見られる。

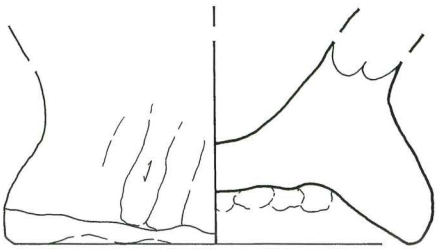
No.11は、甕形土器の口縁部～突帯部の破片である。口縁部はやや肥厚しながら直行し、口唇部は平坦となる。突帯にはキザミが施されている。



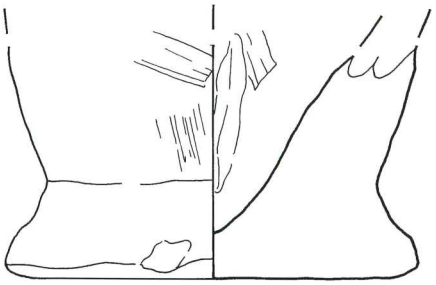
第25図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図③(S＝1/2)



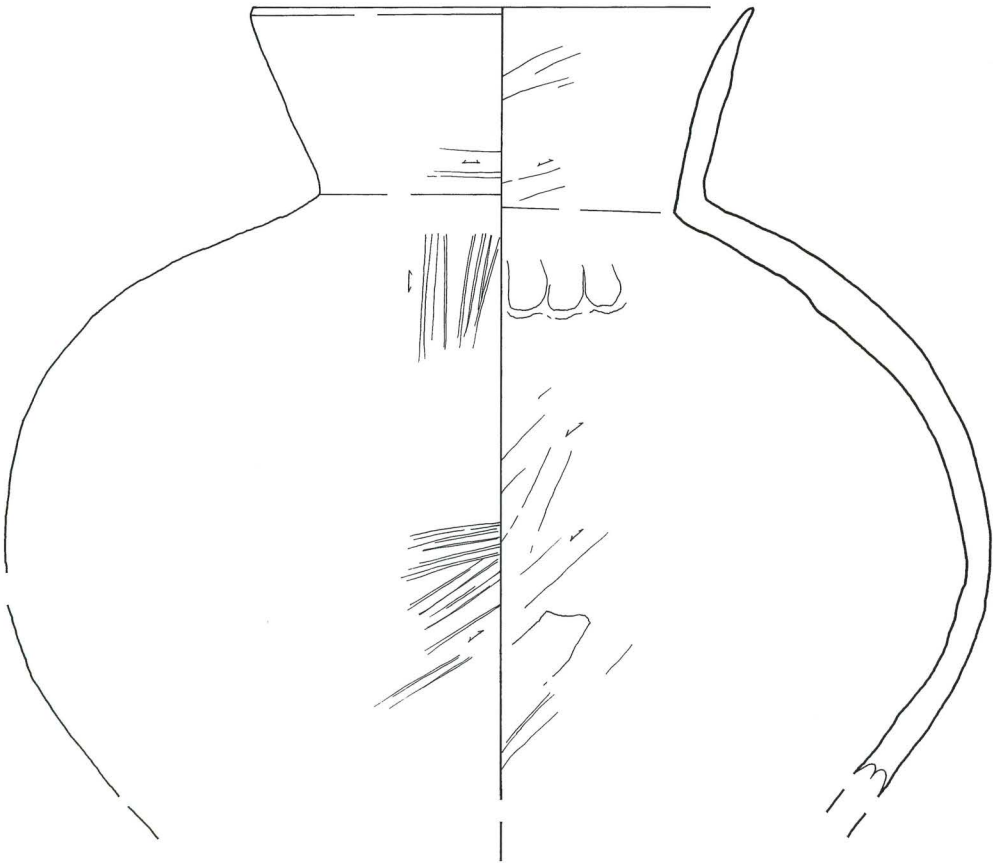
13(1132)



14(1136)



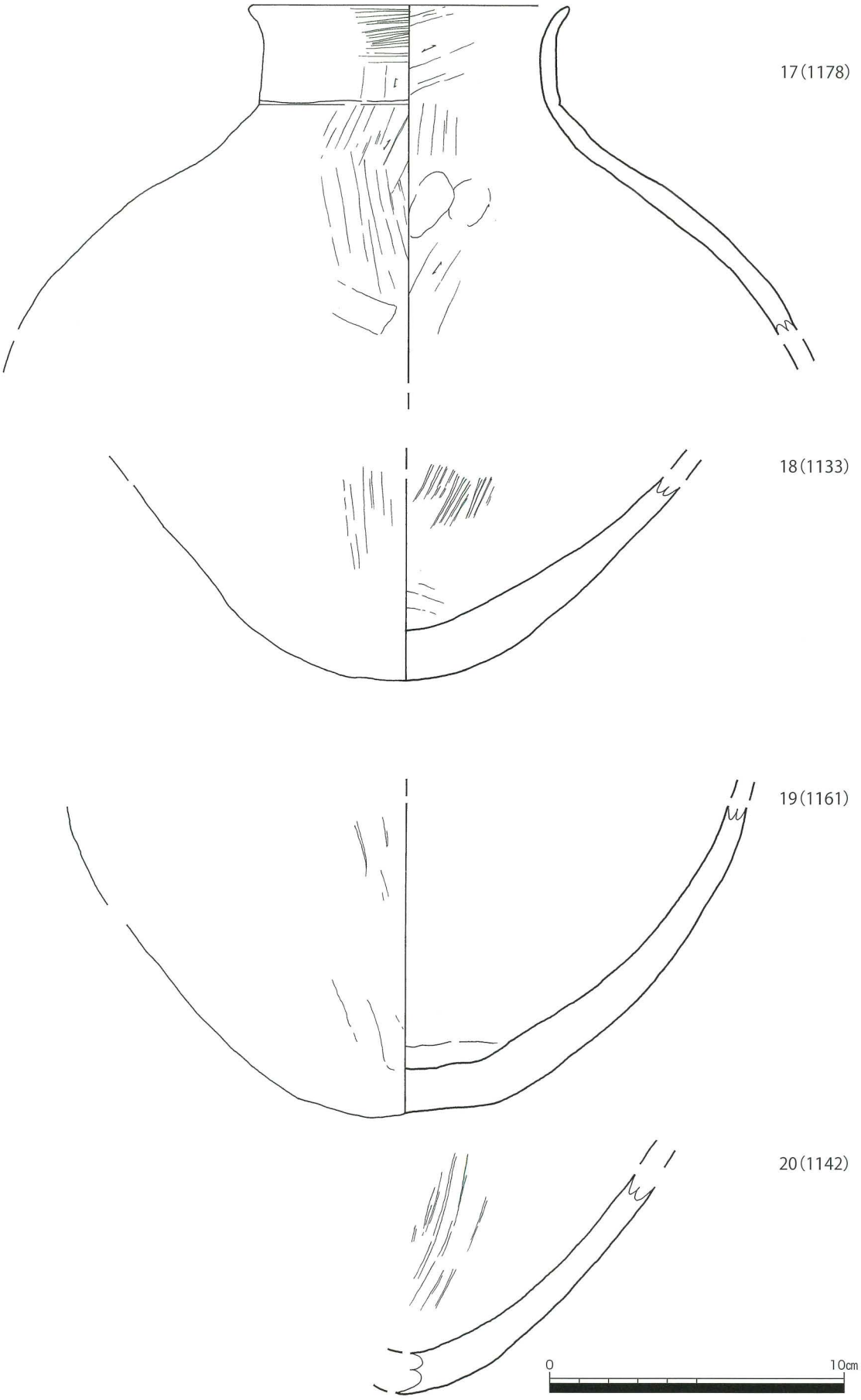
15(1180)



16(1134)

0　10cm

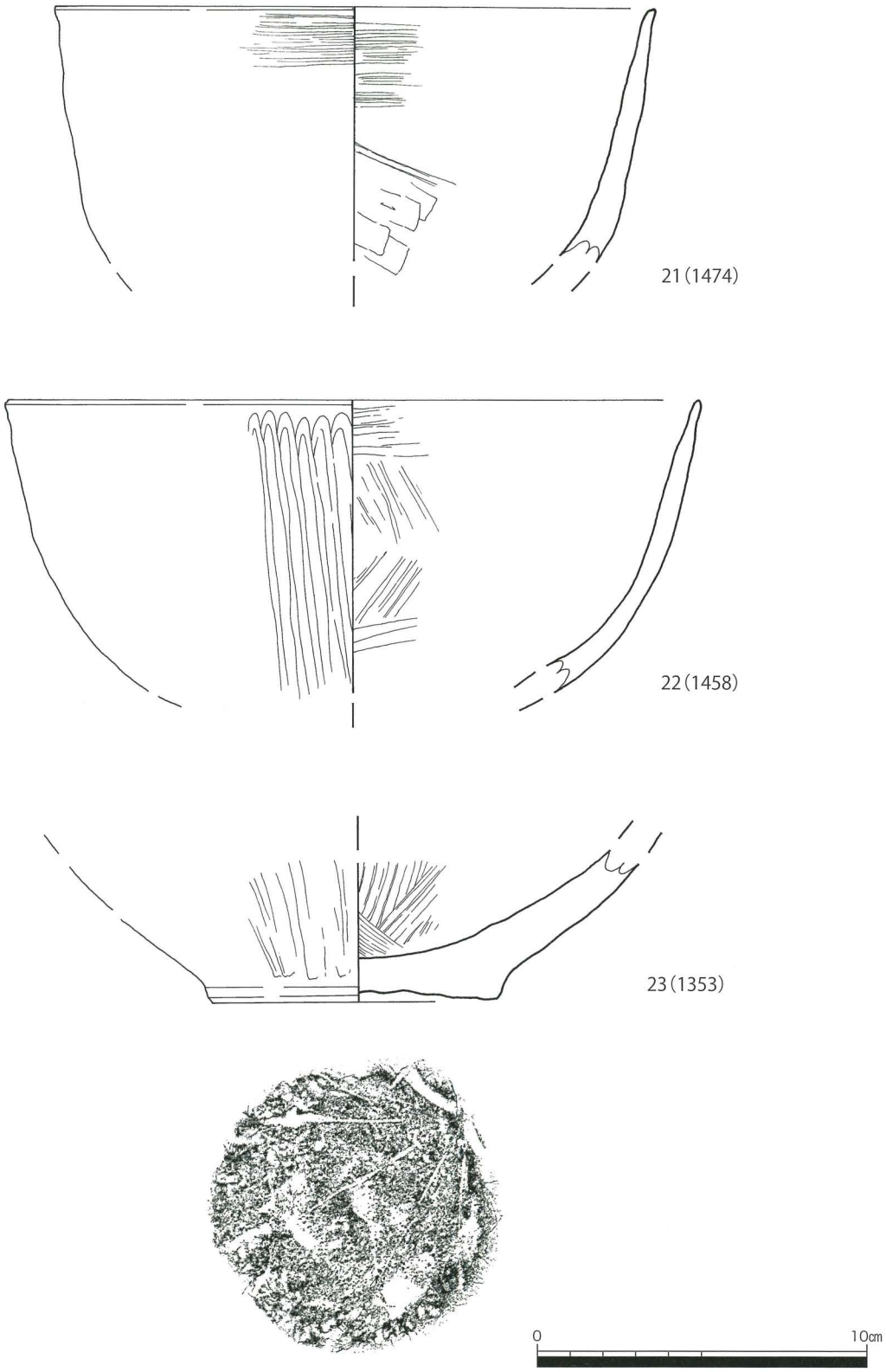
第26図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図④(S＝1/2)



第27図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑤(S＝1/2)

No.12は、甕形土器の口縁部～突帯の破片である。口縁部は外反し、口唇部はやや丸みを帯びる。口縁部下に一条の突帯がめぐる。

No.13は、甕形土器の底部の破片である。復元底径は、7.4ｃｍを測る。底部は浅い上げ底で、見込み部の断面は台形を呈する。



第28図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑥(S＝1/2)

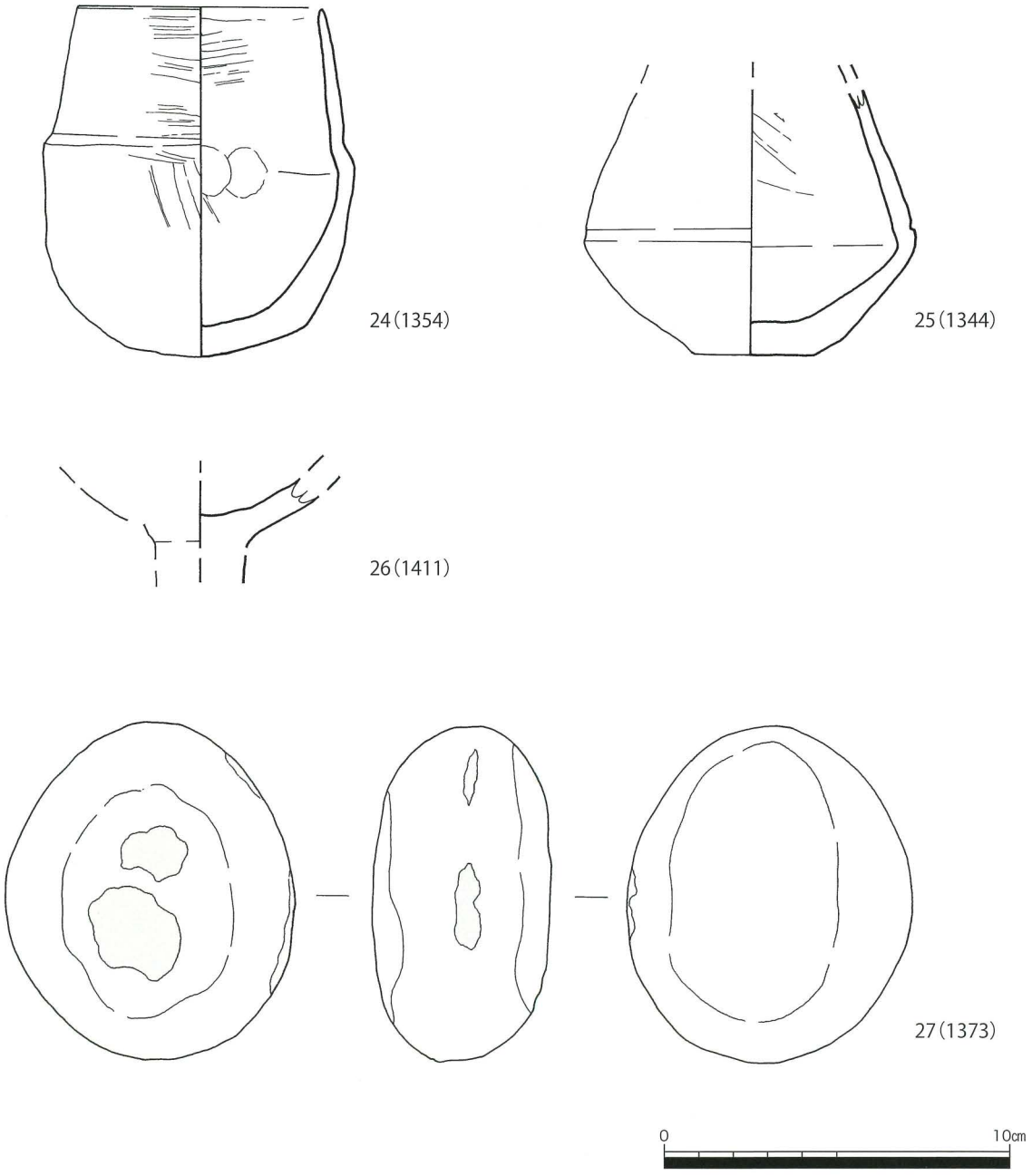
No.14は、甕形土器の底部の破片である。復元底径は、11.2ｃｍを測る。底部は浅い上げ底で、見込み部の断面は台形を呈する。

No.15は、甕形土器の底部の破片である。復元底径は、10.8ｃｍを測る。底部は平底で、見込み部の断面は台形を呈する。

No.16は、壷形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は13.1ｃｍを測る。口縁部は外反し、口唇部は舌状となる。肩部はなだらかで、胴部が球形に膨らむ。

No.17は、壷形土器の口縁部～肩部の破片である。復元口径は10.9ｃｍを測る。口縁部はわずかに外反し、口唇部は舌状となる。短い頸部から屈曲してなだらかな肩部へと続く。

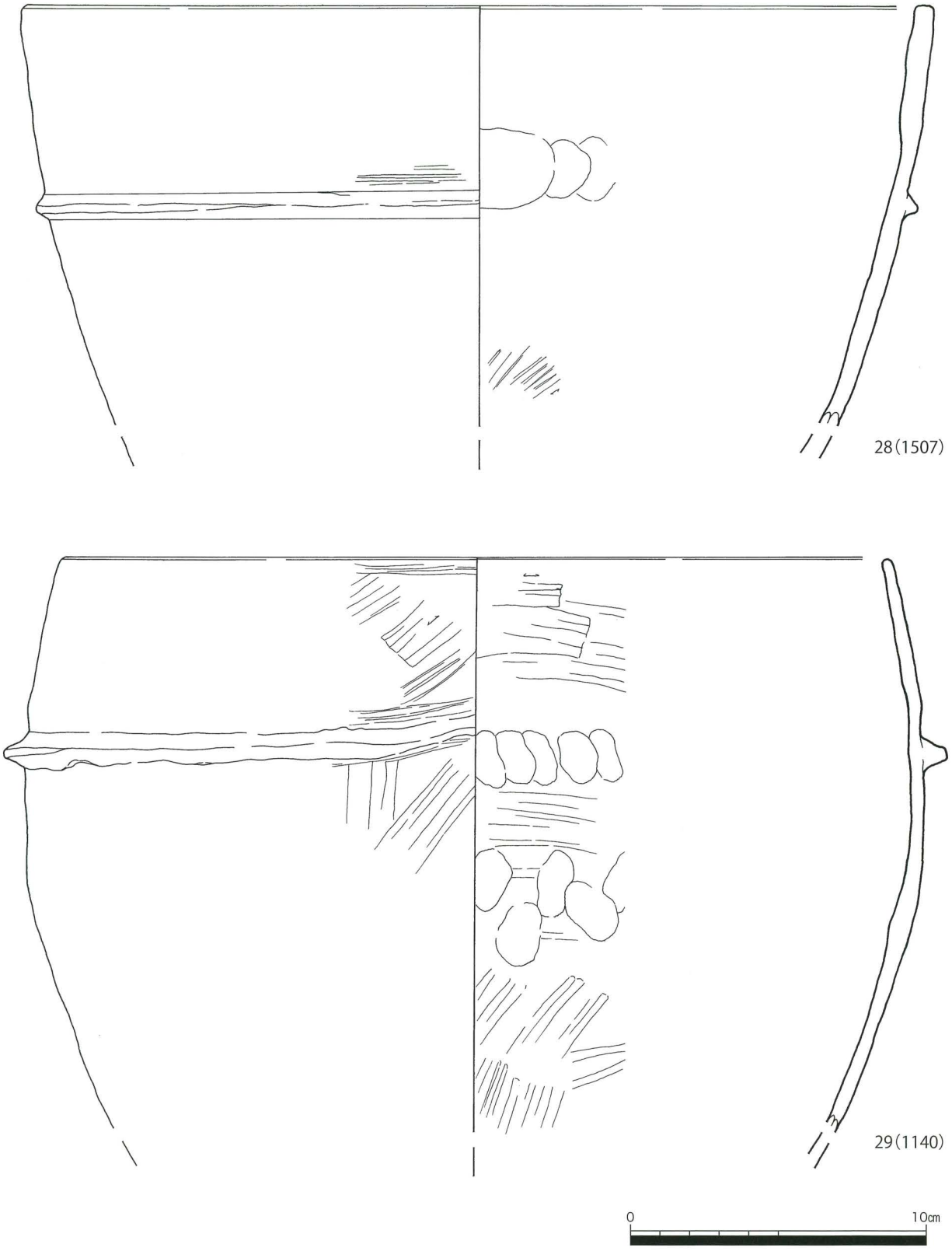
No.18は、壷形土器の胴部下半分から底部の破片である。底部は丸底で、胴部に向かい大きく膨らむものと推定される。



第29図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑦(S＝1/2)

No.19は、壷形土器の胴部下半分から底部の破片である。底部は丸底だが、ゆがみがあり一部に平坦面をもつ。

No.20は、壷形土器の胴部下半分から底部の破片である。底部は丸底になるものと思われ、接地面はやや摩滅している。



第30図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑧(S=1/2)

No.21は、鉢形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は18.3ｃｍを測る。胴部から口縁部にかけて緩やかに開き、椀のような器形をなす。口唇部は舌状となる。

No.22は、鉢形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は21.2ｃｍを測る。胴部から口縁部にかけて緩やかに開き、椀のような器形をなす。口唇部は舌状となる。

No.23は、鉢形土器の底部の破片である。復元底径は、8.7ｃｍを測る。底部は浅い上げ底で、底面には植物圧痕が残る。

No.24は、坩形土器の略完形品である。口径7.2ｃｍ、高さ10.2ｃｍを測る。口縁部はわずかに内湾し、口唇部は舌状となる。胴部に緩い屈曲が見られる。

No.25は、坩形土器の胴部～底部の破片である。復元底径は3.5ｃｍ、胴部最大径は9.5ｃｍを測る。胴部は「く」の字に屈曲し、器形は、そろばん玉状になる。

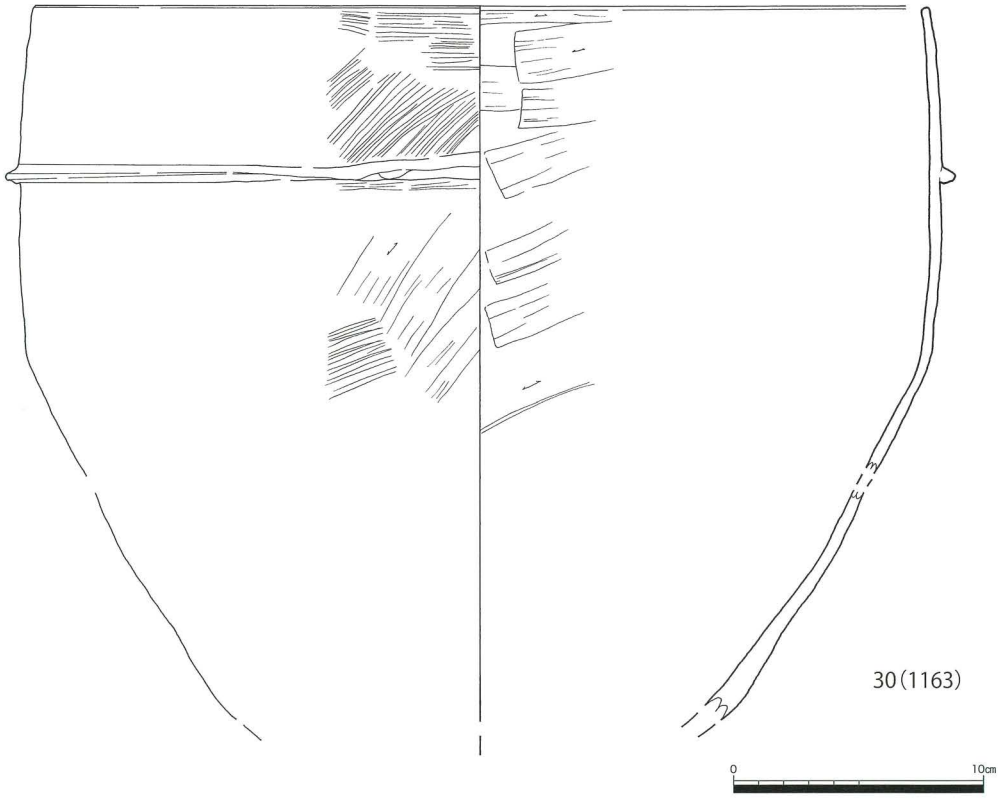
No.26は、高坏形土器の坏部と脚部の破片である。ミニチュア土器と思われ、内外面ともに丁寧なナデ調整が施されている。

No.27は、円礫を転用した磨石である。Ｂ面に磨面をもち、Ａ面と側面には敲打痕が残る。長径9.8ｃｍ、短径7.3ｃｍ、厚さ5.2ｃｍ、重さ600ｇを測る。石材は安山岩である。

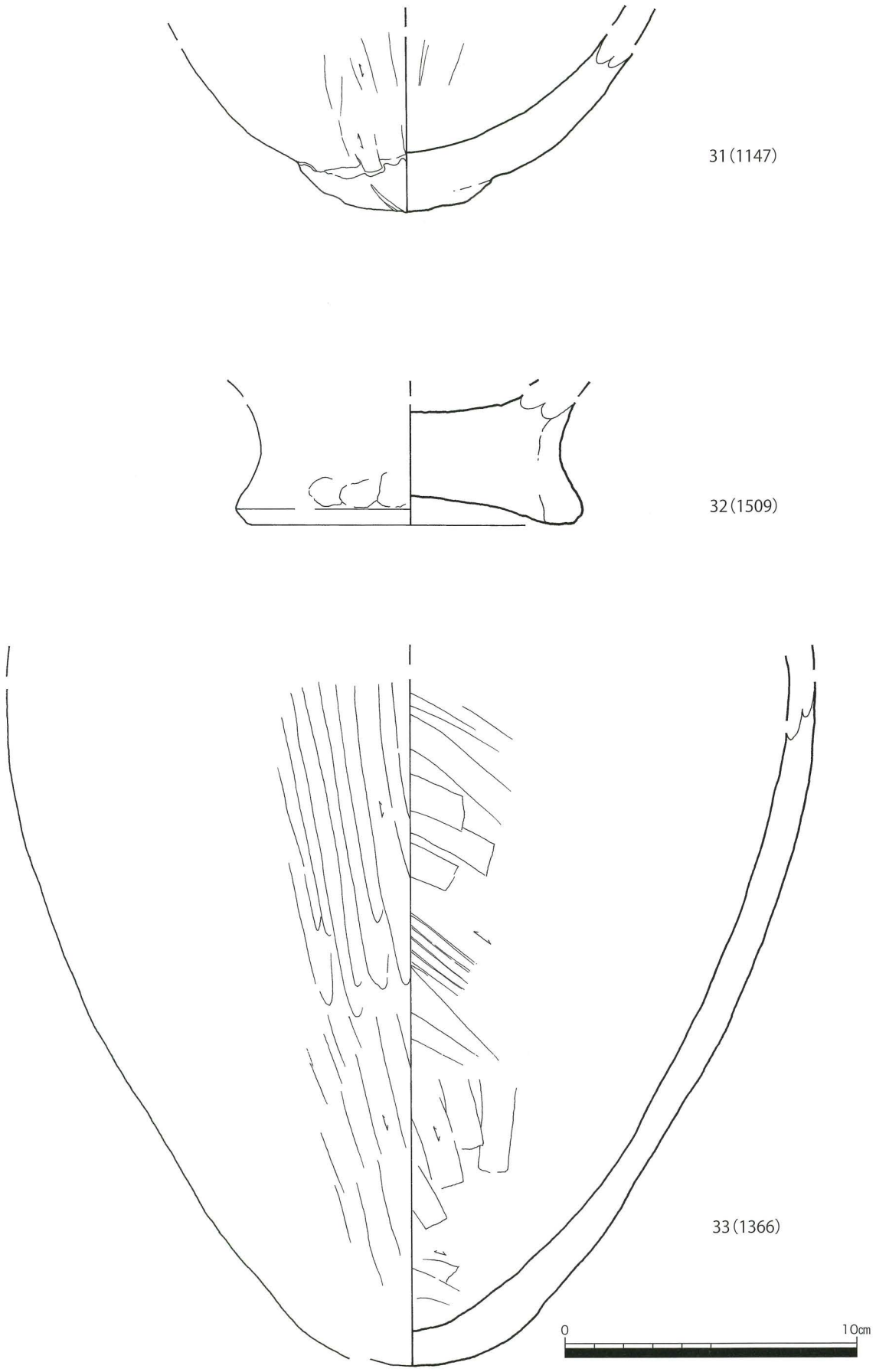
竪穴式住居跡付帯遺構埋土出土遺物

No.28は、甕形土器の口縁部～突帯部の破片である。復元口径は、31ｃｍを測る。口縁部はほぼ直行し、口唇部は平坦となる。口縁部下に一条の突帯がめぐる。

No.29は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は28.3ｃｍを測る。口縁部はわずかに内湾し、口唇部は平坦となる。口縁部下に一条の絡状突帯がめぐる。器壁が薄く仕上げられている。



第31図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑨(S＝1/3)



第32図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑩(S＝1/2)

No.30は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は36ｃｍを測る。口縁部はわずかに内湾し、口唇部は平坦となる。口縁部下に一条の絡状突帯がめぐる。器壁が薄く仕上げられている。

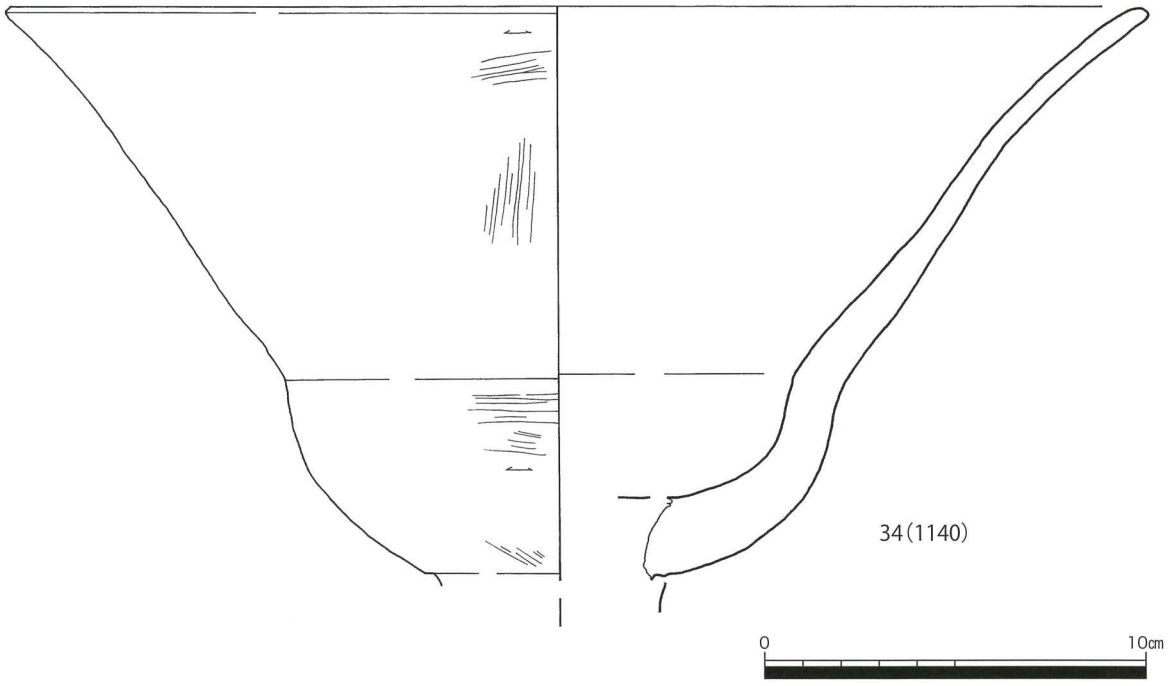
No.31は、壷形土器の底部の破片である。底部には粘土が貼り付けられ厚みが持たされている。

No.32は、甕形土器の底部の破片である。復元底径は、12ｃｍを測る。底部は上げ底で、見込み部の断面はマウンド状を呈する。内外面ともに風化が著しい。

No.33は、壷形土器の胴部～底部の破片である。底部は丸底である。胴部は、大きく膨らまず、卵形を呈する。胴部最大径は、約28ｃｍと推定される。

No.34は、高杯形土器の杯部の破片である。復元口径は、29ｃｍを測る。杯部は丸みを帯びた椀形で外側に屈曲して大きくラッパ状に開く口縁部へと続く。内外面に受熱によると思われる変色が見られる。

（文責　渡部）



第33図　古墳時代竪穴式住居出土遺物実測図⑪（S＝1/2）

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
1	一般	甕形土器 (成川式)	破片	底部	2.5YR4/3	5YR5/3	10R4/2	底 10YR5/3	細砂粒を含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・他	内・ナデ 外・ヨコナデ　タテ方向ナデ 脚内・ナデ	良好	9		
2	一般	鉢形土器 (成川式)	破片 1/2残存	底部	7.5YR6/4	10YR5/3	7.5YR4/2	底 5YR4/2	砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデ　ナデ 底・ナデ	良好	9		
3	一般	鉢形土器 (成川式)	破片 1/3～1/4残存	底部 ～ 胴部	5YR5/4	10YR5/3	10YR5/2	底 5YR4/3	細砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・工具によるナデのちナデ 外・ハケメのちナデ　ヨコナデ 底・無調整	良好	9		
4	1064	鉢形土器 (成川式)	破片 2/3残存	底部	7.5R4/2	7.5YR4/2	7.5YR4/3	底 7.5YR3/1	細砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ 底・ナデ	良好	9		
5	1067	鉢形土器 (成川式)	破片 1/1残存	底部	2.5YR4/3	5YR5/3	2.5YR4/2	底 5YR4/3	細砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・ナデ 外・ナデ 底・ユビオサエのちナデ	良好	9		
6	1345	甕形土器 (成川式)	破片 1/2残存	口縁部 ～ 胴部	10R5/4	7.5YR5/3	10YR5/2		砂粒を含む 細砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・ヨコナデ　ナデ 外・ヨコナデ　ナデ 口・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好		1345(SK01),1346(SK01) 1358(SK01),1386(SK01) 1387(SK01),1392(SK01) 1396(SK01),1454(SK01)～ 1459(SK01),1464(SK01) 1467(SK01),1468(SK01) 1471(SK01),1480(SK01)	
7	1066	甕形土器 (成川式)	破片 1/6残存	口縁部 ～胴部	2.5YR4/2	5YR5/3	2.5YR5/3		細砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・ナデ 外・ナデ 口・ナデ 突・若干キザミ	良好		1066(9),1069(9),1070(9) 1187(SK01),1402(SK01)	
8	1461	甕形土器 (成川式)	破片 1/6残存	口縁部 ～ 胴部	2.5YR5/3	2.5YR5/4	2.5YR5/3 10YR4/2		砂粒を多く含む 細砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・ナデ　ユビオサエのちナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデのちマメツ 口・ヨコナデ 突・ナデ	良好	SK01埋 土		
9	1372	甕形土器 (成川式)	破片 口1/3残存	口縁部 ～ 胴部	7.5YR4/2	7.5YR5/3	10R3/2		細砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・工具によるナデのちナデ ユビオサエ　工具によるナデ のちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	SK01 埋土	1390(SK01)	
10	1449	甕形土器 (成川式)	破片 1/6残存	口縁部 ～ 胴部	5YR5/3	10YR4/2	7.5YR4/1		細砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ　ナデのちマメツ 口・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	SK01 埋土		
11	1146	甕形土器 (成川式)	破片	口縁部	5YR3/1	2.5YR6/2	10R4/3		細砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口・ヨコナデ 突・ヨコナデのち工具による キザミ	良好	SK01 埋土	1177(SK01)	
12	1391	甕形土器 (成川式)	破片	口縁部	2.5YR4/3	5YR5/3	5YR5/3		細砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・赤	内・ユビオサエのちナデ 工具によるナデのちナデナデ 外・工具によるナデのちナデ 口・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	SK01 埋土		
13	1132	甕形土器 (成川式)	破片	底部	5R3/1	5YR5/3	2.5YR3/1	底 2.5YR4/3	砂粒を多く含む 細砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・赤・他	内・ナデ 外・ヨコナデ　ユビオサエナ デ 底・ヘラケズリのちナデ	良好	SK01 埋土		
14	1136	甕形土器 (成川式)	破片	底部	5YR4/3	7.5YR4/2	5YR4/2	底 7.5YR4/2	細砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・他	内・ナデ 外・ヘラケズリのちナデ 底・ユビオサエ　ナデ	良好	SK01 埋土		
15	1180	甕形土器 (成川式)	破片 1/2残存	底部	7.5YR4/2	7.5YR4/1	5YR5/2	底 5YR4/2	砂粒を含む 細砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・他	内・ケズリのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 底・ナデ	良好	SK01 埋土		
16	1134	壺形土器 (成川式) 小壺	破片 残圧高20.9cm 口径　13.2cm 最大径25.8cm	口縁部 ～ 胴部	10R5/6	10R5/4	5YR5/3		細砂粒を含む	セ・白・ 黒・赤・他	内・ヨコナデ　ユビオサエ ナデ 外・工具によるナデのちナデ 口・ヨコナデ　タテ方向ナデ	良好		1134(SK01),1143(SK01・DP) 1168(SK01),1174(SK01) 1347(SK01),1393(SK01) 1394(SK01),1395(SK01) 1397(SK01),1465(SK01) 1468(SK01),1472(SK01) 1473(SK01)	
17	1178	壺形土器 (成川式) 小壺	破片 1/4残存	口縁部 ～ 胴部	2.5YR5/4	10R5/4	5YR5/3		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒	内・ヨコナデ　タテナデ ユビオサエナデ 外・ヨコナデ　タテナデナデ	良好		1178 (SK01),1199 (SK01) 南拡東9層一般	
18	1133	壺形土器 (成川式) 小壺	?	底部 ～ 胴部	2.5YR5/4	2.5YR5/4	7.5YR4/2	底 10YR5/2	砂粒を若干含む 細砂粒を含む	セ・白・ 黒・赤・他	内・ハケメ　工具によるナデ のちナデ 外・ハケメのちナデ 底・無調整	良好	SK01 埋土		1134 (SK01) 1143 (SK01・DP)
19	1161	壺形土器 (成川式) 小壺	?	底部 ～ 胴部	2.5YR5/4	2.5YR5/6	5YR5/2	底 7.5YR5/3	細砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・他	内・ナデ 外・ナデ 底・ナデ	良好			
20	1142	壺形土器 (成川式) 小壺	破片 一部残存	底部 ～ 胴部	5YR5/4	2.5YR5/4	2.5YR4/2 10R5/3	底 7.5YR5/3	砂粒を含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 底・接地による　マメツ	良好	SK01 埋土		

表２　古墳時代遺物観察表１

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
21	1474	鉢形土器 (成川式)	破片 口1/4残存	口縁部 ～胴部	5YR5/4	5YR5/3	7.5YR5/2		細砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・ヨコナデ 工具によるナデのちナデ 外・ヨコナデ　ナデ 口・ヨコナデ	良好	SK01埋土		
22	1458	鉢形土器 (成川式)	破片 口1/3残存	口縁部 ～胴部	5YR5/3	5YR5/4	7.5YR4/1		細砂粒を多く含む	カ・セ・白・黒・他	内・ヨコナデ　ナデ 工具によるナデのちナデ 外・ミガキ 口・ヨコナデ　ミガキ	良好		1458(SK01) 1466(SK01) 1480(SK01)	
23	1353	鉢形土器 (成川式)	破片 底1/1残存	底部	5YR6/3	5YR5/4	7.5YR5/3	底 10YR5/2	細砂粒を含む	カ・セ・白・黒・	内・ハケメ 外・ハケメのちナデ　ケズリ 底・植物圧痕のちナデ	良好	SK01埋土		
24	1354	坩形土器	略完形	口縁一部欠損	5YR5/4	5YR7/6	5YR5/4	底 5YR5/4	砂粒を若干含む・微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ ユビオサエのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口・ヨコナデ 底・ナデ	良好		1354(SK01) 1355(SK01)	
25	1349	坩形土器	破片 口4/5残存	口縁欠損	7.5YR6/3	10R6/4	7.5YR6/3	底 2.5Y5/1	細砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・ナデ 底・ナデ	良好	SK01埋土		
26	1411	ミニチュア土器 高杯形土器 (成川式)	破片 杯部一部残存	杯部～脚部	10R5/3	7.5Y5/2	10R4/3 7.5YR5/2		微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・ナデ	良好	SK01埋土		

	取上げNo	器種	石材	法量 (cm)	重量 (g)										
27	1373	磨石		長：9.8cm 短：7.3cm 厚：5.2cm	600g								SK01埋土		

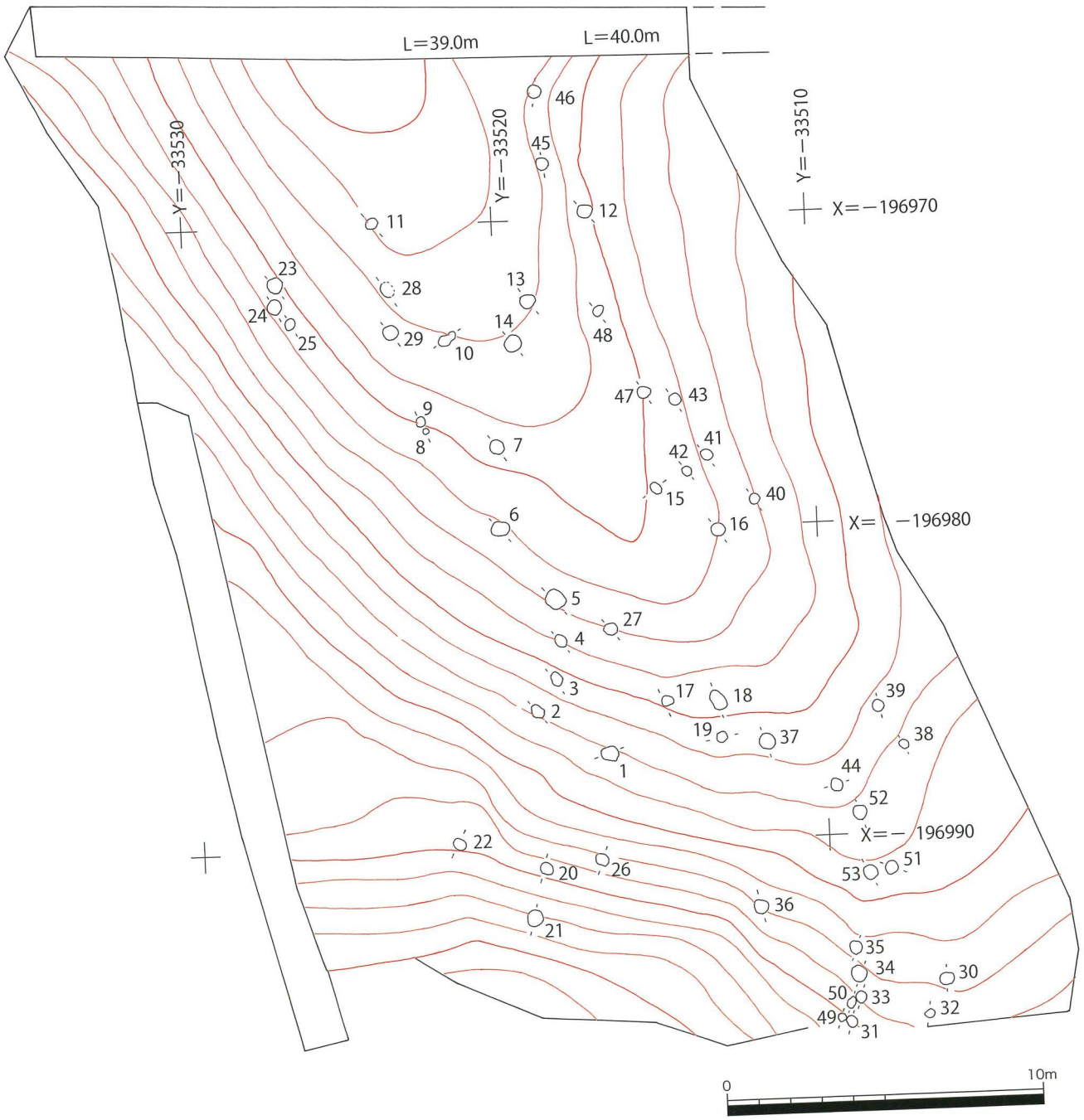
図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
28	1507	甕形土器 (成川式)	破片 1/5残存	口縁部 ～胴部	5YR3/1	10R4/3	10R4/3		細砂粒を多く含む	カ・セ・白・黒・赤	内・ナデ　ユビオサエのちナデ 外・ナデ 突・ヨコナデ	良好		1507(SK01・DP) 1510(SK01・DP)	
29	1140	甕形土器 (成川式)	破片 1/4残存	口縁部 ～胴部	10R4/3 7.5YR5/2	2.5YR5/6 7.5YR6/3	2.5YR5/6 7.5YR7/3		細砂粒を含む	カ・セ・白・黒・赤	内・ナデ 外・ユビオサエのちナデ	良好		1140(SK01・DP) 1501(SK01・DP) 1502(SK01・DP) 1503(SK01・DP) 1507(SK01・DP)	
30	1163	甕形土器 (成川式)	破片 1/5残存	口縁部 ～胴部	2.5YR5/4 7.5YR6/4	2.5YR5/4 7.5YR6/4	2.5YR5/4 7.5YR6/4		細砂粒を含む	カ・セ・白・黒・赤	内・工具によるナデのちナデ 外・ハケメのちナデ 工具によるナデのちナデ 突・ヨコナデ	良好		1163(SK01) 1164(SK01) 1343(SK01) 1362(SK01・DP) 1365(SK01・DP)	
31	1147	甕形土器 (成川式)	破片	底部	5YR5/3	2.5YR5/4	2.5YR5/3 7.5YR4/2	底 10YR5/2	細砂粒を含む	カ・セ・白・黒・　赤	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 底・工具によるナデのちナデ 貼り付け底部	良好		1147(SK01) 1360(SK01・DP) 1489(SK01)	
32	1509	甕形土器	破片 底3/4残存 復元12cm	底部	5YR4/2	2.5YR5/4	2.5YR4/2	底 2.5YR4/3	砂粒を含む・微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・マメツ 外・ユビオサエのちナデ 底・ヨコナデ　　ナデ	不良 後の受熱？	SK01		
33	1366	壷形土器	破片 1/3残存	胴部 ～底部	2.5YR5/4	2.5YR5/4	7.5YR4/2	底 7.5YR5/2	細砂粒を含む　小レキを若干含む	カ・セ・白・黒・赤	内・工具によるナデのちナデ 外・ていねいなナデ　ナデ 底・ナデ？　マメツ	良好	SK01	1496(SK01・DP) 1501(SK01・DP) 1502(SK01・DP) 1507(SK01・DP) 1508(SK01・DP)	
34	1140	高杯形土器 (成川式)	破片 杯部4/5残存	杯部	10R5/4	5YR5/4	10R4/3		砂粒を若干含む・細砂粒を多く含む	カ・セ・白・黒・赤	内・ていねいなナデ 外・ナデ　ヨコ方向のナデ	良好		1140(SK01・DP) 1143(SK01・DP) 1359(SK01・DP) 1495(SK01・DP) 1497(SK01・DP) 1498(SK01・DP) 1499(SK01・DP) 1500(SK01・DP) 1503(SK01・DP) 1504(SK01) 1505(SK01) 1506(SK01) 1507(SK01・DP)	

表３　古墳時代遺物観察表２

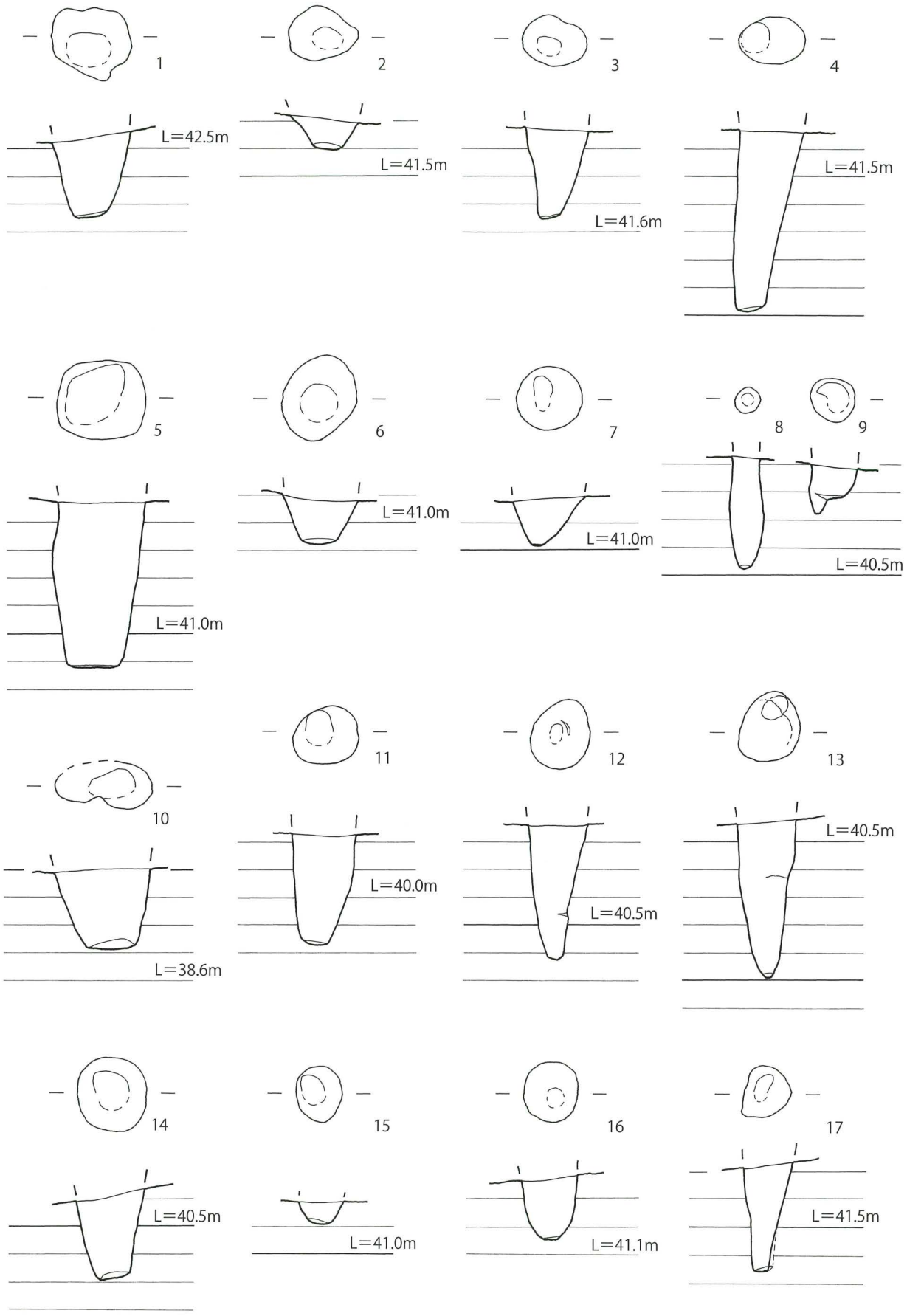
第２節　弥生時代

１．遺構について

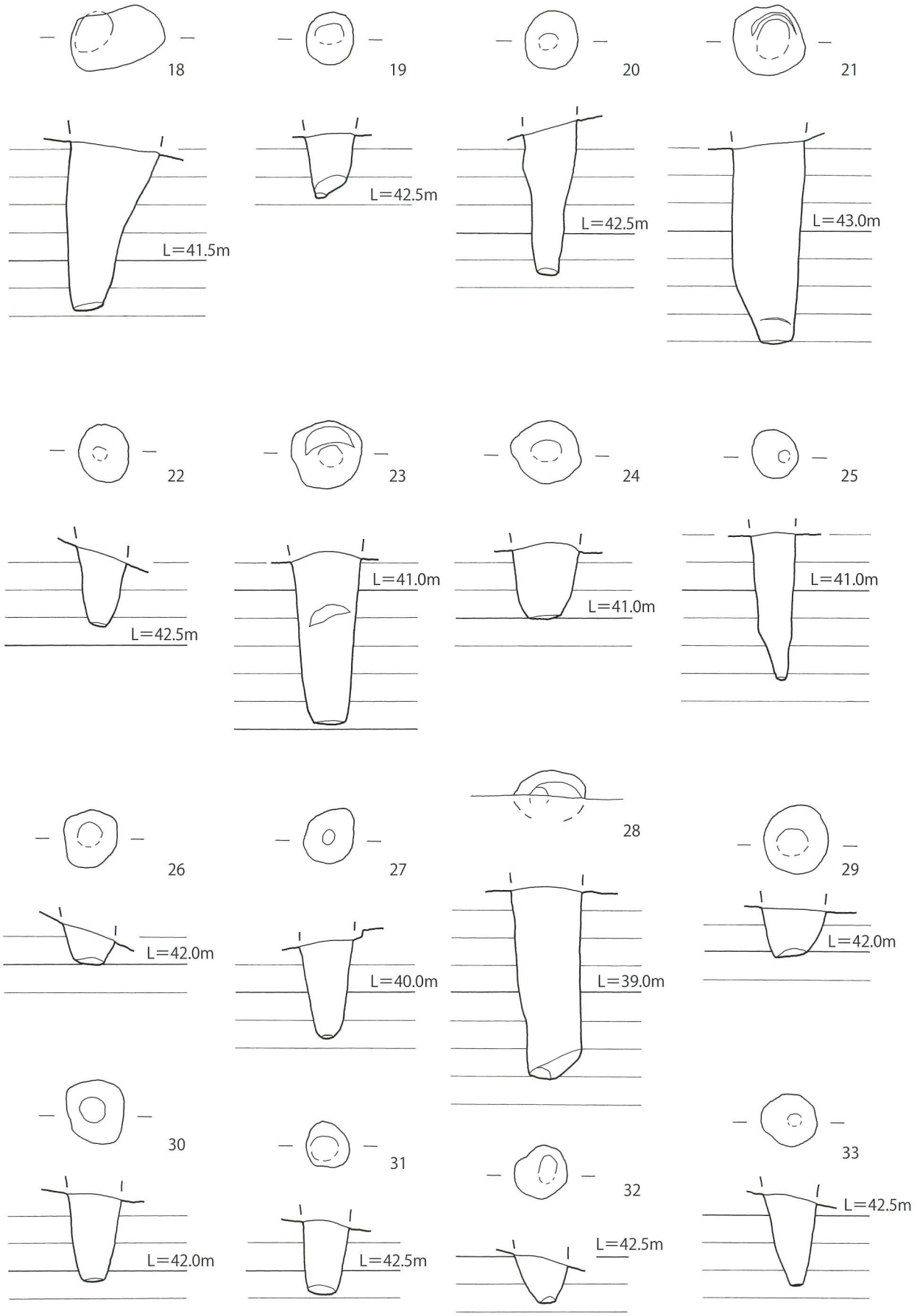
第12層ｂ、並びに第13層まで掘り下げた時点で、上面で第12層ａを埋土とするピット53基を確認した.ピットは、谷の中心部分を挟みおよそ２列に並ぶようにも見受けられ、これが丘陵部に近づくにつれ、西側にずれる傾向も看取される。例えば、谷の中心を挟んだ西側を見ると、調査区北側から、No11－No28－No29－No10－No９－No８－No７－No６－No５－No４－No３－No２の列を想定できる。また、反対の東側



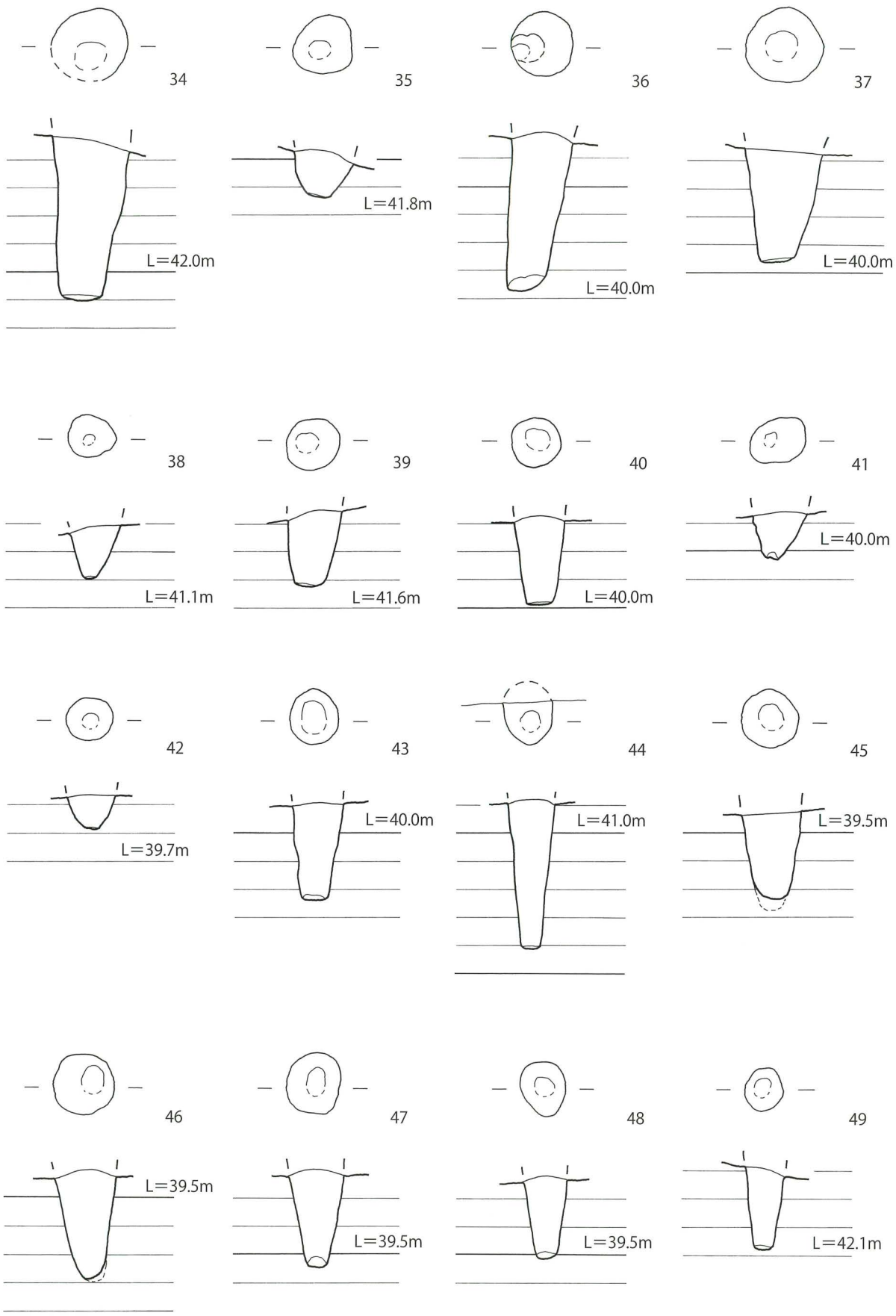
第34図　弥生時代ピット検出状況図（S＝1/200）



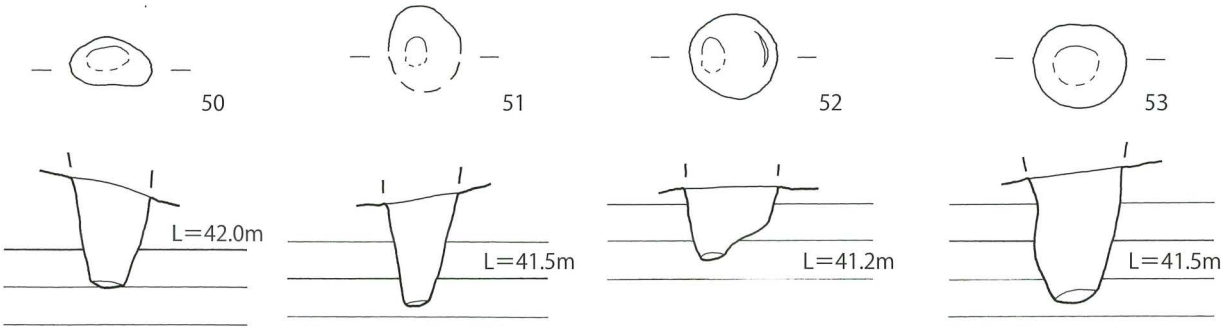
第35図　弥生時代ピット平・断面図①（S＝1/20）



第36図　弥生時代ピット平・断面図②（S＝1/20）



第37図　弥生時代ピット平・断面図③（S＝1/20）



第38図　弥生時代ピット平・断面図④（S＝1/20）

No	長(cm)	短(cm)	深(cm)
1	３０+α	２６+α	２８+α
2	２５+α	１９+α	１０+α
3	２３+α	１８+α	32+α
4	２４+α	１７+α	６５+α
5	３３+α	３１+α	５９+α
6	３１+α	２６+α	１６+α
7	２３+α	２３+α	１７+α
8	１０+α	9+α	４０+α
9	１８+α	１５+α	１８+α
10	３５+α	１３+α	２９+α
11	２３+α	１２+α	39+α
12	２６+α	２１+α	４８+α
13	２６+α	２１+α	５６+α
14	２８+α	２５+α	２９+α
15	２０+α	１６+α	8+α
16	２２+α	２０+α	２２+α
17	２０+α	１５+α	３７+α
18	３４+α	２０+α	６１+α
19	１９+α	１７+α	２３+α
20	２１+α	１９+α	５３+α
21	２８+α	２６+α	７２+α
22	２１+α	１８+α	２６+α
23	２６+α	２６+α	６２+α
24	２６+α	２２+α	２７+α
25	１８+α	１６+α	５３+α
26	２２+α	２０+α	１１+α
27	２２+α	１８+α	３５+α
28	２５+α	１９+α	６９+α
29	２５+α	２３+α	１７+α
30	２５+α	２２+α	３２+α
31	１７+α	１５+α	２６+α
32	１９+α	１９+α	１６+α
33	２０+α	１９+α	３２+α
34	２７+α	２５+α	５７+α
35	２３+α	２０+α	１６+α
36	２３+α	２２+α	５５+α
37	２８+α	２６+α	４０+α
38	１７+α	１５+α	１９+α
39	２０+α	１８+α	２６+α
40	１８+α	１８+α	３１+α
41	２１+α	１６+α	１７+α
42	１６+α	１５+α	１２+α
43	２０+α	１７+α	３５+α
44	２２+α	１７+α	５３+α
45	２１+α	２０+α	３０+α
46	２２+α	２１+α	３９+α
47	２１+α	２１+α	３５+α
48	２０+α	１６+α	２９+α
49	１６+α	１３+α	２９+α
50	２１+α	１３+α	２８+α
51	２３+α	１９+α	２８+α
52	２３+α	２２+α	１９+α
53	２４+α	２４+α	３５+α

表４　弥生時代ピット法量表

では、No46－No45－No12－No48－No47－No42－No16の列を想定できる。さらには、調査区南側においては、例えば、No21－No20－No１－No17－No18－No37－No44－No52－No53－No35－No34－No33－No31のように弧状に巡る列も想定しうる。谷地形で検出されたピット群であり、規格性が認められるプランをなすと判断しうる状況もないため、建物に伴う柱穴の可能性は低いと思われる。

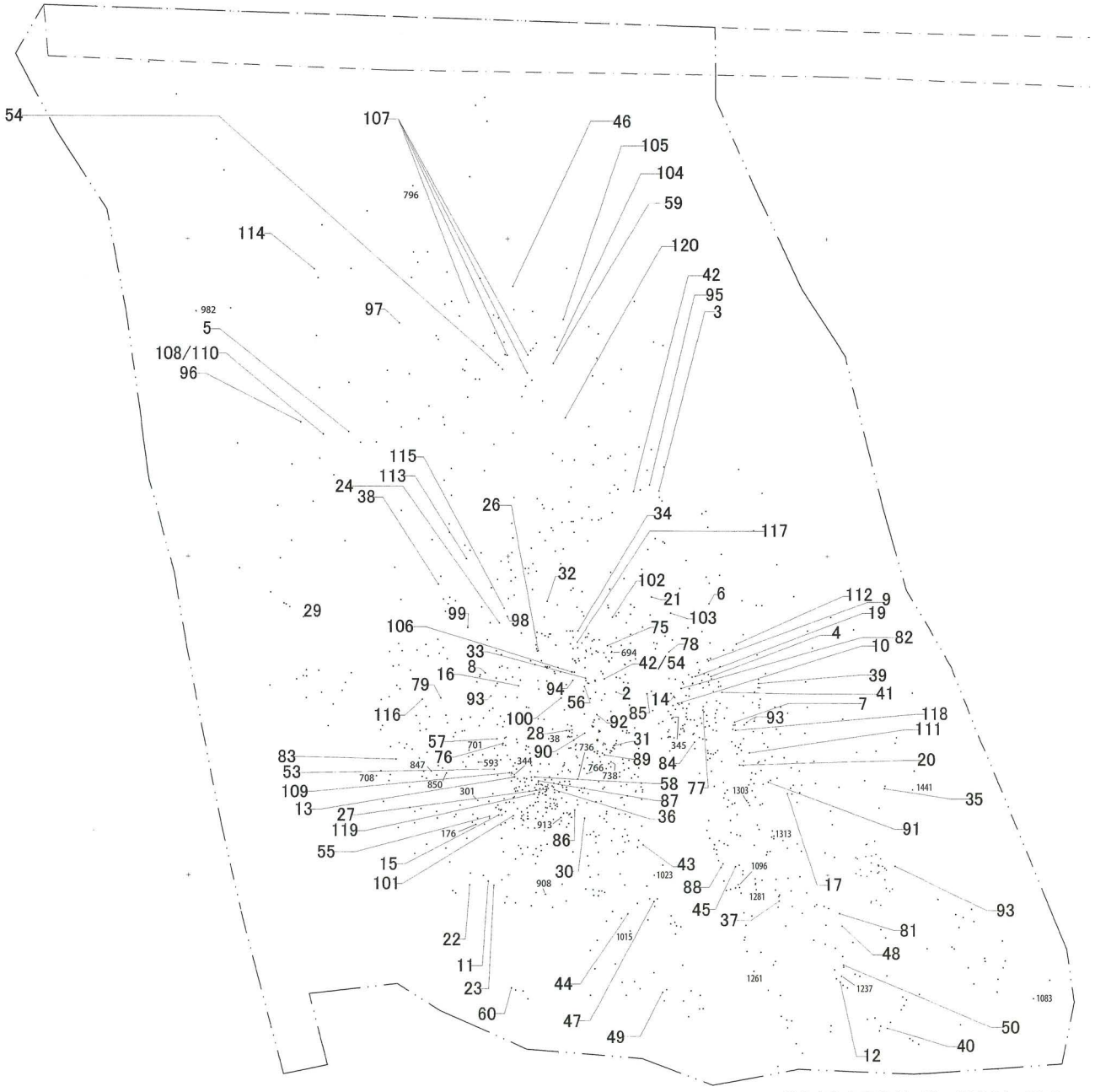
遺物の出土状況を見ると、調査区南西から谷部に向けて廃棄あるいは流れ込んだ状況を呈しており、住居跡等の集落の中心は、調査区南側のヒルトップに営まれていたのではないかと想像される。仮にそうであれば、この谷部に形成されたピットの並びは、谷の底面部分を通路と仮定した場合、集落へ向かうゲートの両側に何らかの境界、あるいは、目印として設けられた可能性も考えられよう。なお、ピットには、検出面から50cmを越える深いものと、20cm程度の浅いものとがある。個別の形状については、第34図～38図、表４を参照されたい。

（文責　渡部）

2．遺物について

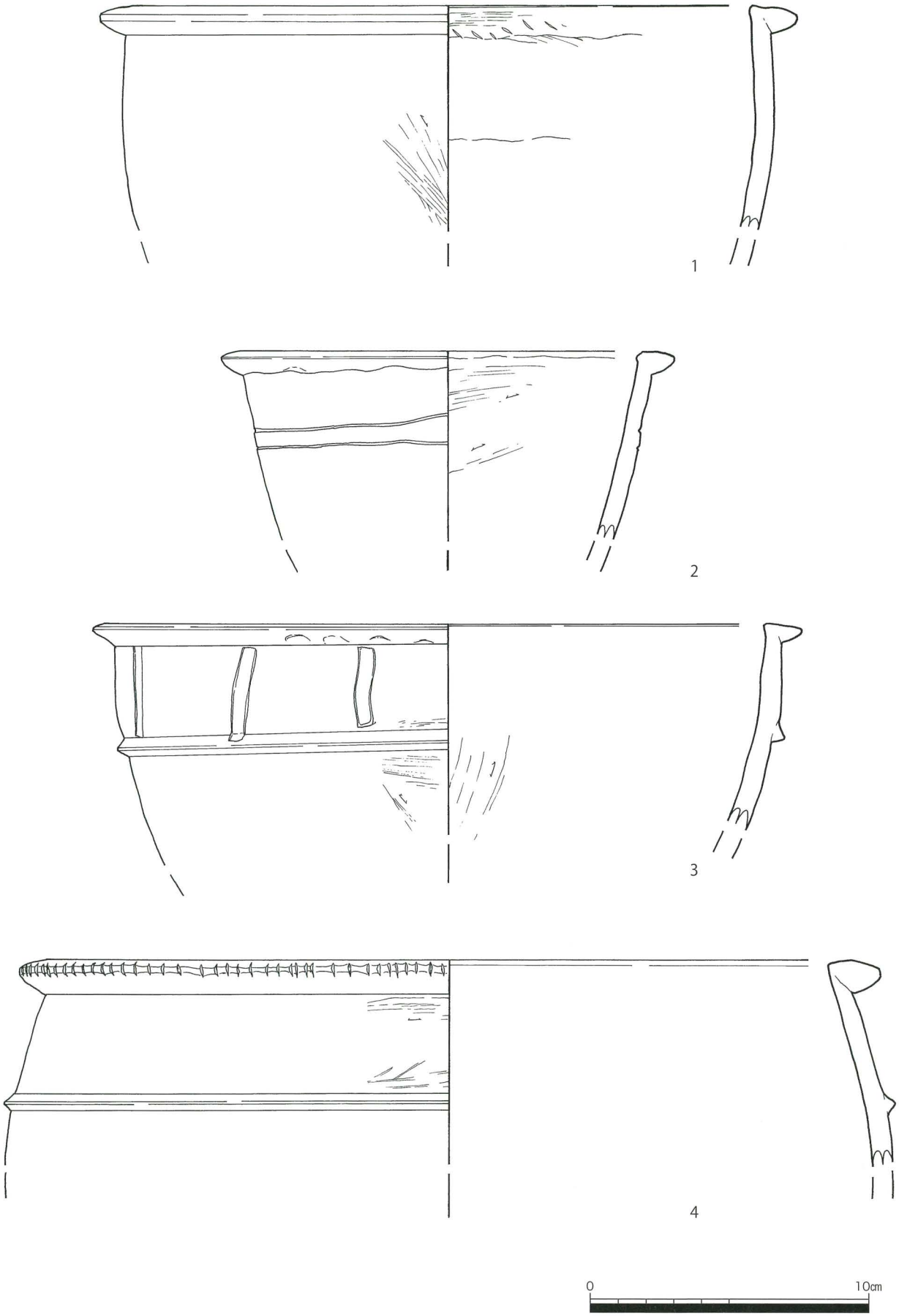
第12層中からは多量の土器片が出土した。専ら入来Ⅱ式の時期に帰属するものがほとんどであるが、高橋式土器も１点出土している。出土した土器片は、ナンバーリングなしで取上げた細片も含めると千数百点にのぼるが、土器以外にも、大陸系磨製石器の扁平片刃石斧が１点、打製石斧10点、石鏃２点、軽石製加工品が数点出土している。軽石製加工品には、獣形のもの、岩偶状のもの、舟形（未製品）のものなどがある。

遺物は、調査区南側のヒルトップに近いところから、谷部に向けて流れ込んでおり、調査区南側半分に集中する傾向がある。ローリングを受けている遺物も多く、土器については、すべて破片資料であった。残存部位や破片の大きさ、遺物の特徴を考慮し、出土した遺物のうち153点を図化した。



※小さな文字の No. は、写真 34～37 の石器に対応する。その他は実測図 No. に対応する。

第39図　弥生時代遺物出土状況図（S＝1/200）



第40図　弥生時代出土遺物実測図①（S＝1/2）

（1）土器

甕形土器

No. 1 は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。復元口径は、25.2cmを測る。口唇部は短くやや丸みを帯び、上面はわずかに下がる。口縁部内面の接合痕がうっすらと残る部分には、ユビオサエ時についた爪痕が残る。胴部はわずかに膨らみながら底部へ続くものと思われる。

No. 2 は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。復元口径は、16.5cmを測る。口唇部は短く断面は三角形を呈し、上面はほぼ水平である。胴部には二条の沈線が巡る。胴部は膨らみをもたず直線的に底部にのびる。

No. 3 は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。復元口径は、25.5cmを測る。口唇部は短く断面は三角形を呈し、上面はわずかに下がる。胴部には 1 条の突帯が巡り、突帯の上位には、縦に装飾文が施されている。

No. 4 は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。復元口径は、30.8cmを測る。口唇部は短く断面は舌状を呈し、上面はほぼ水平である。口唇部端部にはキザミが施されている。胴部には 1 条の突帯が巡り、胴部最大径は口径より若干大きくなる程に膨らみをもつ。

No. 5 は、甕形土器の口縁部の破片である。口唇部は短く断面は舌状を呈し、上面はわずかに丸みを帯びる。口唇部端部にはキザミが施されている。No. 4 と同様に胴部が若干膨らむものと想定させる。

No. 6 は、甕形土器の口縁部から突帯部の破片である。口唇部は短く断面は三角形を呈し、上面はわずかに下がる。口唇部端部にはキザミが施されている。胴部には 2 条の突帯が巡る。

No. 7 は、甕形土器の口縁部から突帯部の破片である。口唇部は短く断面は舌状を呈し、上面はわずかに丸みを帯びる。胴部には 1 条の突帯が残存する。

No. 8 は、甕形土器の口縁部から突帯部の破片である。口唇部は短く断面は三角形を呈し、上面はほぼ水平である。胴部には 1 条の突帯が残存する。

No. 9 は、甕形土器の口縁部から突帯部の破片である。復元口径は、24.6cmを測る。口唇部は短く断面は三角形を呈し、上面はわずかに丸みを帯びる。胴部には 1 条の突帯が残存する。

No.10は、甕形土器の口縁部から突帯部の破片である。復元口径は、22.8cmを測る。口唇部は短く断面は三角形を呈し、上面はわずかに丸みを帯びる。No. 4 と同様に胴部が若干膨らむものと想定させる。胴部には 1 条の突帯が巡り、突帯には鈍いキザミが施されている。

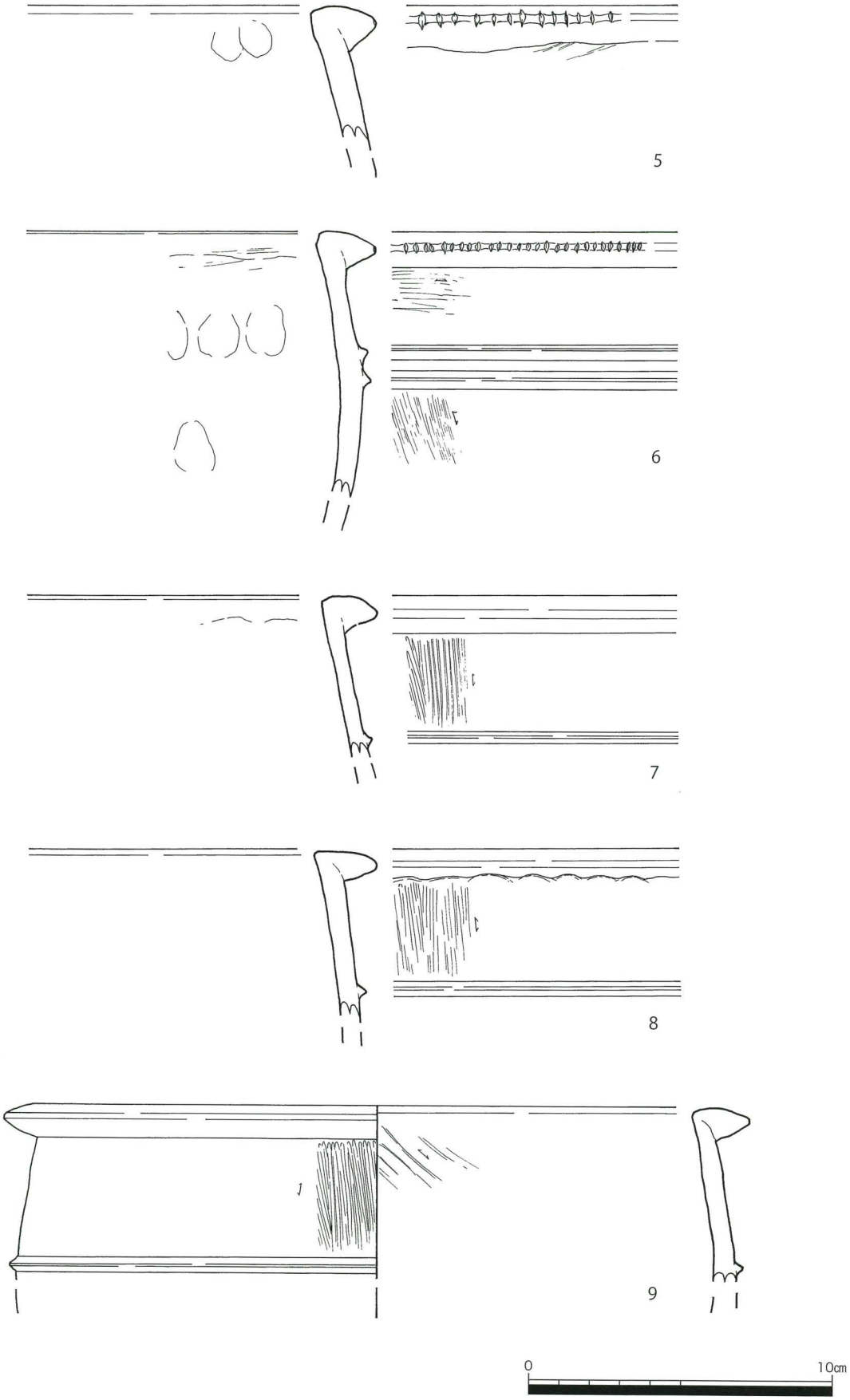
No.11は、甕形土器の口縁部から突帯部の破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面はわずかに下がる。胴部には 2 条の突帯が巡る。

No.12は、甕形土器の口縁部から突帯部の破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面はわずかに上がる。口唇部端部にはキザミが施されている。胴部には 2 条の突帯が巡る。

No.13は、甕形土器の口縁部から胴部の破片である。口唇部は断面は三角形を呈し、上面が凸になり稜を形成する。胴部は「く」の字に屈曲する。

No.14は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、34.8cmを測る。口唇部断面は三角形を呈す。上面はわずかに下がる。胴部には 2 条の突帯が残存する。胴部最大径が口径より若干大きくなる程に膨らみをもつ。

No.15は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、48.8cmを測る。口唇部断面は舌状を呈し、上面はわずかに下がる。胴部には 2 条の突帯が巡る。



第41図　弥生時代出土遺物実測図②(S＝1/2)

No.16は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、32.4cmを測る。口唇部断面は台形を呈し、端部にはキザミが施されている。胴部には１条の突帯が巡り、突帯にもキザミが施されている。

No.17は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、31.0cmを測る。口唇部断面は三角形を呈し、内面にはわずかに突起状に出る部分が看取される。端部にはキザミが施され、胴部には２条の突帯が巡る。

No.18は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、内面にはわずかに突起状に出る部分が看取される。上面はかすかに窪む。端部には刻みが施され、胴部には２条の突帯が巡る。

No.19は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、36.8cmを測る。口唇部断面は三角形を呈し、端部にはキザミが施される。胴部には１条の突帯が巡る。

No.20は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は三角形を呈し、上面はほぼ水平である。端部にはキザミが施される。胴部には１条の突帯が巡り、胴部はやや膨らみを帯びる。

No.21は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は三角形を呈し、上面はほぼ水平である。内面にはわずかに突起状に出る部分が看取される。端部にはキザミが施され、胴部には２条の突帯が巡る。

No.22は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は三角形を呈し、上面はほぼ水平である。内面にはわずかに突起状に出る部分が看取される。端部にはキザミが施され、胴部には１条の突帯が巡る。

No.23は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。上面はわずかに丸みを帯びる。胴部は膨らみ、外面に接合痕が残る。

No.24は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部は短く、断面は台形を呈す。端部は窪む。胴部はわずかに膨らみをもつ。

No.25は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。胴部は、ゆるく「く」の字上に屈曲する。

No.26は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、26.3cmを測る。口唇部は短く、断面は台形を呈し、端部は窪む。上面は丸みを帯びる。胴部には1条の突帯が残存する。

No.27は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、26.2cmを測る。口唇部は短く、断面は台形を呈し、端部は窪む。胴部は膨らみ、２条の突帯が巡る。

No.28は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、27.4cmを測る。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。胴部に１条の突帯が残存する。

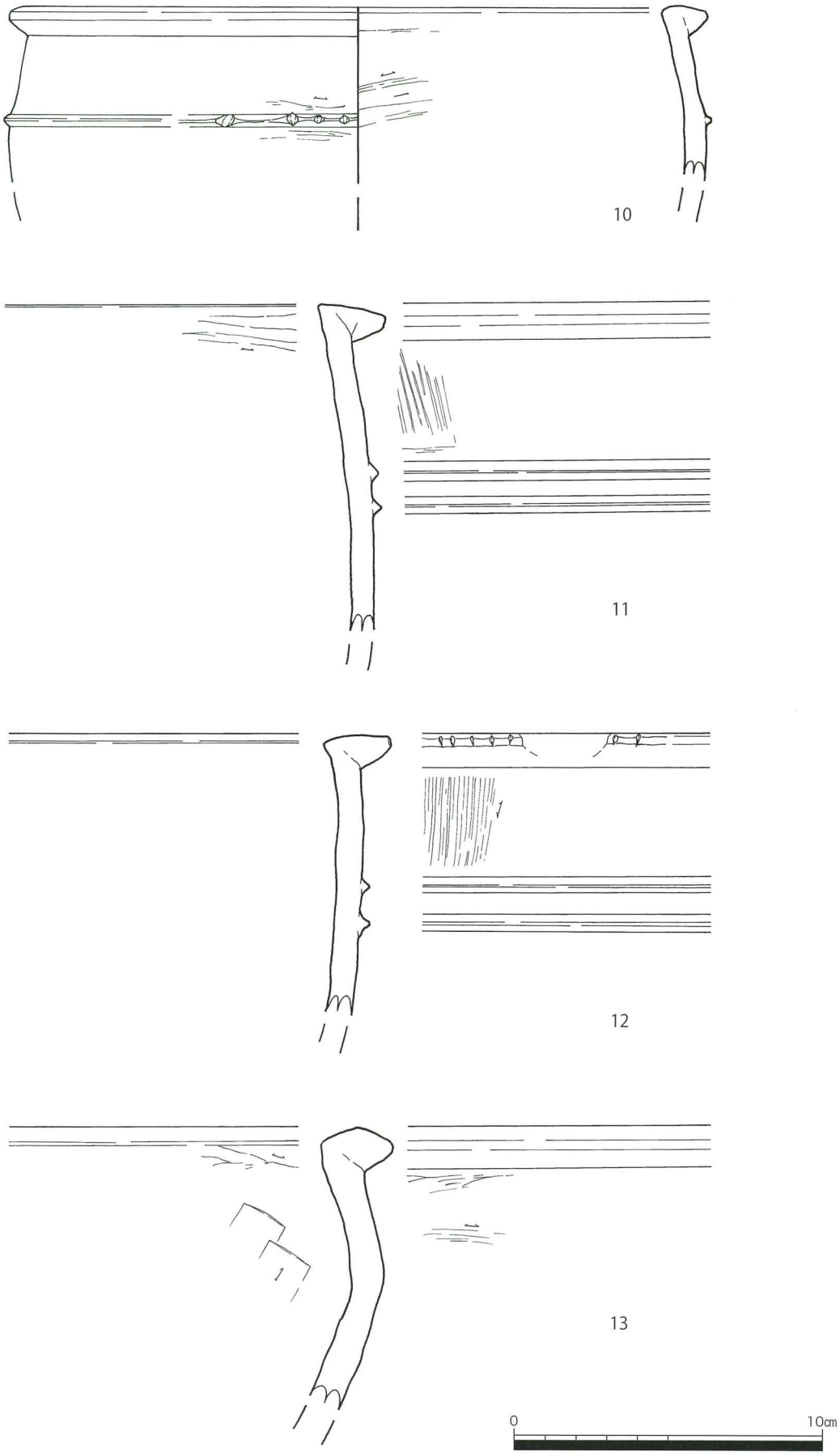
No.29は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、32.4cmを測る。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。胴部はやや膨らみ、３条の突帯が巡る。

No.30は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。胴部には１条の沈線が巡る。

No.31は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。復元口径は、18.4cmを測る。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。胴部は丸みを帯び、２条の沈線が巡る。

No.32は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。胴部には２条の突帯が残存する。

No.33は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。



第42図　弥生時代出土遺物実測図③（S＝1/2）

端部にはキザミが施される。胴部には２条の突帯が巡るが、水平を保っていない。

No.34は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪み、キザミが施される。胴部には４条の突帯が巡り、突帯の上位には、縦に粘土紐状の装飾文が付加される。

No.35は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。胴部には３条の突帯が巡る。

No.36は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面はわずかに上がる。端部は窪む。胴部には２条の突帯が残存する。

No.37は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。胴部には２条の突帯が残存する。突帯の上位には、縦に３条の沈線が施されている。

No.38は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部にはキザミが施される。胴部には１条の突帯が巡る。

No.39は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部にはキザミが施される。胴部には１条の突帯が巡る。

No.40は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部にはキザミが施される。胴部には１条の突帯が巡る。

No.41は、甕形土器の口縁部の破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部にはキザミが施される。端部は窪む。

No.42は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、47.0cmを測る。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪み、キザミが施される。胴部には４条の突帯が巡り、突帯の上位には、縦に３条の粘土紐状の装飾文が付加される。

No.43は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部の下方にキザミが施される。上面はほぼ水平で、内面にはわずかに突起状に出る部分が看取される。胴部には１条の突帯が残存する。

No.44は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、32.2cmを測る。口唇部断面は台形を呈し、端部の下方にキザミが施される。上面はほぼ水平で、内面にはわずかに突起状に出る部分が看取される。

No.45は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面はほぼ水平である。内面にはわずかに突起状に出る部分が看取される。胴部には３条の突帯が巡る。

No.46は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面はほぼ水平である。内面にはわずかに突起状に出る部分が看取される。胴部には１条の突帯が残存する。

No.47は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面はやや丸みを帯びる。内面にはわずかに突起状に出る部分が看取される。胴部には１条の突帯が残存する。

No.48は、甕形土器の口縁部の破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面は中央がかすかに膨らむ。口唇部の厚さは一定しておらず、ユビオサエの痕跡が残る。

No.49は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面はほぼ水平である。胴部には２条の突帯が巡るが、上位のものは断面が潰れていて明瞭でない。

No.50は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面はほぼ水平である。

No.51は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、上面はほぼ水平である。胴部には３条の突帯が巡る。

No.52は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。復元口径は、36.8cmを測る。口唇部断面は台形を呈し、上面はやや跳ね上がる。胴部には２条の突帯が残存する。

No.53は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。復元口径は、14.4cmを測る。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。上面はやや跳ね上がる。胴部はやや膨らむ。

No.54は、甕形土器の口縁部から突帯部にかけての破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部は窪む。上面はやや跳ね上がる。胴部には２条の突帯が残存する。

No.55は、甕形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口唇部断面は舌状を呈し、上面はやや跳ね上がる。内面に突起状に出る部分が看取され、「Ｔ」字状をなす。

No.56は、甕形土器の口縁部の破片である。口唇部断面は舌状を呈し、上面はやや跳ね上がる。内面に突起状に出る部分が看取され、「Ｔ」字状をなす。口唇部外面にはユビオサエの痕跡が残る。

No.57は、甕形土器の口縁部の破片である。口唇部断面は台形を呈し、端部が窪む。上面はやや跳ね上がる。内面に突起状に出る部分が看取され、「Ｔ」字状をなす。胴部には２条の突帯が残存する。

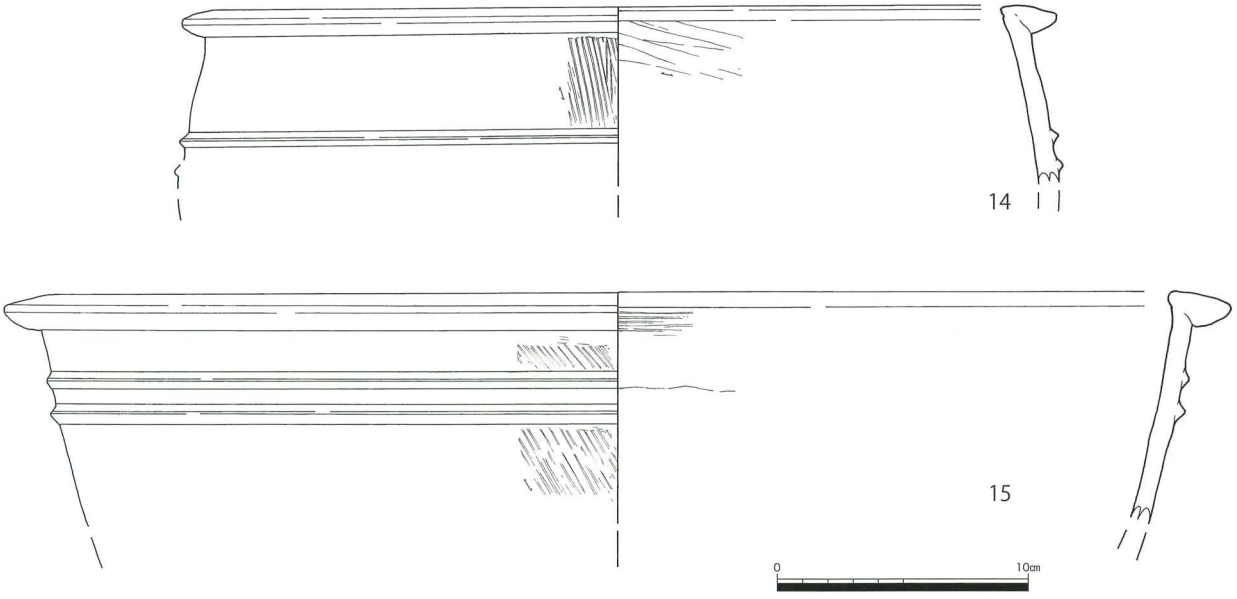
No.58は、甕形土器の口縁部から胴部の破片である。復元口径は、26.8cmを測る。口唇部断面は台形を呈し、端部は丸みを帯びる。上面はやや跳ね上がる。内面に突起状に出る部分が看取され、「Ｔ」字状をなす。

No.59は、甕形土器の口縁部から突帯部の破片である。口唇部断面は舌状を呈し、端部にはキザミが施される。窪む。上面は中央がわずかに窪みやや跳ね上がる。内面に突起状に出る部分が看取され、「Ｔ」字状をなす。胴部には１条の絡状突帯が残存する。

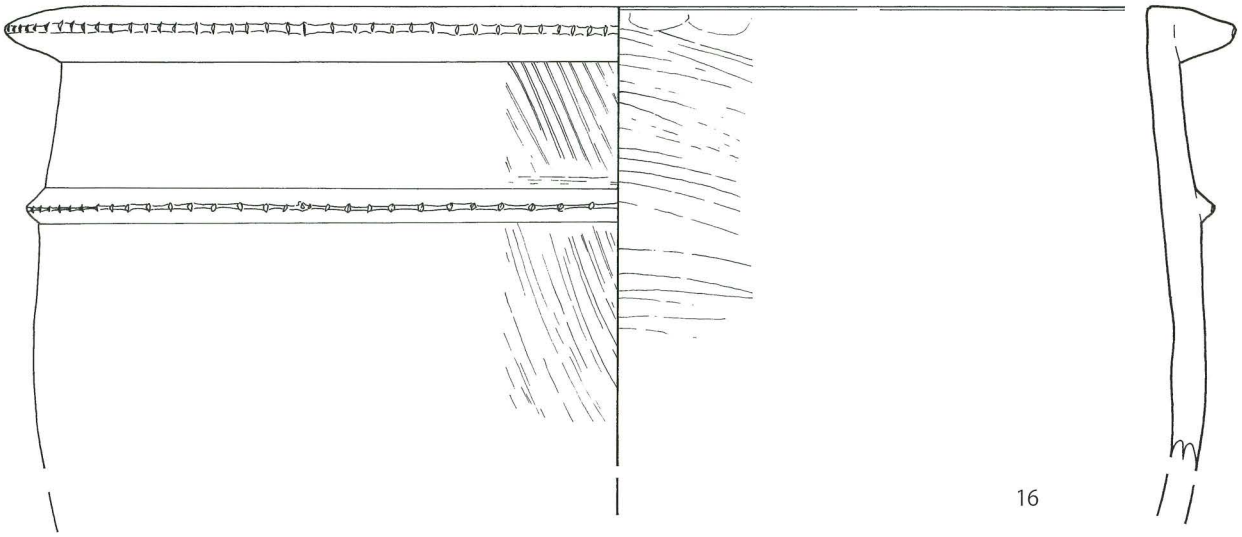
No.60は、甕形土器の底部の破片である。平底である。いわゆる「充実した脚台」といわれるものに比べると脚の部分が短い。底部外面の裾がわずかに外に広がる。底径は7.6ｃｍを測る。

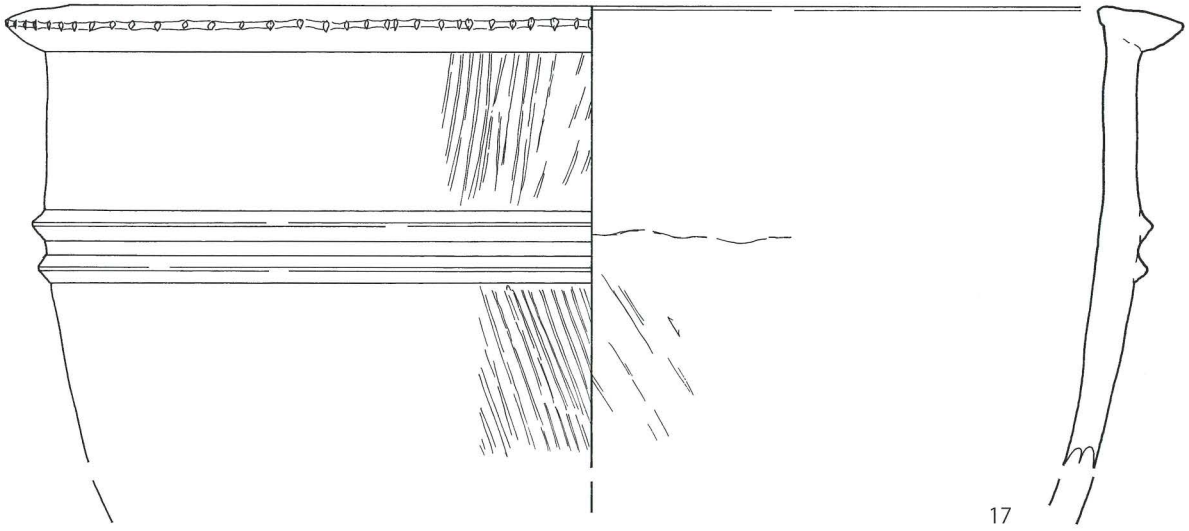
No.61は、甕形土器の底部の破片である。平底である。No.60と同様に脚の部分が短い。底部外面の裾は広がらない。底径は7.9ｃｍを測る。

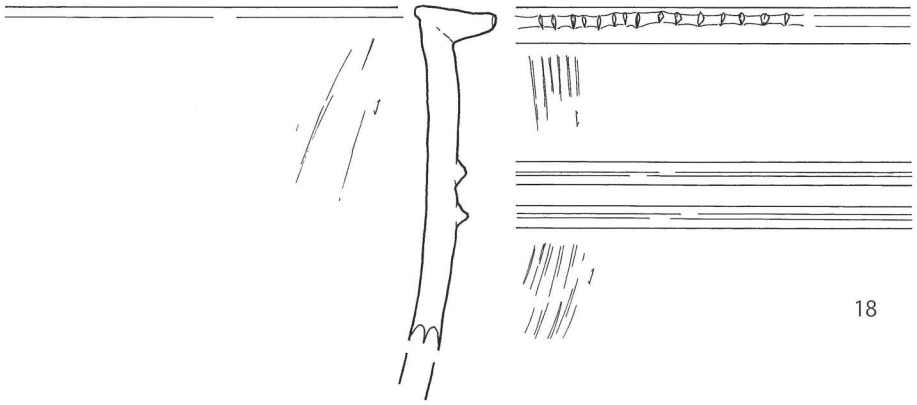
No.62は、甕形土器の胴部から底部の破片である。平底である。No.60、61と同様に脚の部分が短い。胴部外面から底部にかけてミガキが施される。底部外面の裾は広がらない。底径は7.9ｃｍを測る。



第43図　弥生時代出土遺物実測図④（S＝1/3）







第44図　弥生時代出土遺物実測図⑤（S＝1/2）

No.63は、甕形土器の底部の破片である。平底である。No.60～62と同様に脚の部分が短い。底部外面の裾は広がらない。底径は7.3ｃｍを測る。

No.64は、甕形土器の底部の破片である。平底であるが、かすかに中央部があがる。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾は広がらない。底径は7.9ｃｍを測る。

No.65は、甕形土器の底部の破片である。平底である。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾がわずかに外に広がる。底径は7.7ｃｍを測る。

No.66は、甕形土器の底部の破片である。平底である。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾がわずかに外に広がる。底径は7.5ｃｍを測る。

No.67は、甕形土器の底部の破片である。平底である。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾がわずかに外に広がり、端部は丸みを帯びる。底径は6.8ｃｍを測る。

No.68は、甕形土器の底部の破片である。平底である。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾が外に広がる。底径は7.3ｃｍを測る。

No.69は、甕形土器の底部の破片である。平底である。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾が外に広がる。底径は８ｃｍを測る。

No.70は、甕形土器の底部の破片である。平底である。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾が外に広がる。底径は6.9ｃｍを測る。

No.71は、甕形土器の底部の破片である。平底であるが、かすかに中央部があがる。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾が外に広がり、端部は窪む。底径は7.6ｃｍを測る。

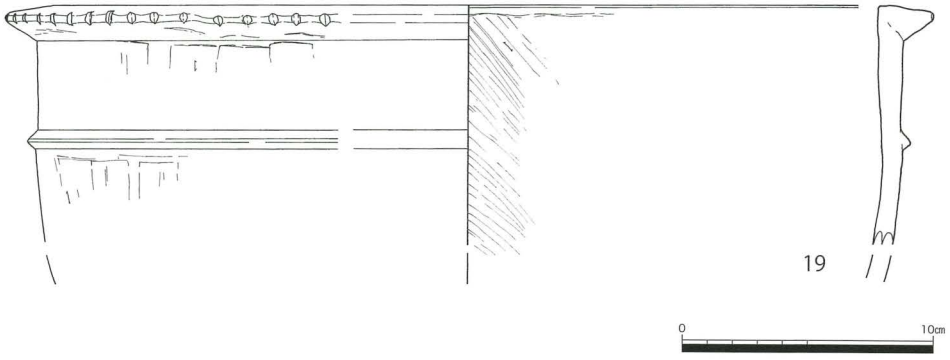
No.72は、甕形土器の底部の破片である。わずかに上げ底になる。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾が外に広がる。底径は7.6ｃｍを測る。

No.73は、甕形土器の底部の破片である。わずかに上げ底になる。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾が外に広がる。底径は7.6ｃｍを測る。

No.74は、甕形土器の底部の破片である。上げ底を呈す。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾が外に広がり、端部が窪む。底径は6.8ｃｍを測る。

No.75は、甕形土器の底部の破片である。上げ底を呈す。「充実した脚台」と表現される底部に比べると脚部が短い。底部外面の裾がわずかに外に広がる。底径は7.4ｃｍを測る。

No.76は、甕形土器の底部の破片である。上げ底を呈す。「充実した脚台」と表現される底部である。底部外面の裾が外に広がり、端部が窪む。底径は8.3ｃｍを測る。

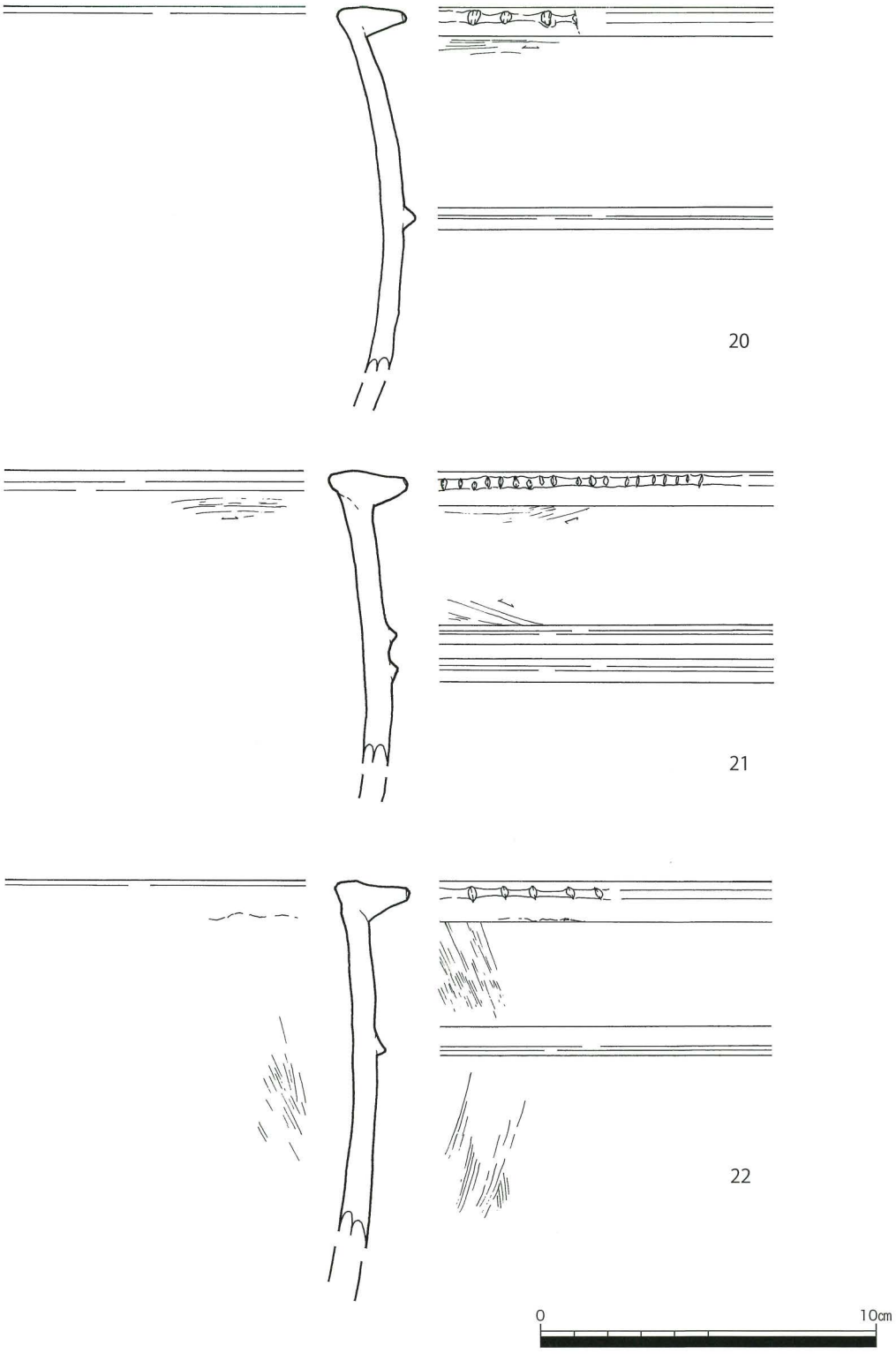


第45図　弥生時代出土遺物実測図⑥（S＝1/3）

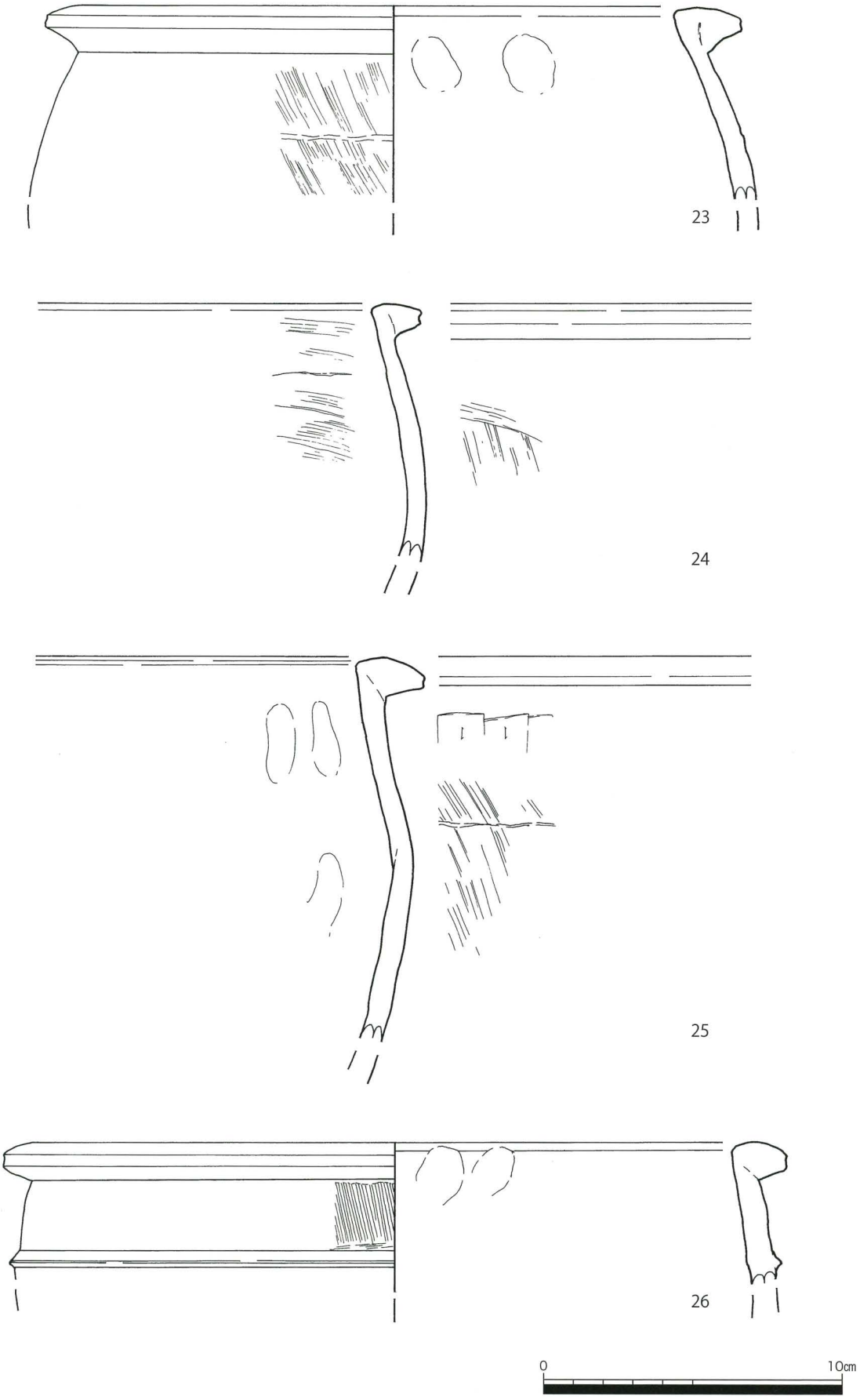
壷形土器

No.77は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。復元口径は10.8ｃｍを測る。口縁部は外反する。口唇端部は平坦で外面に稜を形成する。内外面ともにミカギが施される。

No.78は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。復元口径は14.3ｃｍを測る。口縁部は外反する。口



第46図　弥生時代出土遺物実測図⑦（S＝1/2）

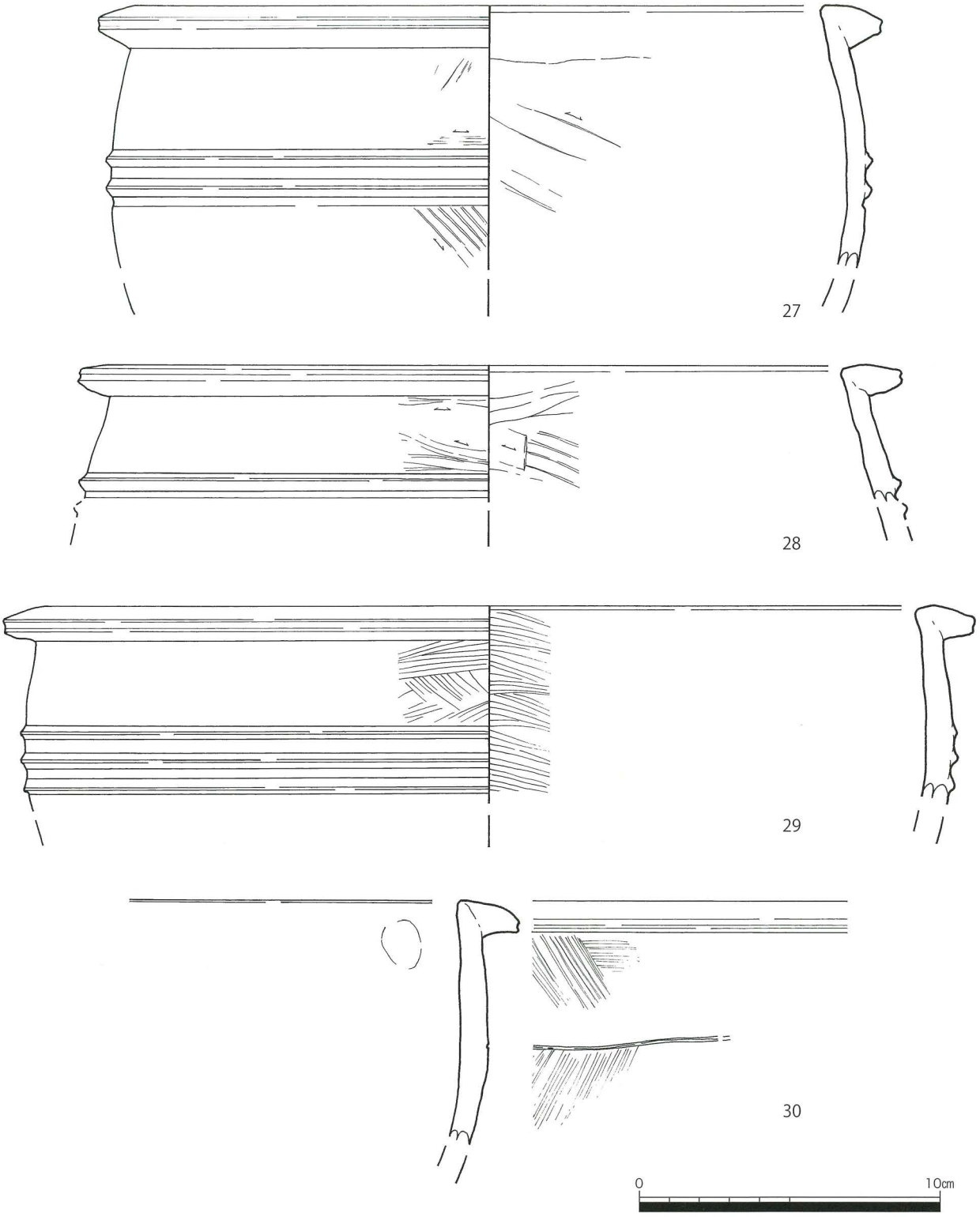


第47図　弥生時代出土遺物実測図⑧(S＝1/2)

唇部は丸みを帯びる。

No.79は、壷形土器の口縁部の破片である。口縁部は外反する。口唇端部はほぼ平坦である。

No.80は、壷形土器の壷形土器の口縁部から頸部の破片である。復元口径は18.0ｃｍを測る。口縁部は外反する。口唇端部はたまぶち状を呈し、内面に稜を形成する。



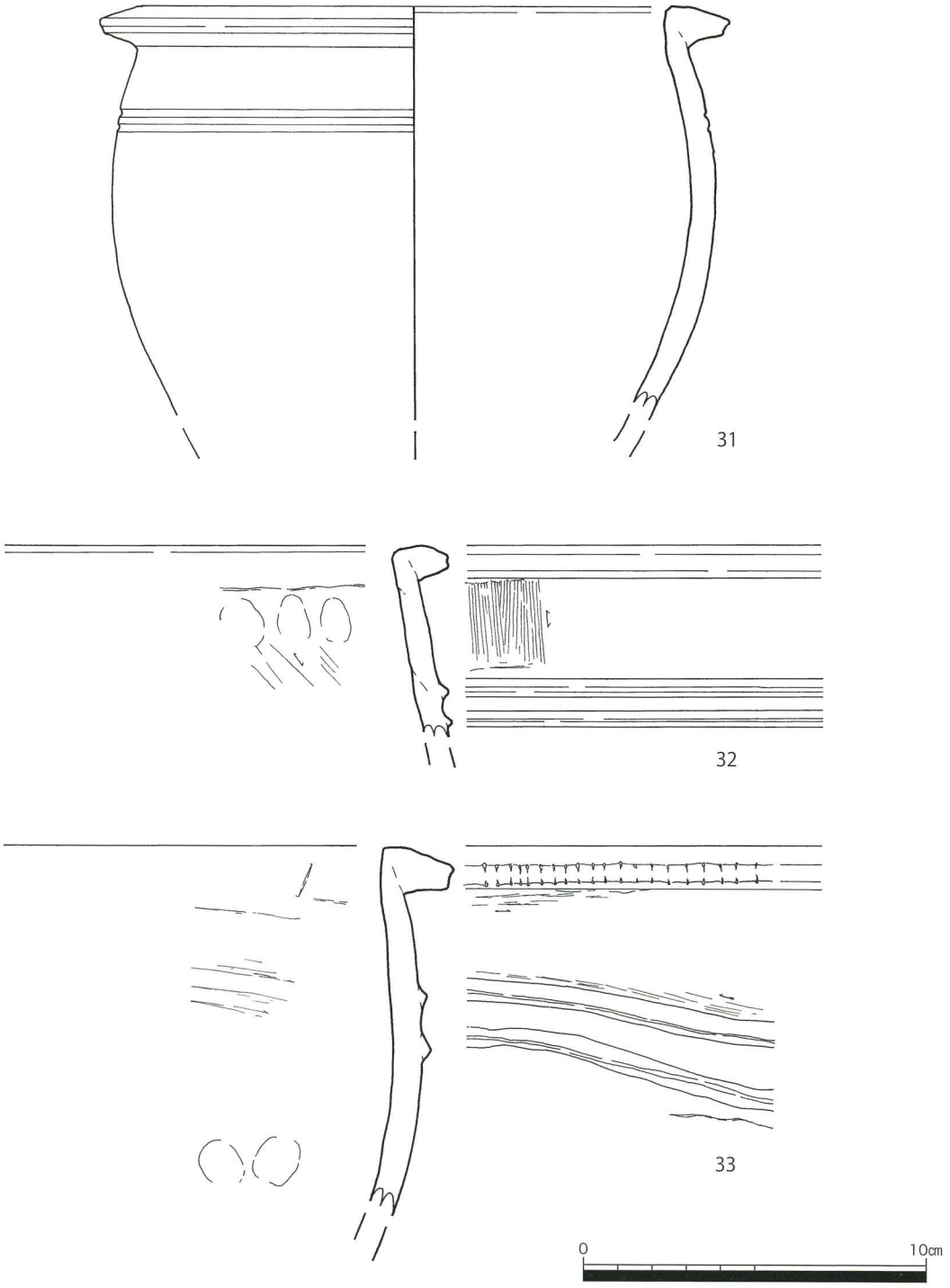
第48図　弥生時代出土遺物実測図⑨（S＝1/2）

No.81は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。復元口径は19.5ｃｍを測る。口縁部は外反する。口唇端部は丸みを帯びる。

No.82は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。復元口径は15.4ｃｍを測る。口縁部は外反する。口唇端部はかすかに窪む。

No.83は、壷形土器の口縁部の破片である。口縁部は外反する。口唇端部は窪む。

No.84は、壷形土器の口縁部の破片である。口縁部は外反する。口唇端部は窪む。



第49図　弥生時代出土遺物実測図⑩（S＝1/2）

No.85は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。復元口径は18.8ｃｍを測る。口縁部は外反する。口唇端部は窪み、外面に明瞭な稜を形成する。内外面ともにミカギが施される。

No.86は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。口縁部は外反する。口唇端部は窪み、外面に明瞭な稜を形成する。口縁部内面には1条の凸帯が巡る。

No.87は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。復元口径は20.2ｃｍを測る。口縁部は外反し、逆「Ｌ」字を呈し下方に垂れる。口唇端部は窪み、キザミが施される。口縁部内面には２条の凸帯が巡る。

No.88は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。復元口径は20.0ｃｍを測る。口縁部は外反し、逆「Ｌ」字を呈し下方に垂れる。口唇端部は窪む。

No.89は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。口縁部は外反し、逆「Ｌ」字を呈し下方に垂れる。口縁部内面には２条の凸帯が巡る。

No.90は、壷形土器の口縁部から頸部の破片である。復元口径は21.0ｃｍを測る。口縁部は外反し、逆「Ｌ」字を呈す。口唇端部は窪み、上面には刺突文が施されている。

No.91は、壷形土器の口縁部の破片である。口縁部は外反し、逆「Ｌ」字を呈す。口唇端部は欠損している。口縁部内面には１条の凸帯が巡り、その上位に刺突文が施されている。

No.92は、壷形土器の肩部から胴部の破片である。肩部から胴部にかけてなだらかにカーブし、肩部には３条の突帯が巡る。

No.93は、壷形土器の肩部の破片である。胴部が大きく膨らむもので、肩部には３条の突帯が巡る。

No.94は、壷形土器の底部の破片である。平底である。底径は6.4ｃｍを測る。底部から胴部に向けて大きく開く。

No.95は、壷形土器の底部の破片である。平底である。底径は6.3ｃｍを測る。底部から胴部に向けて大きく開く。

No.96は、壷形土器の底部の破片である。わずかに上げ底となる。底径は7.3ｃｍを測る。

No.97は、壷形土器の底部の破片である。平底である。底径は6.3ｃｍを測る。

No.98は、壷形土器の底部の破片である。平底である。底径は4.8ｃｍを測る。

No.99は、壷形土器の底部の破片である。底部中央部分がわずかに上げ底となる。底径は8.4ｃｍを測る。底部から胴部に向けて大きく開く。

No.100は、壷形土器の底部の破片である。平底である。底径は7.2ｃｍを測る。底部から胴部に向けて大きく開く。

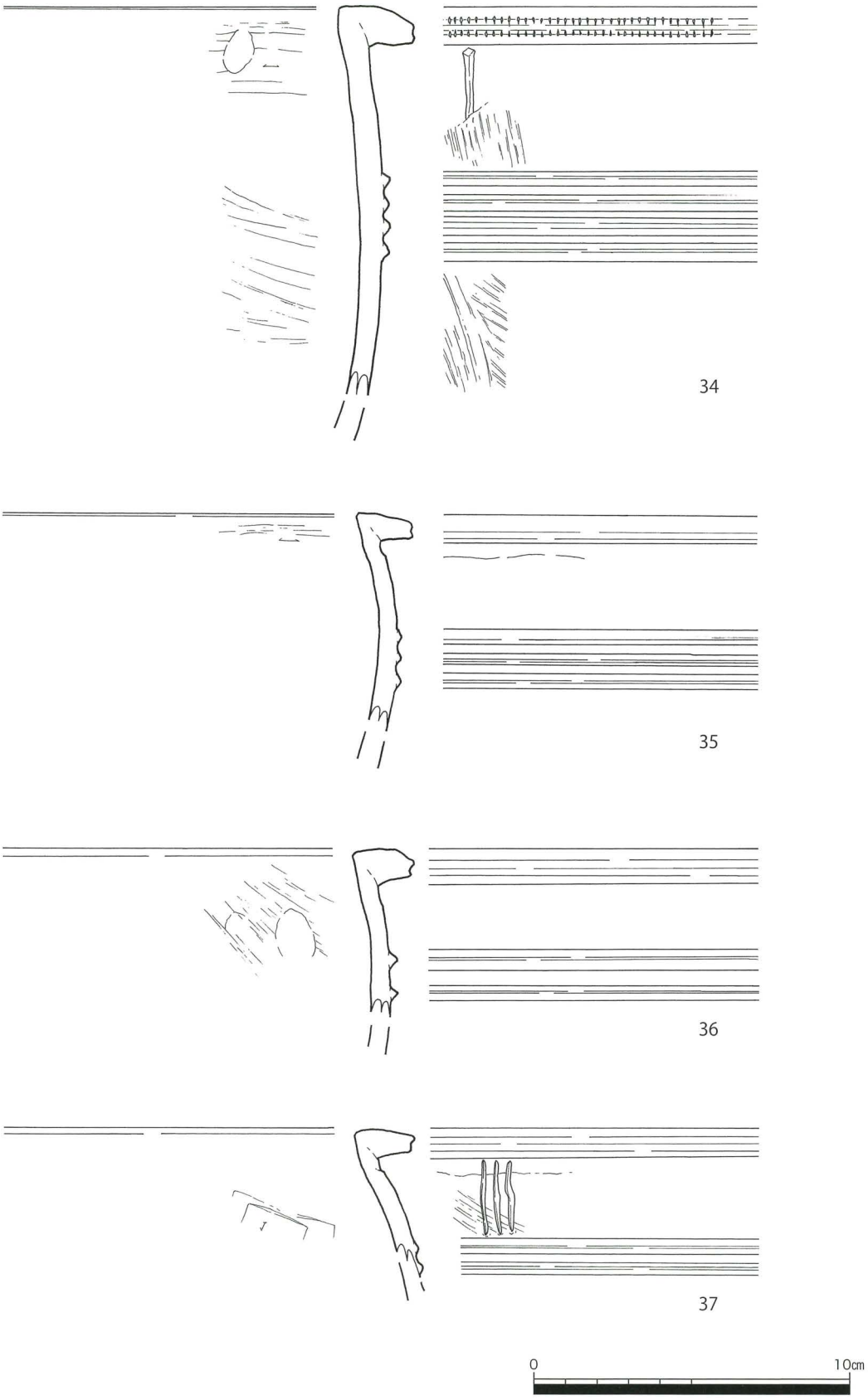
No.101は、壷形土器の底部の破片である。平底である。底径は8.4ｃｍを測る。底部から胴部に向けて大きく開く。

No.102は、壷形土器の底部の破片である。平底である。底径は9.0ｃｍを測る。底部から胴部に向けて大きく開く。

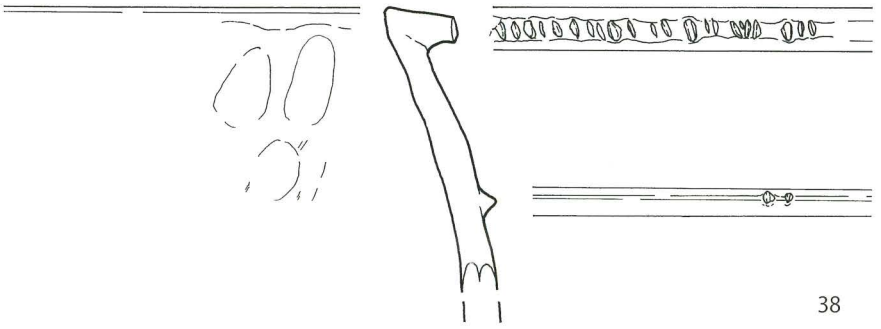
No.103は、壷形土器の底部の破片である。平底である。底径は7.4ｃｍを測る。底部から胴部に向けて大きく開く。

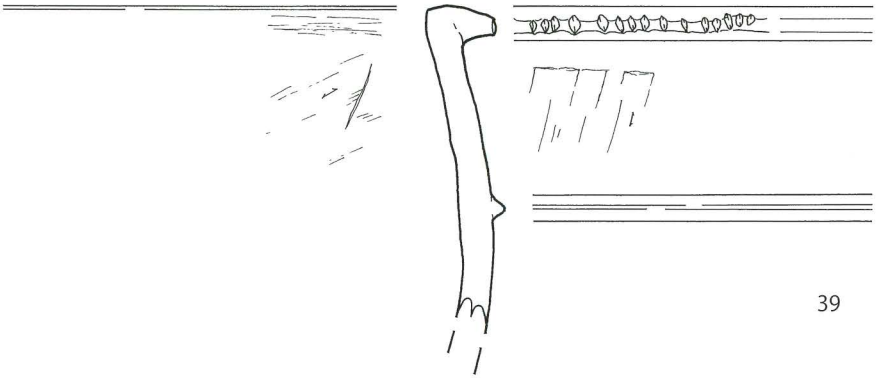
鉢形土器

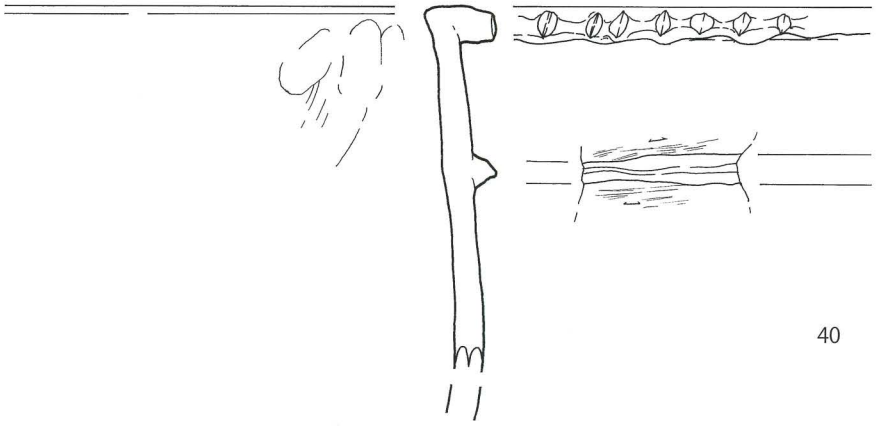
No.104は、鉢形土器の底部、口縁部から胴部の破片である。ボール状の器形を呈する。復元口径は、21.4cmを測る。口縁部は胴部から屈曲しほぼ垂直に立ち上がり、屈曲部分外面には稜を形成する。底部は平底である。底径は6.6ｃｍを測る。外面はミガキによって仕上げられている。

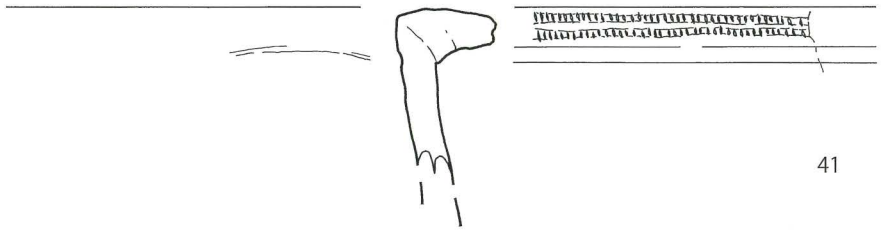


第50図　弥生時代出土遺物実測図⑪（S＝1/2）









第51図　弥生時代出土遺物実測図⑫（S＝1/2）

高杯

No.105は、高杯の底部から脚部の破片である。底径は12.5cm、脚部の高さは11.4cmを測る。底部の端部は「レ」の字状をなす。内面の見込みが大きい。

No.106は、高杯の脚部の破片である。脚部は直線的に伸び、底部は伏せた皿状に大きく広がるものである。

その他の器種

No.107は、コップ形を呈する土器の底部から胴部の破片である。復元底径は9.7cmを測る。やや丸みを帯びた底部からわずかに内傾しながら胴部へと繋がる。底部から５cm程上位の胴部外面には２条の沈線が巡り、さらに５cm程上位にも２条の沈線が巡る。脚部の高さは11.4cmを測る。底部の端部は「レ」の字状をなす。横位に巡った沈線の間には、２条の沈線が斜めに施され鋸歯状をなす。

高橋Ⅰ式土器

No.108は、刻目突帯文土器の系譜を引く高橋Ⅰ式土器と思われる。口縁部はわずかに内傾する。口唇部はわずかに肥厚し、外面にはキザミが施される。胴部への屈曲部にも突帯がめぐり、キザミが施される。

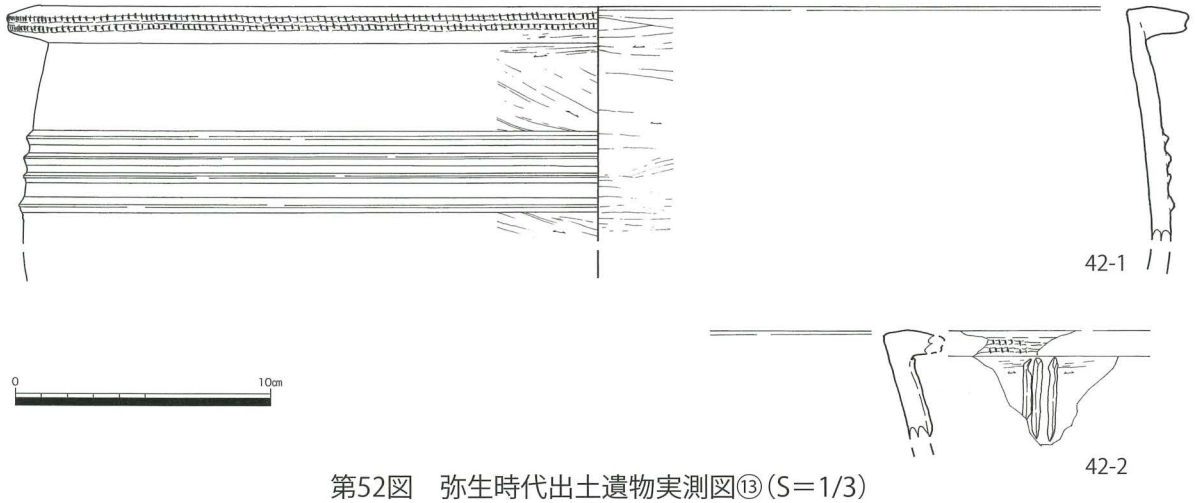
（文責　渡部）

石器

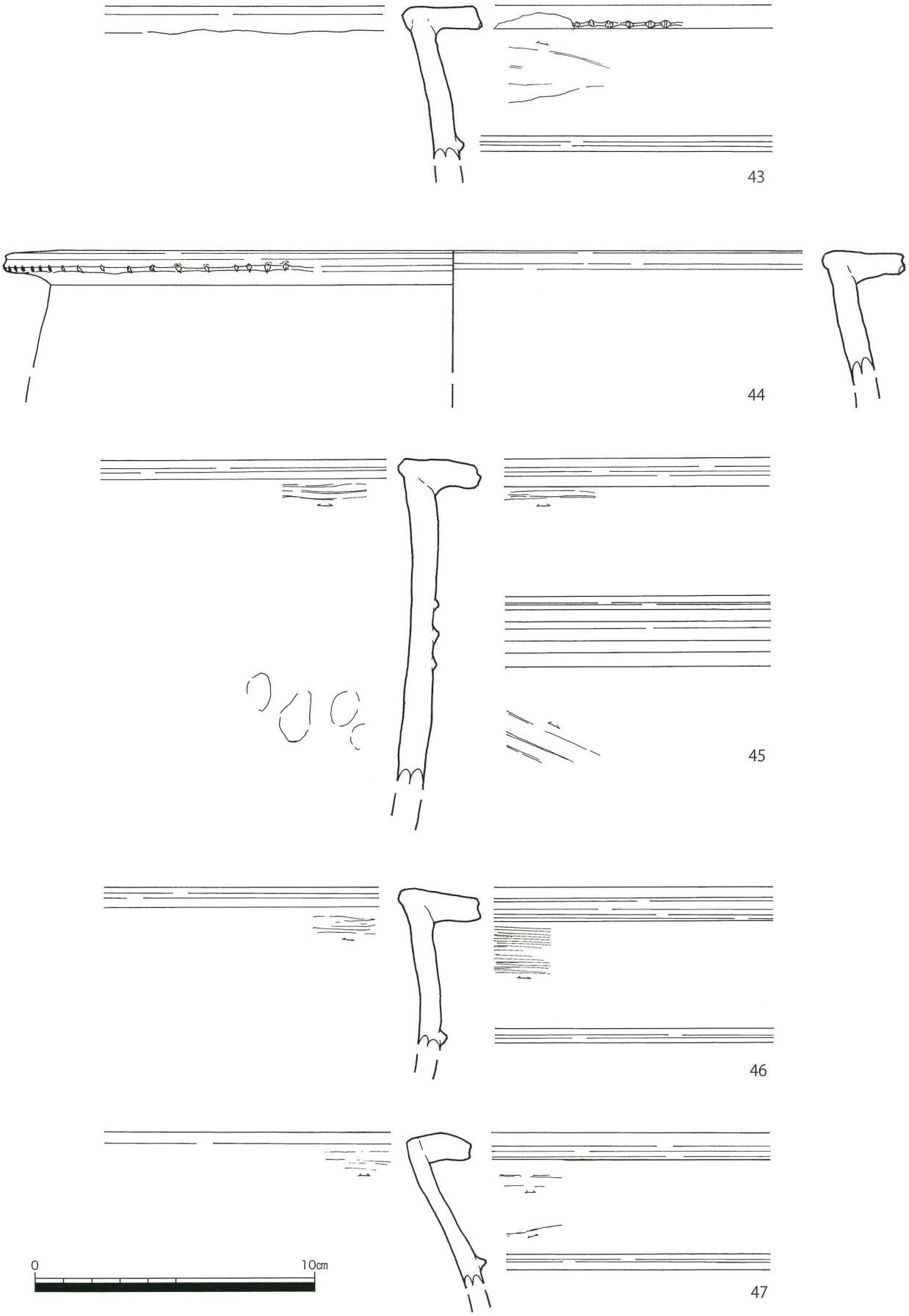
No.109は、流紋岩製の磨製片刃石斧である。いわゆる大陸系磨製石器の一群をなす片刃石斧である。基部は欠損しているため、本来の法量は不明である。使用による欠損の剥離痕以外は、全ての面が丁寧に研磨されており、素材を調整する段階の剥離痕は認められない。研磨については、肉眼観察で認められた研磨痕を図示しているが、拡大レンズでの観察では、図示以外の方向の研磨も認められる。刃部には、微細な使用痕が認められる。また、ｂ面刃部端部には、線状痕が顕著に認められる。ｂ面刃部左端の使用痕の剥離痕内にも線状痕が認められることから、推測の域を出ないものの刃部の研ぎ直しが行われた可能性も考えられる。基部側の欠損面の観察によると、基部はｂ面側からの加撃によって欠損したことが考えられる。

No.110は、流紋岩製の打製石斧である。長さに対して幅が狭い短冊形をしているものの、両肩部に若干の抉りが認められる。周辺の調整は大まかであり、ａ面基部側では樋状の剥離が連続的に認められる。ａ面の両側縁の調整は、ｂ面と比較して剥離角が急であるため、断面形状がＤ字を呈している。刃部はやや直線的な斜刃であり、使用による摩滅が認められる。

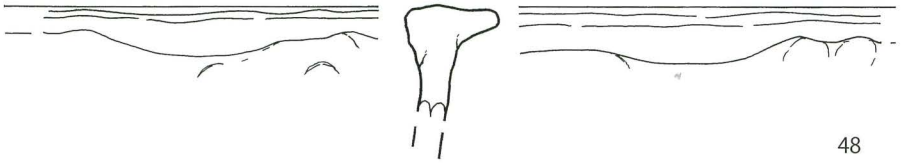
No.111は、流紋岩製の打製石斧である。両肩部に抉りが認められる。ｂ面中央部の剥離は、素材の主要剥離面であるが、打瘤や貝殻状裂痕の状態から比較的大きな素材と類推することができる。刃部は丸み帯

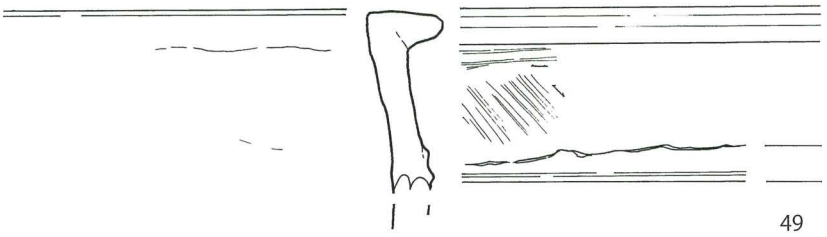


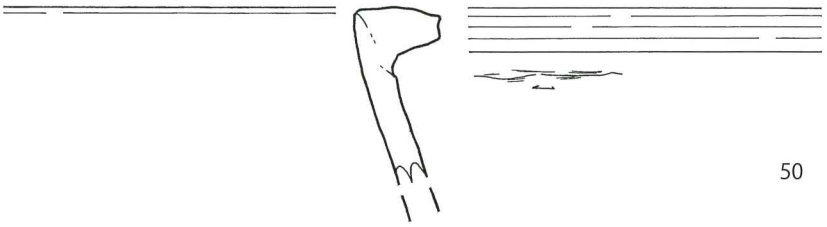
第52図　弥生時代出土遺物実測図⑬（S＝1/3）

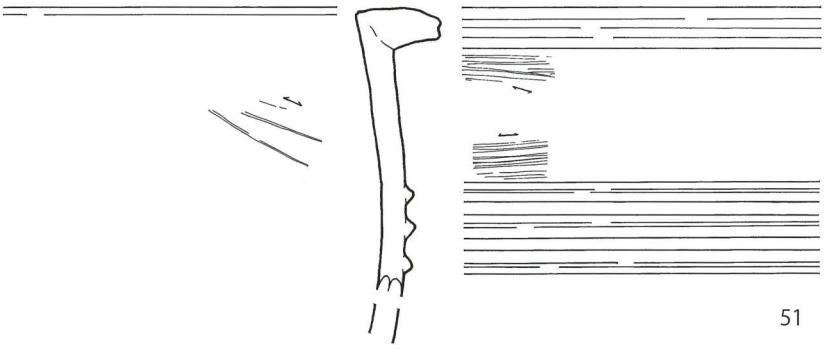


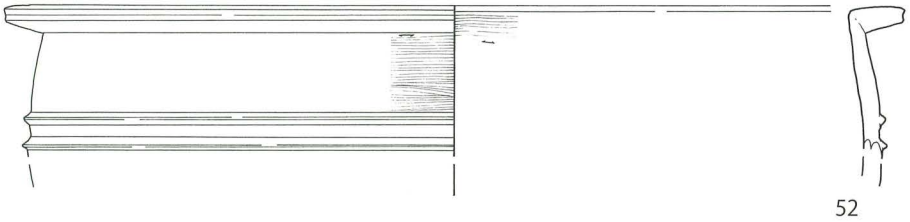
第53図　弥生時代出土遺物実測図⑭（S＝1/2）



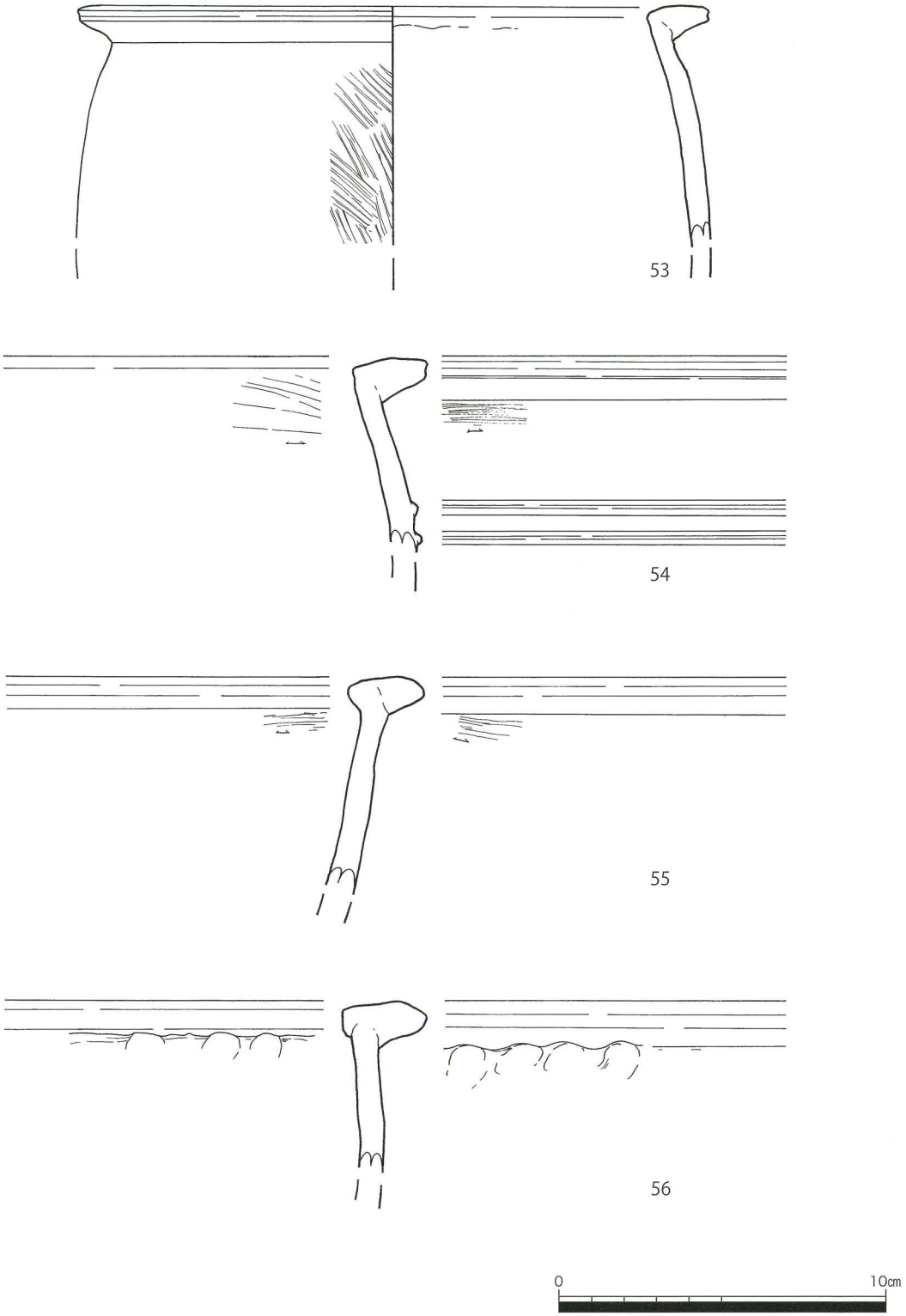








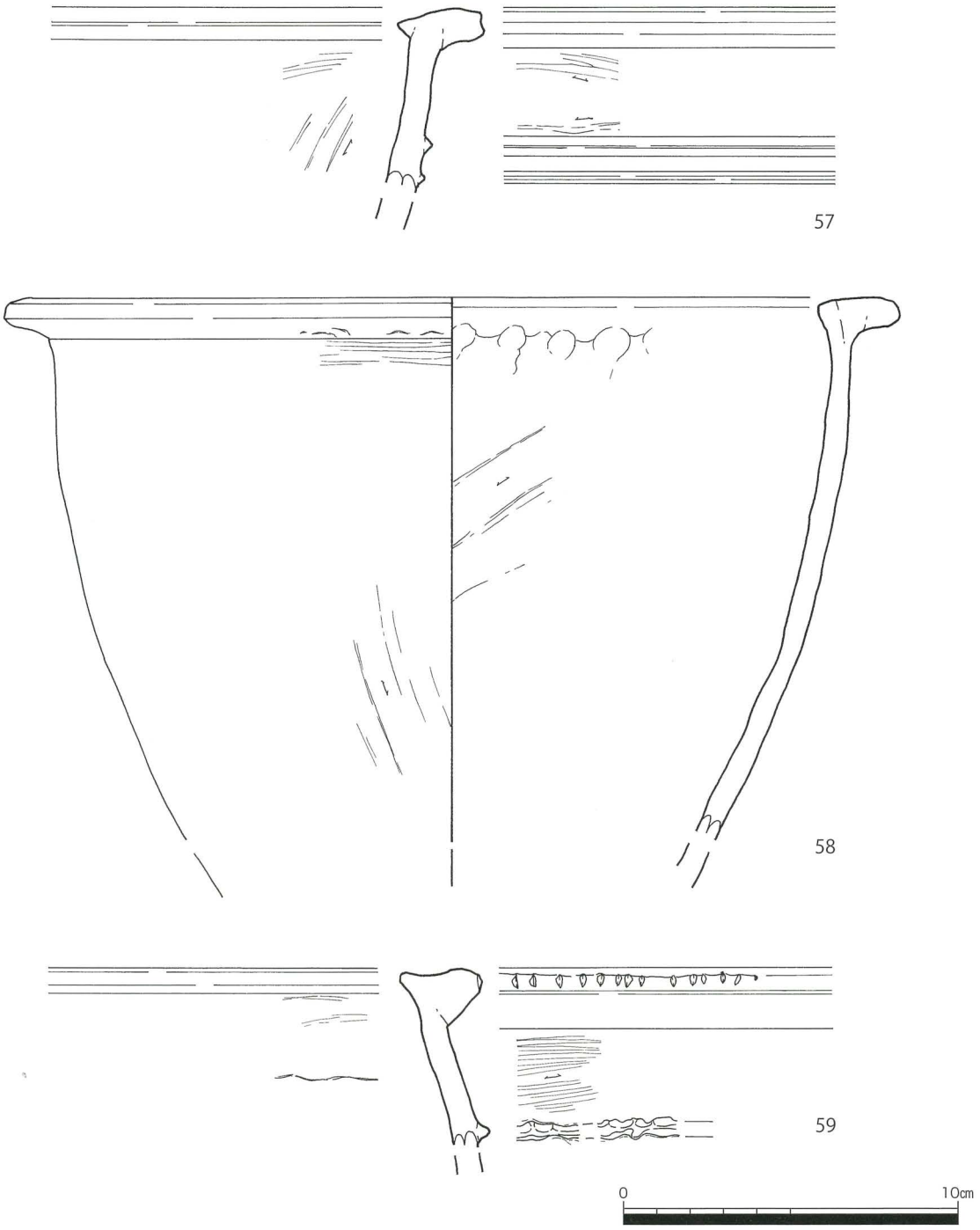
第54図　弥生時代出土遺物実測図⑮（48～51はS＝1/2、52はS＝1/3）



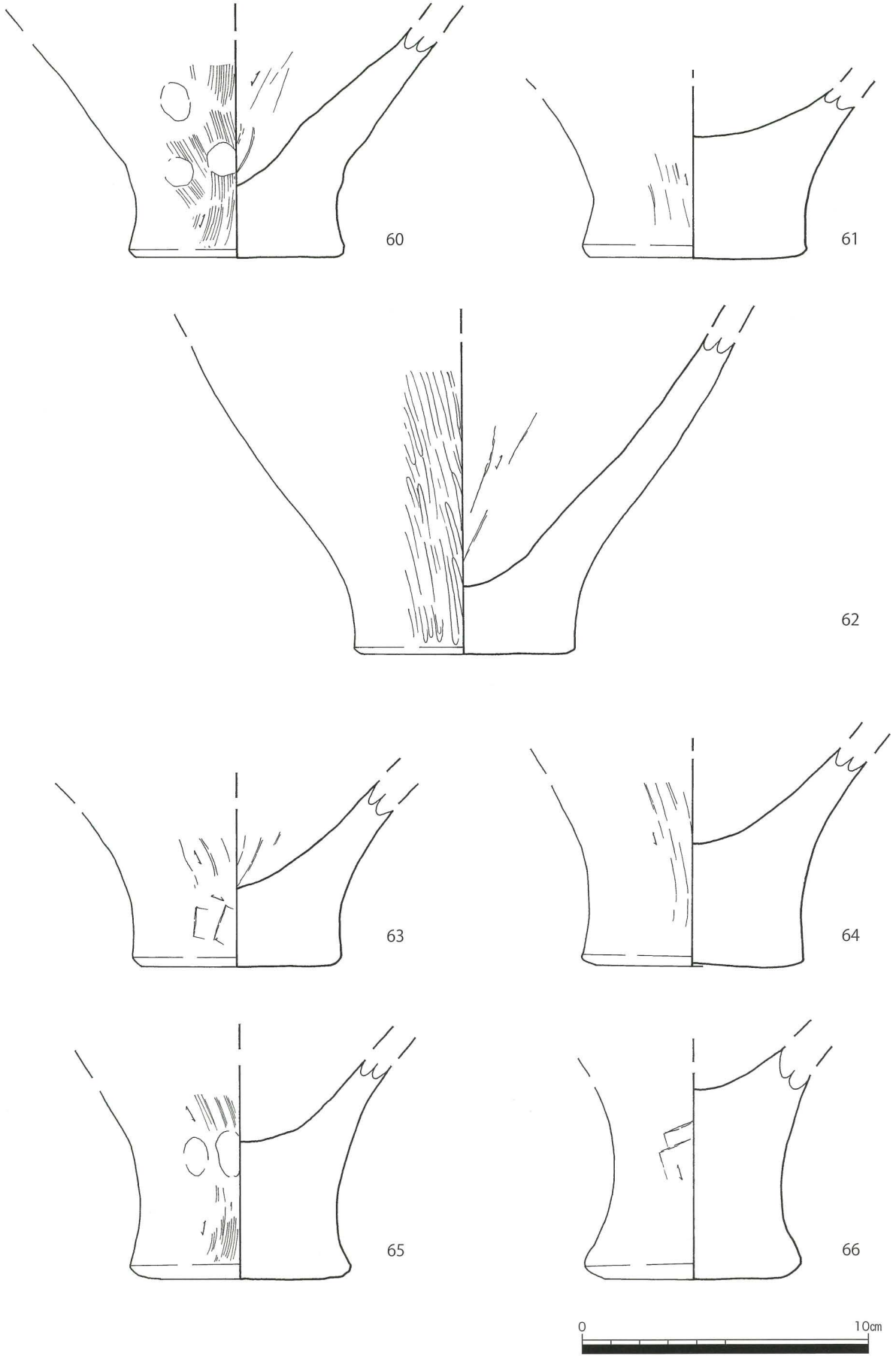
第55図　弥生時代出土遺物実測図⑯（S＝1/2）

びており、その端部には使用による摩滅が認められる。また、a 面中央付近並びに b 面肩部付近には、装着によるものと推測できる摩滅が認められる。両側縁の調整は、大まかな剥離であり階段状剥離を呈している。基部端部には、摩滅と微細な剥離痕が認められる。

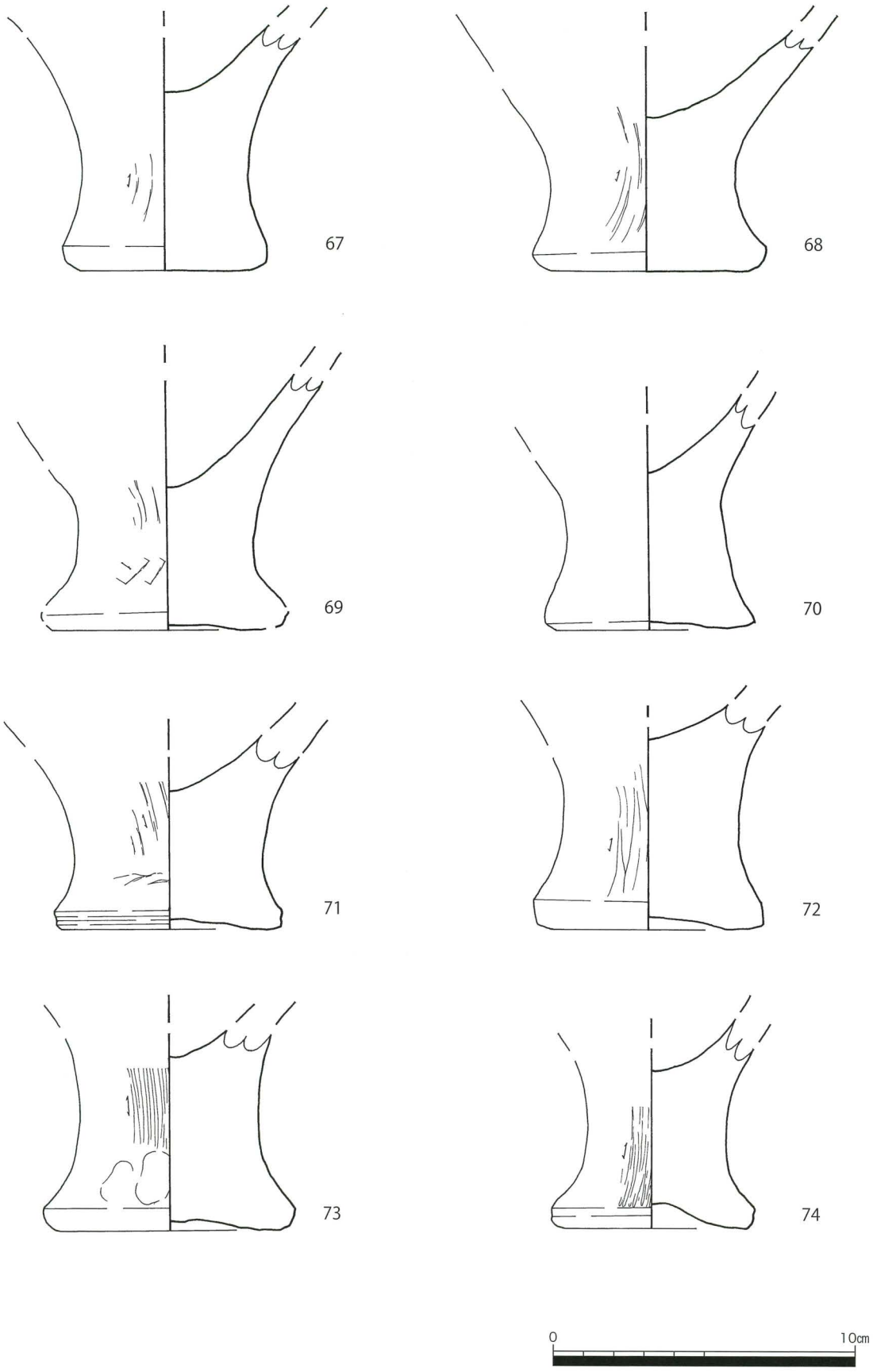
No.112は、流紋岩製の横刃形石器である。平面形状は不整形な三角形を呈している。b 面中央部には、素材剥片の主要剥離面が認められる。また、打面の一部が b 面右側面に残されている。a 面下端部と左側縁は、a 面・b 面の両面側からの調整によって整形されている。刃部は、素材剥片の打瘤及び打面を両面側からの調整によって除去することで形成されている。f 面の観察によると、刃部調整が大まかなため刃部は直線的ではない。刃部には微細な使用痕と摩滅が認められる。



第56図　弥生時代出土遺物実測図⑰（S＝1/2）



第57図　弥生時代出土遺物実測図⑱（S＝1/2）



第58図　弥生時代出土遺物実測図⑲（S＝1/2）

No.113は、安山岩製の打製石鏃である。いわゆる三角鏃に分類されるものである。基部はほぼ平坦であるものの、a面右脚が左脚よりやや長い。調整はa面・b面の両面側から施されており、特に、先端部と基部は薄い。調整の剥離痕の切合いから、a面→b面の順番で調整が施されていることが窺える。石鏃の最大厚が、中央部より基部側に位置しているため、d面の観察では不整形な菱形を呈している。

No.114は、砂岩製の磨製石鏃である。先端部と基部が欠損しているものの、長身鏃に分類される磨製石鏃である。残存する長さは4.9cmを測るが、欠損部分を考慮すると本来は5.5cm以上を測るものであったと推測できる。a面とb面ともに比較的丁寧に研磨されているものの、a面左側面下部と中央部、さらにb面中部付近には研磨段階以前の調整段階の剥離痕が残存している。研磨方向は、大部分は長軸方向のものと斜め方向のものが認められる、若干、短軸方向の研磨も求められる。a面・b面には,研磨による稜が一条、あるいは二条形成されているめ、断面形状はきれいなレンズ状を呈していない。a面・b面の両側縁には、使用によるものと考えられる微細な使用痕が認められる。b面右側面下部の剥離痕は,基部が欠損した際に,剥落したものと考えられる。

No.115は、安山岩製の凹石である。ほぼ円形を呈した凹石であり、a面・b面中央部に凹面が顕著に認められる。凹面の深さは、a面・b面とも概ね2mm程度の深さである。また、a面右側面には敲打痕が認められる。a面・b面中央部の平坦面は,他の自然面と比較して滑らかであることから、磨石として利用されていたことも推測できる。

No.116は、安山岩製の凹石である。楕円形を呈した凹石であり、a面中央部に凹面が顕著に認められる。凹面の深さは約5mmを測り、先述したNo.115と比較して深い。a面右側部には敲打痕が認められる。さらに,b面中央部の平坦面は、他の自然面と比較して若干滑らかであることから、磨石として利用されていたことも推測できる。

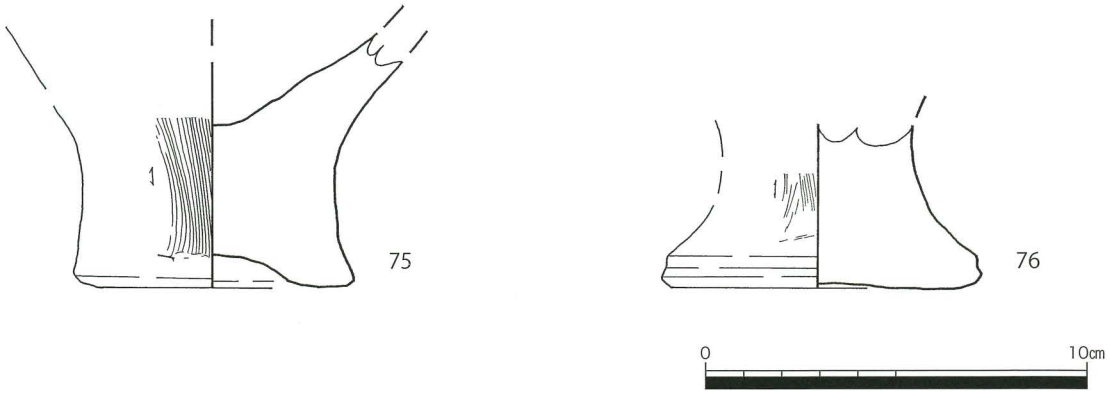
No.117は、岩偶状の軽石製加工品である。扁平な楕円形の軽石の両端部を削り出し、頭部のような突起を作り出している。

No.118は、舟形状の軽石製加工品である。扁平な楕円形の軽石の片面中央付近が浅く窪む。

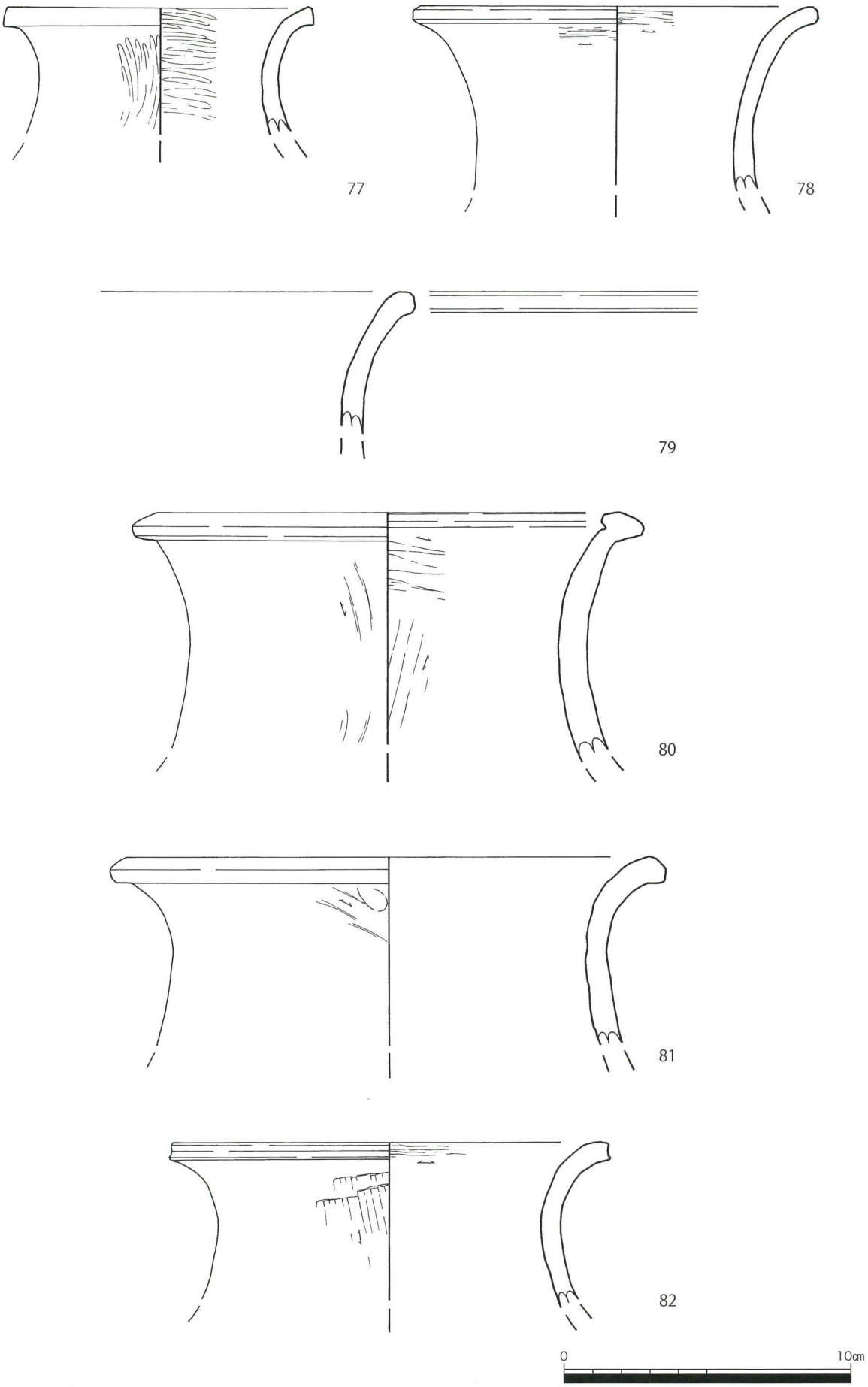
No.119は、獣形の軽石製加工品である。扁平な楕円形の軽石の側面にキザミを施し連続する凹凸を作り出している。また、四肢を表現したような加工も看取される。

No.120は、陰石状の軽石製加工品である。扁平な楕円形の軽石の片面中央に穿孔を施したものと思われるが半分が欠損している。

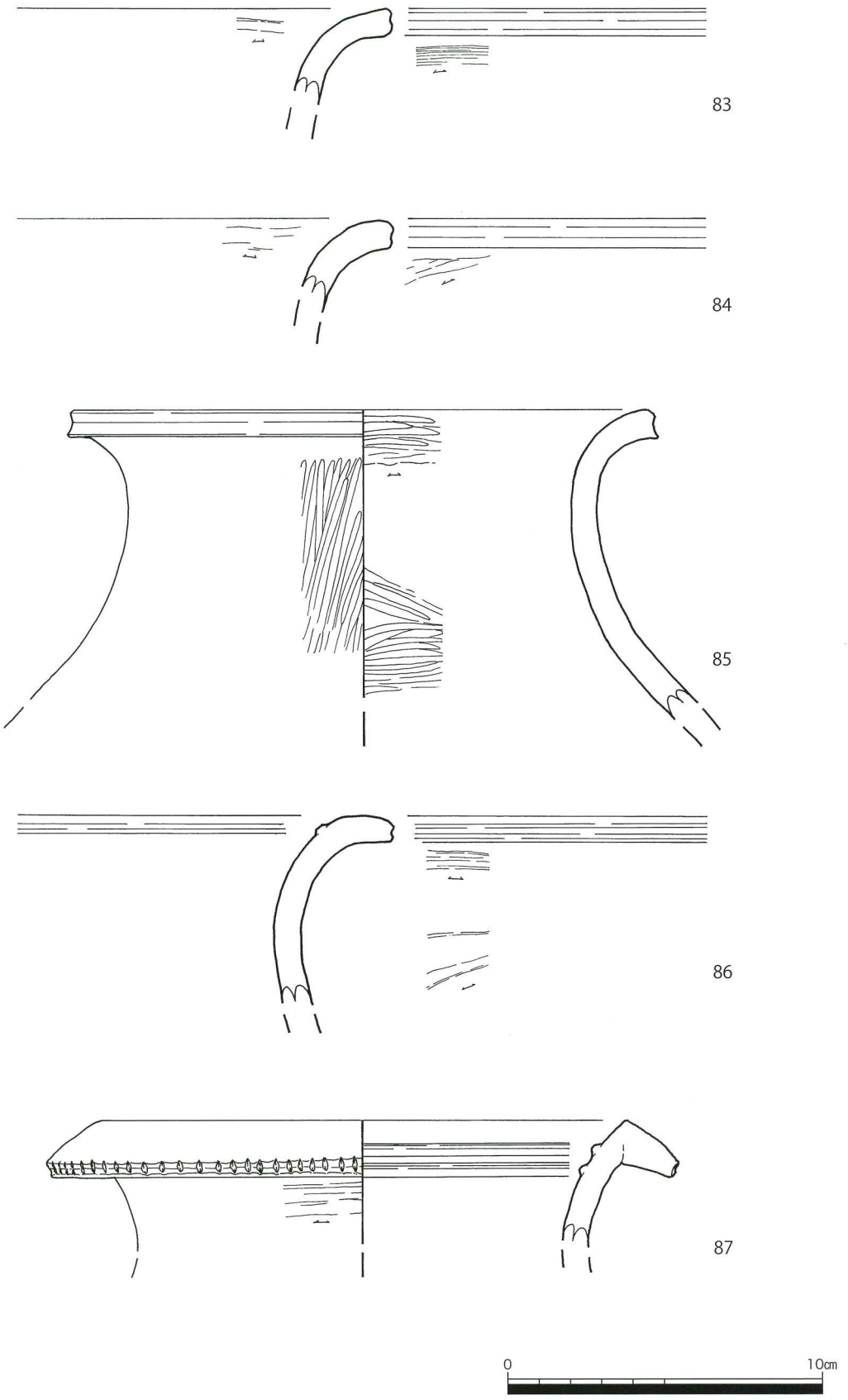
（文責　鎌田〔No.109～116〕・渡部〔No.117～120〕）



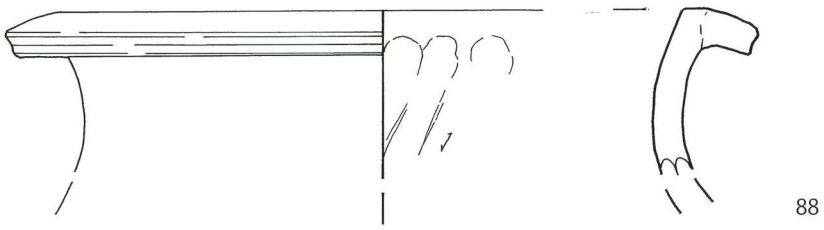
第59図　弥生時代出土遺物実測図⑳（S＝1/2）

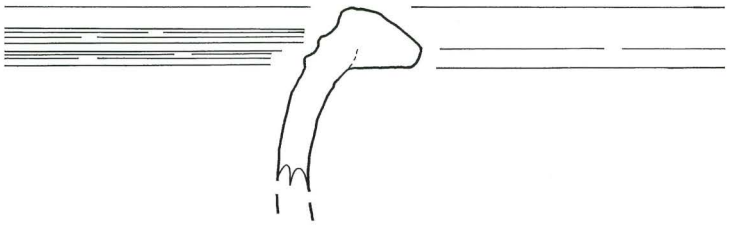


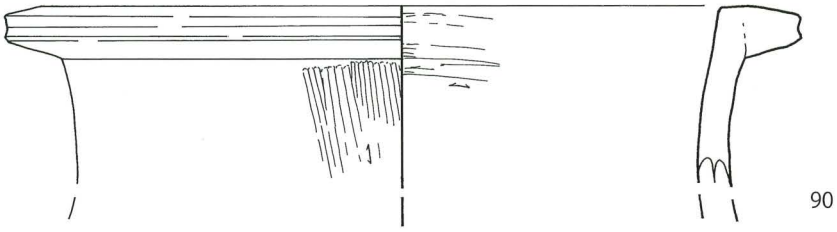
第60図　弥生時代出土遺物実測図㉑（S＝1/2）



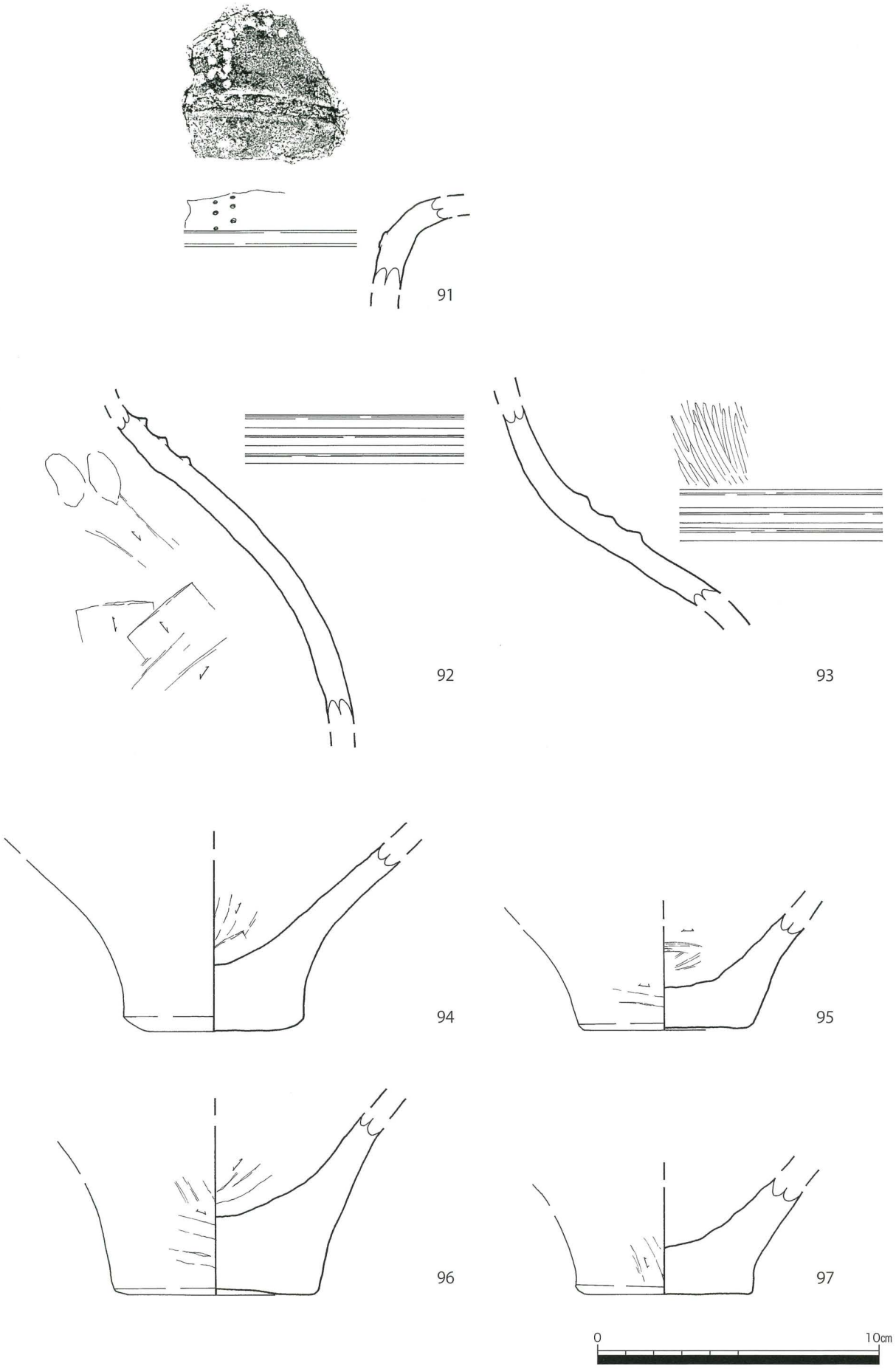
第61図　弥生時代出土遺物実測図㉒（S＝1/2）



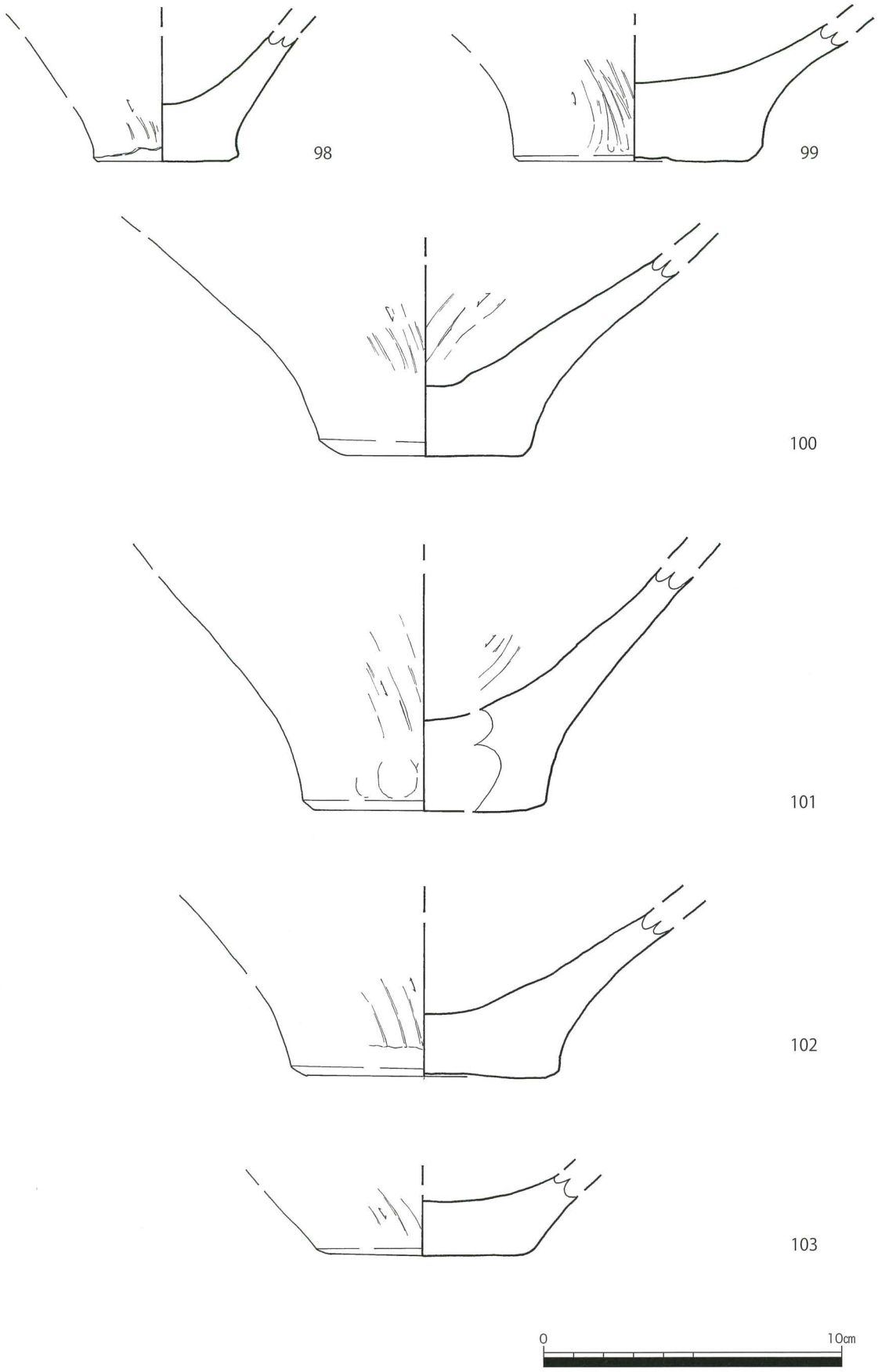




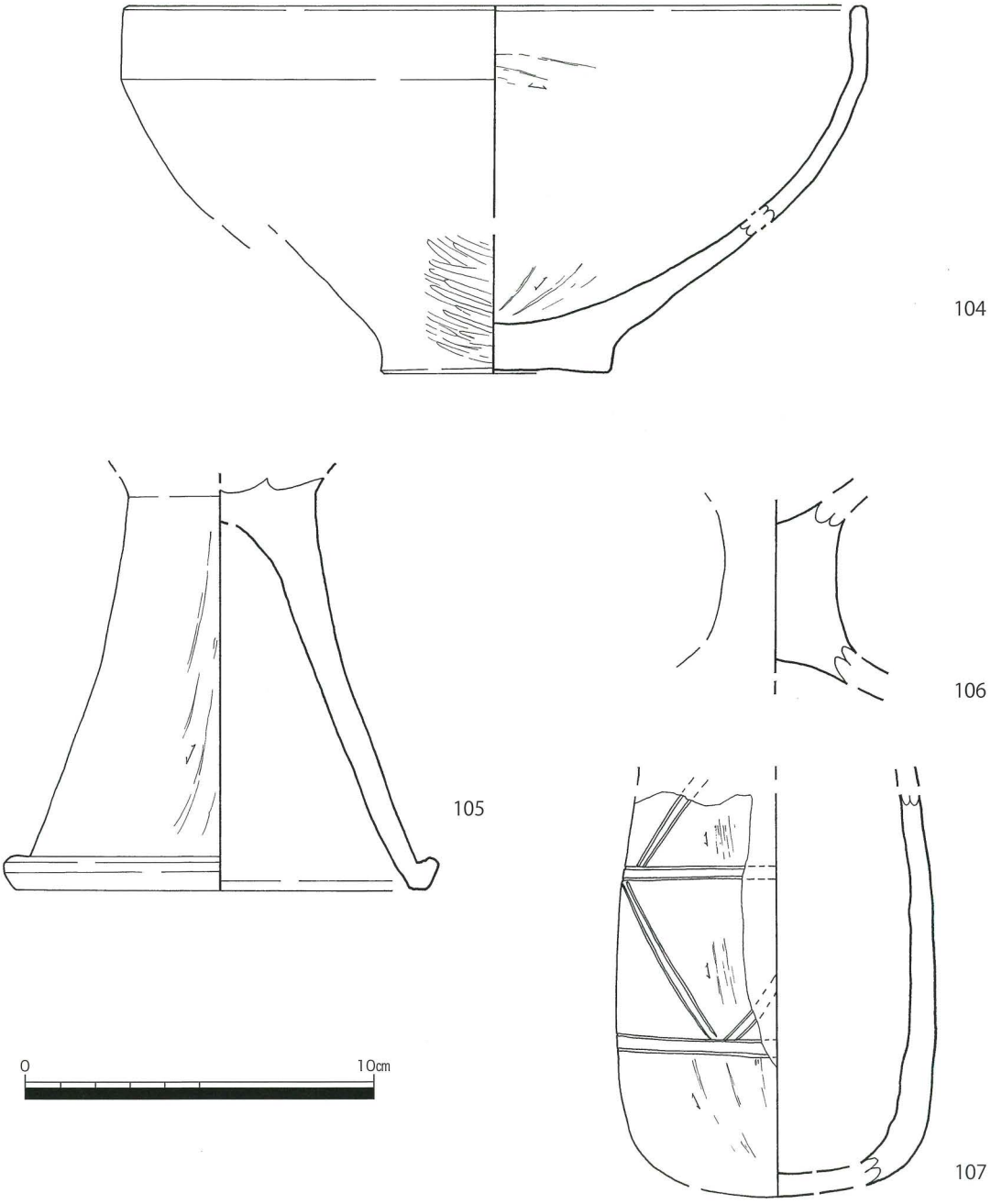
第62図　弥生時代出土遺物実測図㉓（S＝1/2）



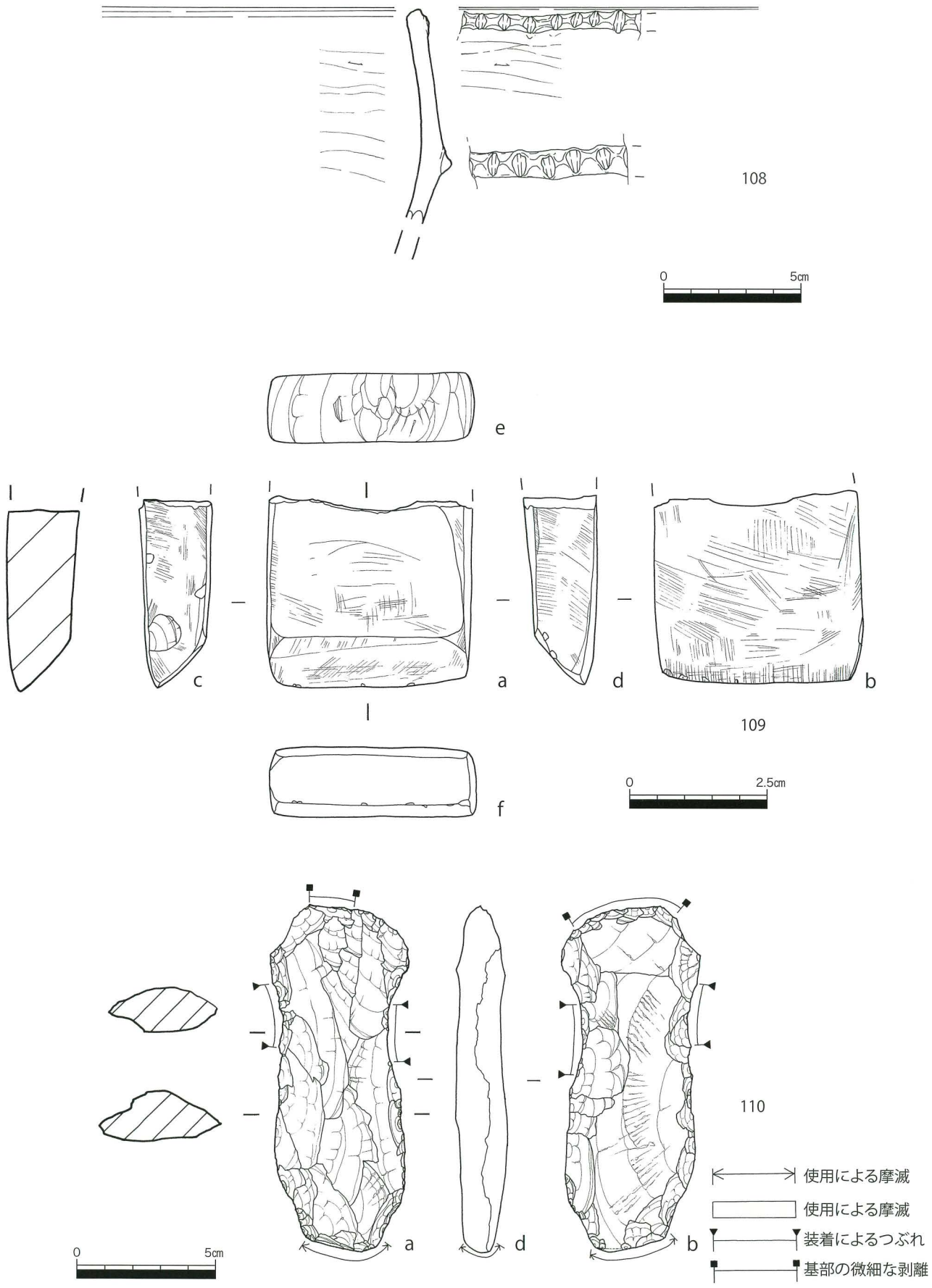
第63図　弥生時代出土遺物実測図㉔（S＝1/2）



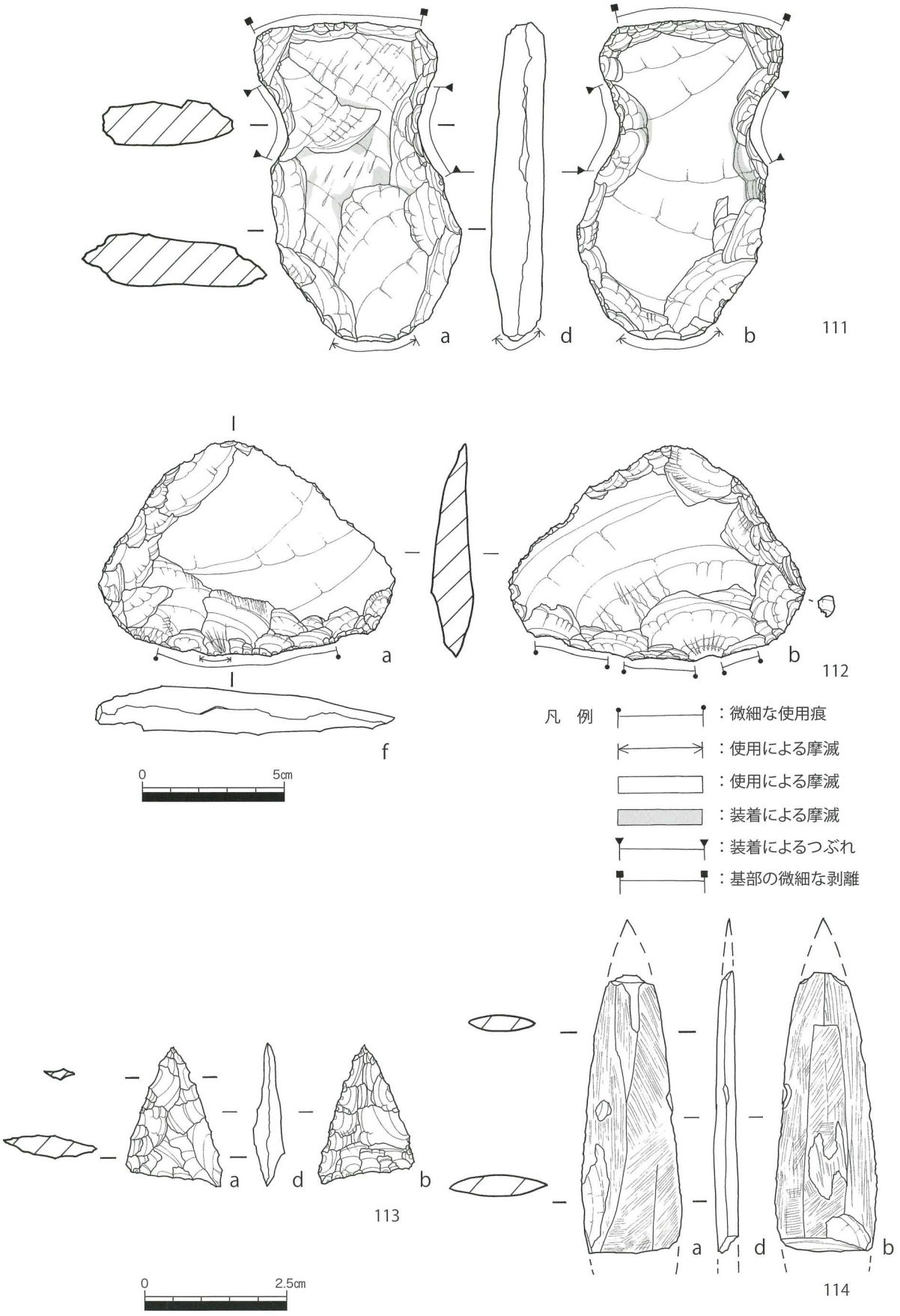
第64図　弥生時代出土遺物実測図㉕（S＝1/2）



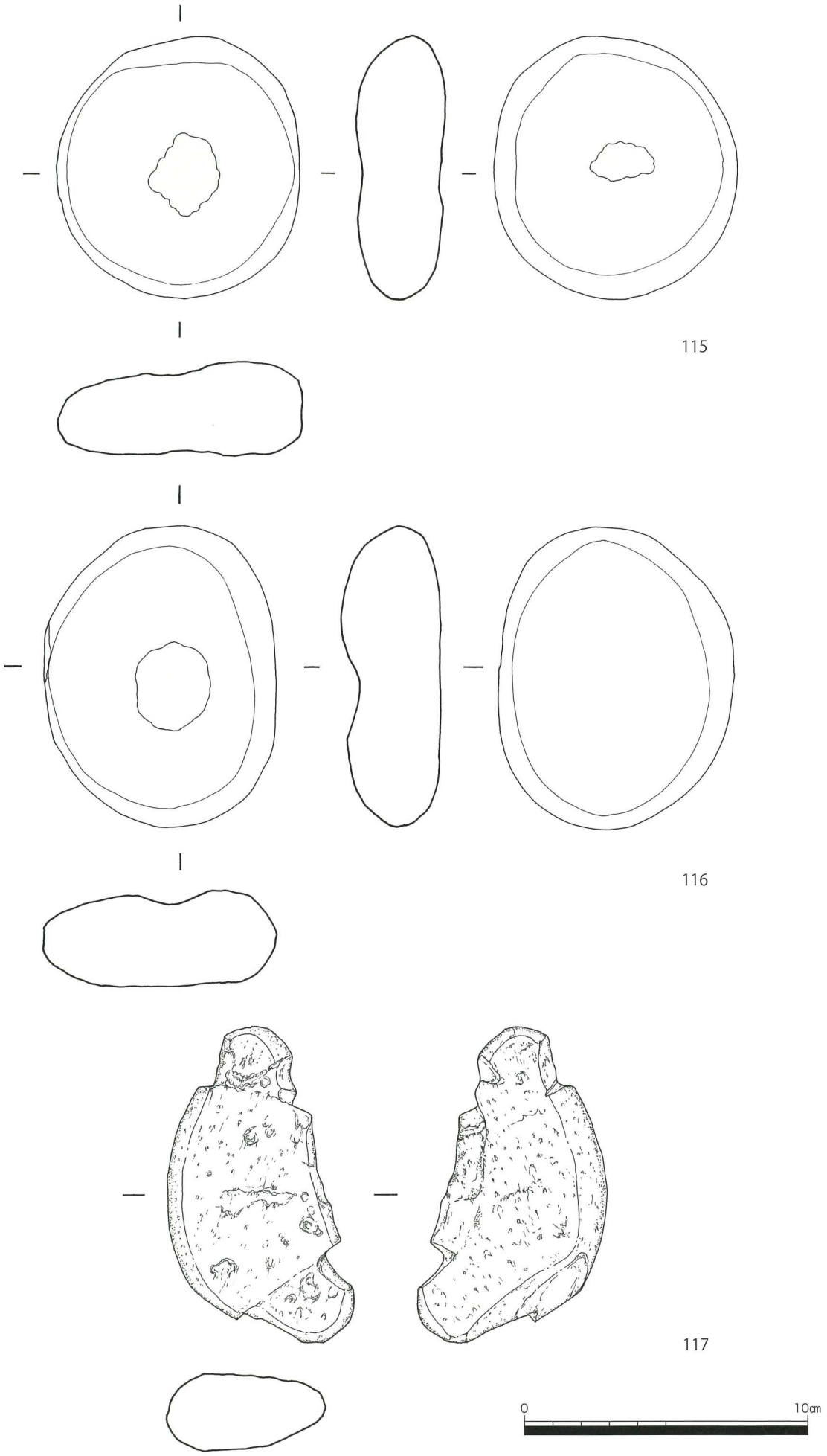
第65図　弥生時代出土遺物実測図㉖（S＝1/2）



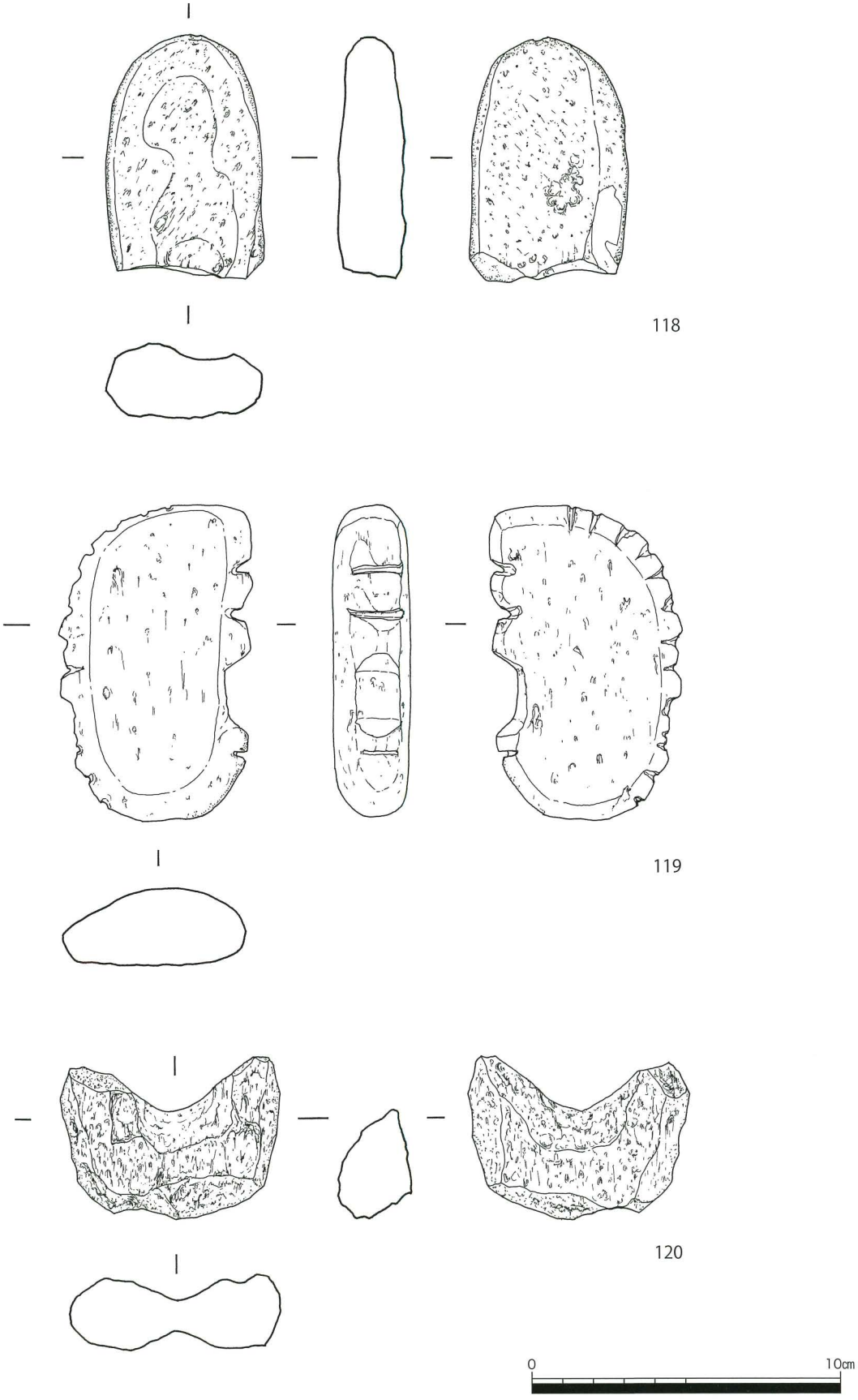
第66図　弥生時代出土遺物実測図㉗（108・110はS＝1/2、109はS＝1/1）



第67図　弥生時代出土遺物実測図㉘（111・112はS＝1/2、113・114はS＝1/1）



第68図　弥生時代出土遺物実測図㉙（S＝1/2）



第69図　弥生時代出土遺物実測図㉚（S＝1/2）

取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
1	一般	甕形土器	破片 1/6～1/5残存 復元口25.2cm	口縁部～ 胴部	7.5YR4/2	10YR5/3	10YR4/2		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・工具によるナデのちナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ	良好傾き ギモン	12b	
2	50	甕形土器	1/2残存 復元口16.5cm	口縁部～ 突帯部	5YR4/3	7.5YR3/2	10YR3/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ　沈線 口唇・ヨコナデ	良好傾き ギモン ゆがみ 激しい	12b	109　930
3	22	甕形土器	破片 7/8残存 復元口25.5cm	口縁部～ 胴部	10YR5/4	10YR4/2	5Y2/1		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 装飾文付加、工具によるナデ のちナデ　ややマメツ 口唇・ヨコナデ		12b	130　254 258　477 493　559 560　739 1446　1534
4	159	甕形土器	破片 1/4残存 復元口30.8cm	口縁部～ 突帯部	7.5YR5/3	5YR5/4	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	白・黒・ 赤・他	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ　ナデ 口縁・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好	12b	866　1293
5	969	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR3/1	7.5YR4/3	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・白・ 黒・赤・ 他	内・ユビオサエ　ナデ、工具による ナデのちナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデのち工具によるキザミ	良好 傾きギモン	12b	
6	257	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	10YR3/1	5YR4/2	5YR3/1		細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ヨコナデ　ナデ　ユビオサエ のちナデ 外・工具によるナデのちナデ ハケメのちナデ 口・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	
7	492	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	7.5YR4/2	5YR5/4	10YR4/2		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・白・ 黒・他	内・ナデ 外・ハケメのちナデ 口・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	12b	
8	520	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	7.5YR4/2	7.5YR4/3	7.5YR3/2		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ナデ 外・ハケメのちナデ 口・ヨコナデ　爪痕？ 突・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	
9	164	甕形土器	破片 1/5～1/4残存 復元口24.6cm	口縁部～ 突帯部	7.5YR4/2	7.5YR4/3	7.5YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・工具によるナデのちナデ 外・ハケメ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	12b	165　791
10	138	甕形土器	破片 約1/4残存 復元口22.8cm	口縁部～ 突帯部	7.5YR4/2	10YR4/2	7.5YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	12b	143
11	945	甕形土器	破片 1/5残存	口縁部～ 突帯部	7.5YR4/2	7.5YR5/3	10YR3/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・工具によるナデのちナデ　ナデ 外・ハケメのちナデ　ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	
12	1243	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	5YR5/4	7.5YR5/3	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ユビオサエ　ナデ 外・ハケメのちナデ　ナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	
13	33	甕形土器	破片 1/5残存	口縁部～ 胴部	7.5YR4/2	7.5YR3/1	10YR3/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ　ナデ 外・工具によるナデのちナデ　ナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	
14	140	甕形土器	破片 1/5残存 復元口34.8cm	口縁部～ 突帯部	7.5YR4/1	7.5YR5/3	7.5YR5/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・工具によるナデのちナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	433
15	180	甕形土器	破片 1/4残存 復元口48.8cm	口縁部～ 突帯部	7.5YR3/2	7.5YR5/3	10YR3/1		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	181　182 351　943
16	532	甕形土器	破片 口1/6残存 突1/4残存 復元口32.4cm	口縁部～ 突帯部	5YR3/1	5YR4/2	7.5YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ユビオサエ　ハケメのちナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデのち工具によるキザミ	良好	12b	721　789 948
17	1329	甕形土器	破片 約1/4残存 復元口31cm	口縁部～ 突帯部	5YR4/3	5YR5/4	7.5YR4/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ナデ　ハケメのちナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好	12b	
18	一般	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	7.5YR3/1	5YR5/4	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・工具によるナデのちナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ　キザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	

表５　弥生時代遺物観察表１

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合
19	154	甕形土器	破片 復元口36.8cm	口縁部～ 突帯部	7.5YR4/3	5YR5/4	10YR4/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 赤・他	内・ハケメのちナデ　ヨコナデ 外・工具によるナデのちナデ ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好	12b	
20	482	甕形土器	破片 1/2残存	口縁部～ 胴部	10YR4/1	10YR6/3	10YR3/1		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	485 513
21	262	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	7.5YR5/3	2.5Y5/2	10YR4/2		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	
22	949	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	7.5YR4/3	7.5YR5/4	7.5YR4/3		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・工具によるナデのちナデ ナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	
23	944	甕形土器	破片	口縁部～ 胴部	7.5YR3/2	7.5YR5/3	5YR4/3		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ユビオサエのちナデ　ナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	
24	11	甕形土器	破片 1/6残存	口縁部～ 胴部	7.5YR4/3	5YR5/4	10YR4/2		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 金ｳﾝﾓ・ 他	内・工具によるナデのちナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	
25	一般	甕形土器	破片	口縁部～ 胴部	7.5YR4/2	10YR4/2	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ユビオサエのちナデ　ナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	
26	652	甕形土器	破片 1/5残存 復元口26.3cm	口縁部～ 突帯部	10YR3/1	7.5YR5/4	10YR5/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ユビオサエ 外・ハケメ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	12b	一般
27	370	甕形土器	破片 約1/4残存 復元口26.2cm	口縁部～ 突帯部	5YR4/3	5YR5/4	7.5YR5/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 金ｳﾝﾓ・ 他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	12b	385 725
28	78	甕形土器	破片 1/5残存 復元口27.4cm	口縁部～ 突帯部	5YR3/2	2.5YR4/4	7.5YR4/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・ 金ｳﾝﾓ・ 赤・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きややギモン	12b	
29	91	甕形土器	破片 約1/4残存 復元口32.4cm	口縁部～ 突帯部	7.5YR3/1	5YR4/4	7.5YR4/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・ 金ｳﾝﾓ・ 他	内・ハケメのちマメツ 外・ハケメ　ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	12b	514 815
30	912	甕形土器	破片 1/5残存	口縁部～ 胴部	5YR3/2	5YR4/3	7.5YR4/2		細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ユビオサエ　ナデ 外・ハケメ　ハケメのちナデ 沈線 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	
31	111	甕形土器	破片 約1/2残存 復元口18.4cm	口縁部～ 胴部	5YR4/3	5YR5/4	5YR3/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 金ｳﾝﾓ・ 他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 沈線　ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ	良好	12b	186 558 216
32	558	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	5YR4/3	7.5YR4/3	7.5YR4/3		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 他	内・ナデ　ユビオサエ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	
33	211	甕形土器	破片 1/5残存	口縁部～ 突帯部	5YR4/3	2.5YR5/6	5YR4/3		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 金ｳﾝﾓ・ 他	内・工具によるナデのちナデ ユビオサエ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 口唇・ヨコナデ　ヨコナデのちキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	
34	247	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	5YR4/4	2.5YR5/6	5YR4/4		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・ 金ｳﾝﾓ・ 他	内・一部ユビオサエ　工具によるナデのちナデ 外・ハケメのちナデ　ハケメ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	275 316 714 759

表6　弥生時代遺物観察表2

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
35	1124	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR3/1	5YR4/3	7.5YR4/3		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
36	730	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR4/1	5YR5/4	10YR5/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・ハケメのちナデユビオサエの痕 外・ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
37	1265	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR4/1	5YR4/4	7.5YR3/3		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
38	787	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR4/2	7.5YR5/3	10YR3/2		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・白・黒・他	内・ユビオサエ　ナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 口・ヨコナデ　工具によるキザミのちマメツ 突・ヨコナデ　一部キザミ	良好 傾きギモン	12b		
39	202	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR4/3	7.5YR5/3	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	1236	
40	1229	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR4/1	7.5Yr4/2	10YR3/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・ユビオサエ　ナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	1258	
41	337	甕形土器	破片	口縁部	10YR5/4	5Y4/1	2.5Y4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ	良好 傾きギモン	12b		
42	276	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR5/4	10Y4/1	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・赤・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 口唇・ヨコナデヨコナデのちキザミのちマメツ 突・ヨコナデ	良好	12b	281 282 289 643 644 890 891 一般	
43	1024	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR3/1	5YR4/3	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	白・黒・他	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ 口唇・ヨコナデ　キザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
44	885	甕形土器	破片 約1/5残存 復元口32.2cm	口縁部	2.5Y4/2	7.5YR4/3	7.5YR3/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ　工具によるキザミ	良好 傾きギモン	12b		
45	1099	甕形土器	破片 1/5残存	口縁部～突帯部	7.5YR5/3	10YR4/2	5Y3/1		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ ナデ　ユビオサエのちナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好	12b	1280	
46	102	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	10YR4/3	10YR5/3	2.5Y4/1		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
47	1020	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR4/3	5YR5/4	7.5YR5/3		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
48	1249	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/2	7.5YR5/3	10YR5/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ ユビオサエのちナデ 外・ナデ 口・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	1269	

表７　弥生時代遺物観察表３

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
49	1423	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR3/1	10YR3/1	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
50	1086	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	5YR5/4	5YR5/4	5YR4/4		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・白・黒・他	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
51	一般	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	5YR4/2	2.5YR4/4	5YR4/3		細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	カ・セ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 口・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
52	一般	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR4/2	7.5YR4/3	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
53	26	甕形土器	破片 約1/4残存 復元口19.4cm	口縁部～胴部	5YR4/2	5YR5/4	5YR4/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・ナデ 外・ハケメのちナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	540	
54	570	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	5YR4/3	5YR4/3	7.5YR4/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	572 794	
55	179	甕形土器	破片	口縁部	10YR3/2	7.5YR4/3	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
55	179	甕形土器	破片	口縁部	10YR3/2	7.5YR4/3	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
56	208	甕形土器	破片	口縁部	10YR3/1	10YR4/2	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	白・黒・他	内・ユビオサエナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
57	508	甕形土器	破片 1/4残存 復元口26.8cm	口縁部～突帯部	10YR5/3	5YR4/3	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・金ｳﾝﾓ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口唇・ヨコナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
58	368	甕形土器	破片	口縁部～胴部	7.5YR4/3	5YR5/4	7.5YR5/3		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・ユビオサエ工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
59	576	甕形土器	破片	口縁部～突帯部	10YR/3/1	7.5YR4/3	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口・ヨコナデ　工具によるキザミ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	1486	
60	928	甕形土器	破片 1/2残存 復元底7.6cm	底部	7.5YR5/3	7.5YR4/2	7.5YR3/2	艇 10YR4/1	砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ハケメのちナデ　一部にユビオサエのこる 底・無調整	良好	12b		

表８　弥生時代遺物観察表４

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
61	895	甕形土器	破片 1/1残存 復元底7.7cm	底部	5YR5/4	10YR5/2	5YR4/4	底 7.5YR5/4	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・マメツ 外・工具による ナデのちナデ 底・無調整	良好	12b		
62	782	甕形土器	破片 1/1残存 復元底7.8cm	底部～ 胴部	5YR5/4	5YR4/3	10YR3/1	底 5YR5/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具による ナデのちナデ ややマメツ 外・ミガキ 底・無調整	良好	12b	782 925	
63	1217	甕形土器	破片 1/2残存 復元底7.3cm	底部～ 胴部	7.5YR4/2	10YR4/2	10YR4/2	底 10YR5/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む・ 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・工具による ナデのちナデ 外・工具による ナデのちナデ ヨコナデ 底・無調整	良好 傾きギモン	12b		
64	338	甕形土器	破片 1/1残存 復元底7.9cm	底部	10YR5/3	2.5Y3/1	10YR4/2	底 10YR4/1	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・マメツ 外・工具による ナデのちナデ 底・ナデ	良好 傾きギモン	12b	880	
65	185	甕形土器	破片 1/1残存 復元底7.7cm	底部	7.5YR5/4	10YR4/2	2.5Y4/1	底 10YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具による ナデのちナデ 無調整 外・ハケメのち ナデ　ユビオサ エのこる　ヨコ ナデ 底・ナデ	良好 傾きギモン	12b		
66	972	甕形土器	破片 1/1残存 復元底7.5cm	底部	7.5YR5/3	10YR4/2	7.5YR4/3	底 7.5YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・ナデ 外・工具による ナデのちナデ 底・ナデ	良好 傾きギモン	12b		
67	34	甕形土器	破片 1/1残存 復元底6.8cm	底部	7.5YR5/3	7.5YR4/2	5YR4/3	底 10YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・マメツ 外・工具による ナデのちナデ ヨコナデ 底・ナデ	良好	12b		
68	1097	甕形土器	破片 1/1残存 復元底7.3cm	底部	7.5YR5/3	10YR4/2	7.5YR4/3	底 2.5Y5/2	砂粒わ含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・マメツ 外・工具による ナデのちナデ ヨコナデ 底・無調整	良好	12b		
69	965	甕形土器	破片 1/1残存 復元底8cm	底部	7.5YR4/3	10YR3/2	7.5YR4/3	底 7.5YR4/3	砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・工具による ナデのちナデ 無調整 外・工具による ナデのちナデ 底・ナデ	良好	12b		
70	877	甕形土器	破片 1/1残存 復元底6.9cm	底部	7.5YR5/3	10YR3/1	7.5YR4/2	底 10YR5/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・ナデ　無調 整 外・ナデ　マメ ツ 底・無調整	良好	12b		
71	245	甕形土器	破片 1/2残存 復元底7.6cm	底部	7.5YR5/3	10YR3/1	5YR4/3	底 10YR5/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・ナデ 外・工具による ナデのちナデ ヨコナデ 底・ナデ	良好	12b		
72	1538	甕形土器	破片 1/1残存 復元底7.6cm	底部	5YR4/4	5YR4/3	2.5YR5/4	艇10YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・工具による ナデ 外・工具による ナデのちナデ ナデ 底・ナデ　マメ ツ	良好	12b		
73	511	甕形土器	破片 1/2残存 復元底8.3cm	底部	7.5YR5/3	2.5Y4/2	5YR4/4	底 7.5YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具による ナデのちナデ 外・ハケメのち ナデ　ユビオサ エ　ヨコナデ 底・ナデ	良好	12b		
74	823	鉢形土器 or 甕形土器 ?	破片 1/1残存 復元底6.8cm	底部	7.5YR5/3	N2/0	10YR3/1	底 10YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・無調整 外・ハケメのち ナデ　ヨコナデ 底・ナデ	良好	12b		

表９　弥生時代遺物観察表５

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合 同一
75	246	甕形土器	破片 1/1残存 復元底7.4cm	底部	10YR4/2	10YR3/1	10YR4/2	底 10YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・ナデ 外・ハケメ　ナデ 底・ナデ	良好	12b	
76	509	甕形土器	破片 1/1残存 復元底8.3cm	底部	7.5YR4/3		2.5YR4/4	底 10YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	外・ハケメのちナデ ヨコナデ 底・工具によるナデ のちナデ　ナデ	良好 傾きギ モン	12b	526
77	865	甕形土器 壺形土器	破片 頸1/4残存 復元口10.8cm	口縁部 ～頸部	7.5YR4/2	5YR5/4	7.5YR5/4		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・ミガキ 外・ミガキ 口唇・ヨコナデ	良好	12b	一般
78	53	甕形土器 壺形土器	破片 頸？/4残存 口4/１残存 復元口14.3cm	口縁部 ～頸部	7.5YR6/4	10YR5/3	10YR5/4		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデ のちナデ　マメツ 外・工具によるナデ のちナデ　マメツ 口唇・ヨコナデ	良好	12b	141 252 253
79	644	壺形土器	破片	口縁部	10YR4/2	10YR5/3	2.5Y4/2		細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・マメツ 外・マメツ 口唇・マメツ	良好 傾きギ モン	12b	
80	一般	壺形土器	破片 頸1/4残存 復元口18cm	口縁部 ～頸部	7.5YR5/4	5YR5/4	10YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデ のちナデ 外・工具によるナデ のちナデ 口唇・ヨコナデ	良好	12b	
81	1250	壺形土器	破片 1/４残存 復元頸19.5cm	口縁部 ～頸部	2.5YR4/4	2.5YR4/6	7.5YR5/4		砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・マメツ 外・ナデ 口唇・マメツ　ヨコ ナデのちマメツ	良好	12b	1418
82	145	壺形土器	破片 1/２残存	口縁部 ～頸部	7.5YR4/3	7.5YR5/4	10YR4/3		砂粒を若干含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・ナデ　マメツ 外・工具によるナデ のちナデ　ヨコナデ 口唇・ヨコナデ	良好	12b	160 470
83	817	壺形土器	破片	口縁部	5YR4/3	7.5YR4/3	7.5YR4/3		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデ のちナデのちマメツ 外・工具によるナデ のちナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	
84	459	壺形土器	破片	口縁部	5YR4/4	5YR4/4	10YR4/2		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・マメツ　工具に よるナデのちナデ 外・工具によるナデ のちナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	
85	132	壺形土器	破片 口1/2頸1/5残 存 復元口18.8cm	口縁部 ～頸部	7.5YR5/3	7.5YR5/3	7.5YR4/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・ミガキのちマメ ツ 外・ミガキ 口唇ヨコナデ	良好	12b	231 251 717
86	807	壺形土器	破片	口縁部 ～頸部	5YR4/2	7.5YR4/2	7.5YR4/2		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・ナデ 外・工具によるナデ のちナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾き	12b	
87	369	壺形土器	破片 口1/5残存 復元口20.2cm	口縁部 ～頸部	7.5YR4/2	5YR5/4	7.5YR4/3		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・ユビオサエ ヨコナデ　ナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ キザミ	良好	12b	404 443
88	1102	壺形土器	破片 頸1/5残存 復元口20cm	口縁部 ～頸部	10YR3/2	5YR5/3	10YR4/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・工具によるナデ のちナデ ユビオサエ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ	良好	12b	
89	438	壺形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2	7.5YR4/3	7.5YR4/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ｳﾝﾓ・ 他	内・マメツ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ	良好 傾きギ モン	12b	892 一般
90	120	壺形土器	破片 3/5残存 復元口21cm	口縁部	5YR4/3	7.5YR5/4	7.5YR5/6		砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデ のちナデ 外・ハケメのちナデ ナデ 口唇・ヨコナデのち 竹管文赤色装彩 ヨコナデ	良好	12b	126 507 1246

表10　弥生時代遺物観察表６

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
91	1325	壷形土器	破片	口縁部	5YR4/4	5YR5/6	7.5YR5/4		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ　マメツ 外・工具によるナデのちナデ	良好 傾きギモン	12b		
92	46	壷形土器	破片	突帯部～胴部	7.5YR5/3	10YR5/3	2.5Y4/1		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・ユビオサエのちナデ　工具によるナデのちナデ 外・ナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b		
93	517	壷形土器	破片	頸部～肩部	5YR5/6	5YR5/4	5YR4/4		砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・ミガキ　ナデ 突・ヨコナデ	良好 傾きギモン	12b	675 854 1205	196 197 1537
94	212	壷形土器	破片 底1/2残存 復元底6.4cm	底部	10YR4/2	7.5YR4/3	10YR4/2	底 10YR5/2	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 底・無調整	良好 傾きギモン	12b		
95	21	壷形土器	破片 底1/1残存 復元底6.3cm	底部	2.5YR4/3	5YR4/3	10YR4/2	底 5YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 底・工具によるナデのちナデ	良好	12b		
96	975	壷形土器？	破片 1/1残存 復元底7.3cm	底部	5YR4/2	7.5YR4/2	10YR4/2	底 7.5YR4/1	砂粒をわずか含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 底・無調整	良好	12b		
97	1482	壷形土器？	破片 1/1残存 復元底6.3cm	底部	5YR4/3	10YR4/2	7.5YR4/2	底 7.5YR4/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ　ナデ 底・無調整	良好	12b		
98	12	壷形土器？	破片 1/1残存 復元底4.8cm	底部	7.5YR4/2	10YR3/1	10YR4/2	底 7.5YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ　工具によるナデのちナデ 底・ナデ	良好	12b		
99	9	壷形土器	破片 3/4残存 復元底8.4cm	底部	5YR4/3	7.5YR5/4	2.5Y4/2	底 7.5YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・マメツ 外・工具によるナデのちナデ 底・ナデ	良好	12b	985	
100	528	壷形土器	破片 1/2残存 復元底7.2cm	底部	5YR4/3	2.5YR4/3	5YR4/3	底 5YR4/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ﾘﾝﾓ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ　マメツ 底・無調整	良好	12b		
101	183	壷形土器	破片 1/1残存 復元底8.4cm	底部	5YR5/4	7.5YR4/3	10YR4/2	底 7.5YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ﾘﾝﾓ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ　ユビオサエ 底・無調整	良好	12b		
102	249	壷形土器	破片 1/1残存 復元底9cm	底部	7.5YR5/4	7.5YR6/4	7.5YR5/4	底 2.5YR5/6	砂粒を含む 細砂粒を多く含む 微砂粒を多く含む	カ・セ・白・黒・金ﾘﾝﾓ・他	内・マメツ 外・工具によるナデのちナデ 底・無調整	良好	12b		
103	62	壷形土器	破片 1/2残存 復元底7.4cm	底部	5YR5/4	10YR4/2	10YR4/2	底 7.5YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・マメツ 外・工具によるナデのちナデ 底・無調整	良好	12b		
104	1047	壷形土器	破片 底～胴1/1残存 口1/4残存 底6.6cm 復元口21.4cm	底部～口縁部	7.5YR5/4	7.5YR5/4	7.5YR4/1	底 7.5YR4/2	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデマメツ・工具のよるナデのちナデ 外・ミガキのちマメツ ミガキ　ヨコナデ 底・ナデ	良好	12b	1048 1053 1055	
105	94	高坏形土器	破片 1/2残存 復元底12.5cm	脚部	2.5Y7/3	10YR6/4	5Y3/1	脚内 10YR6/4	細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・他	脚内・マメツ 外・工具によるナデのちナデ　マメツ 脚端・ヨコナデ	良好	12b		

表11　弥生時代遺物観察表７

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色	外色	内色	肉色	他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
106	215	高坏形土器	破片	脚部	10YR3/2	10YR3/2	7.5YR3/2	脚内 10YR3/1		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・白・黒・他	内・ナデ 外・ナデ 脚内・ナデ	良好	12b		
107	1037	コップ形土器	破片 1/4残存 復元胴8.3	胴部	5YR5/4	5YR4/3	5YR4/3			細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・マメツ 外・工具によるナデのちナデ　沈線文	良好	12b		1049 1052 1054
108	96	甕形土器(高橋式)	破片	口縁部～突帯部	7.5YR5/2	7.5YR5/2	7.5YR4/1			砂粒をわずかに含む 細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデナデ 口唇・ヨコナデ　ヨコナデのちキザミ 突・ヨコナデのちナデ	良好 傾きギモン	13b		

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色	外色	内色	肉色	他	胎土粒	石材	調整	その他	層位	接合	同一
109	76	扁平磨製片刃石斧	破片 長3.48cm 短3.63cm 厚1.34cm 重32g	刃部							流紋岩質安山岩			12b		
110	312	打製石斧	長12.6cm 短5.0cm 厚1.9cm 重140g	完形							流紋岩			12b		
111	1339	扁平打製石斧	長12.3cm 短8.3cm 厚1.8cm 重192g	完形							流紋岩			12b		
112	70	横刃形石器	長7.6cm 短10.5cm 厚1.6cm 重108g	完形							流紋岩			12b		
113	621	打製石鏃	長2.5cm 短1.8cm 厚0.6cm	完形							安山岩			12b		
114	980	磨製石鏃	長4.9cm 短1.8cm 厚0.4cm	先端部欠損							安山岩			12b		
115	13	凹石	長9.3cm 短8.6cm 厚3.2cm 重420g	完形							安山岩			12b		
116	594	凹石	長10.9cm 短8.2cm 厚3.6cm 重500g	完形							安山岩			12b		
117	172	軽石製加工品	長11.3cm 短5.6cm 厚2.6cm 重50g	完形							軽石			12b		
118	590	軽石製加工品	長7.6cm 短5.0cm 厚2.4cm 重30g	完形							軽石			12b		
119	349	軽石製加工品	長10.6cm 短6.2cm 厚1.5cm 重40g	完形							軽石			12b		
120	104	軽石製加工品	長3.5cm 短7.0cm 厚1.0cm 重28g	一部欠損か？							軽石			12b		

表12　弥生時代遺物観察表８

4トレンチ

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	石材	調整	その他	層位	接合	同一
1	3	扁平打製石斧	破片 長13.4cm 短5.4cm 厚2.1cm 重170g	完形						流紋岩			13		

8トレンチ

図No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和剤	調整	その他	層位	接合	同一
1	27	深鉢形土器	破片	口縁部～突帯部	7.5YR5/4	10YR5/3	10YR4/2		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口唇・ヨコナデ　のちキザミ 突・ヨコナデのちキザミ	良好 傾きギモン	13		
2	28	深鉢形土器	破片	口縁部～突帯部	10YR6/3	10YR5/3	10YR6/3		細砂粒を若干含む 微砂粒を若干含む	カ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口唇・ヨコナデのちキザミ　突・ヨコナデのちキザミ	良好 傾きギモン	13		
3	22	深鉢形土器	破片	口縁部	10YR3/2	10YR4/2	7.5YR4/2		細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口唇・ヨコナデ ナデのちキザミ	良好 傾きギモン	13		
4	30	深鉢形土器	破片	底部	10YR6/3	10YR5/3	2.5Y3/3 10YR5/3	底 10YR5/3	細砂粒を含む 微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・マメツ 外・工具によるナデのちナデ 底・マメツ	良好 傾きギモン	13		

表13　4・8トレンチ出土遺物観察表

第３章　まとめ

弥生時代

第12層a'は、入来式土器群を直接被覆していた火山灰層である。灰ゴラと暗紫コラ間に降灰した開聞岳起源の火山灰と考えられ、km７あるいはkm８と呼ばれるテフラに該当する可能性がある。第12層a'は暗紫コラ同様、弥生中期の土器編年を考える上で重要な鍵層となる。今後の事例に注視していきたい。（文責　渡部）

古墳時代

調査区一帯は、古墳時代においてＵ字形の谷地形であり、古墳時代の遺物包含層が確認されるとともに、１基の竪穴住居が検出された。包含層中の遺物は少なく、集落の中心部分は南側の丘陵上に位置することが想定できる。

住居跡については、本文で紹介したとおり、本来建築するのに不適当と思われる谷の傾斜部分に造られている。調査範囲に限りがあるとは言え、遺物の出土状況から、この住居は集落から離れた位置に単独であったものとの印象が強い。同時期の橋牟礼川遺跡等の例では、竪穴形態が方形を基調とした定型的な様相を呈することからも、この住居はいかにも奇異な印象を持たせる。

住居には、埋没後に埋納遺構が設けられている。本文中では触れるに留めたが、埋土中と埋納遺構中の土器に、受熱によって一部が変色するものが含まれている。埋土中に含まれるカーボンは、床面直上ではないから、家屋の焼失によるものではない。受熱痕跡のある土器については、住居が廃棄された後に埋没途上であった竪穴内で火が使われた結果、受熱し変色したことが想定できる。この住居では、主柱穴が埋納遺構に転用されているが、竪穴がほぼ埋没した後の行為である。このような場合の埋納遺構の設置は、柱が現地に残されている段階で、柱の除去行為とともに行われたと考えるのが妥当であろう。とすれば、この遺構は住居廃絶後の何らかの祭祀によるものと考えることができる。埋納遺構中の高杯の杯部も受熱していることから、火の使用は、土器埋納の際に行われた可能性を考えておきたい。

住居内の土器埋納遺構の先例は、姶良町の萩原遺跡にある。萩原遺跡では、土器埋納遺構が２基検出されたが、いずれも土器を４段重ねにしたものである。67号住居に帰属するとされる１基は、ピット内に土器を埋納している。最上段の瓻が、住居埋土の除去中に検出されたことから、土器の埋納は、新番所後遺跡同様に、住居が埋没途上にある段階での行われた可能性が考えられ、注意したい。ちなみに、埋納遺構は２例とも瓻が用いられ、同時に高杯の脚部を器台として利用し、甕の脚部のみを２個用いるという規則性が見受けられる。一方、新番所後遺跡と向吉遺跡では自然礫が使用され、高杯の杯部を伏せて利用するという共通点があることも注目できる。これらは、祭祀における儀礼形態の地域性の可能性があるが、今後の課題である。

さて、萩原遺跡では古墳時代（５～６世紀）の住居が76基検出された。内、埋納遺構は２基であり、住居内に土器埋納を行うのが一般的な行為であったとは考えにくい。古墳時代の住居が多数発見された橋牟礼川遺跡では事例がなく、廃棄後の住居への土器埋納を伴う祭祀が非日常的な行為であったことを示していると考えられる。新番所後遺跡の住居が居住不適地と思われる谷部分にあり、形状も特異であることなど見ると、祭祀の実施理由は、住居の用途もしくは、居住者に求められるかもしれない。例えば、疫病の発生に伴う忌避的祭祀等である。ただし、これは推測の域を出ないため、今後事例を待って検討すべき課題である。（文責　中摩）

（参考文献）　平田信芳・青崎和憲・中村耕治　1980 『萩原遺跡（Ⅱ）』 姶良町教育委員会

第12ｂ層出土石器について

第12ｂ層出土の石器組成は、打製石鏃、磨製石鏃、扁平打製石斧、片刃磨製石斧、横刃形石器、凹石、砥石、軽

石製加工品、剥片、調整剥片、分割礫片、礫から構成されている。未掲載石器は、取上げ番号を記載する。

打製石鏃、磨製石鏃は各１点づつ出土しており、石材はいずれも砂岩である。

扁平打製石斧は９点である。図示した完形品の№110(96)、№111(1339)以外に、先端部や基部が欠損している扁平打製石斧が312、736、796、1015の４点であり、いずれも、両側の肩部に抉りが認められる。また、基部と思われる欠損品が、738、850、1441の３点である(写真34参照)。石材は、流紋岩製が４点、砂岩製が６点である。また、扁平打製石斧を製作する際の調整剥片と考えられる剥片も出土している。流紋岩製は、88、1444、1448などの６点がある。砂岩製は、321、800、906、954、1016などの12点がある。

片刃磨製石斧は、いわゆる大陸系磨製石器群のひとつである。指宿市内では初例となる。石材は流紋岩であるが、扁平打製石斧のものとは質が異なるようである。遺跡内では他に同質の流紋岩がないことから、推測の域は出ないものの、製品として遺跡地内に搬入されたものと考えられる。

凹石は10点である。図示している№115(13)、№116(594)以外に、694、701＋1303、708、908、982、1083、1237、1313の６点がある(写真35参照)。石材は全て安山岩製である。素材の形状は、円礫を素材としたもの(908、982)、扁平な円礫を素材としたもの(701+1303、708、1083)、扁平な角礫を素材としたもの(1237)、板状の分割剥片を素材としたもの(694、1313)である。

砥石は308の１点である。安山岩製の扁平な円礫を素材とし、平坦面の側縁よりに鱗状の砥面が認められる。

軽石製加工品は、図示した４点の№118～№120である。出土した軽石は53点あり、その中には扁平で楕円形を呈したものも認められる。

第12ｂ層の石材組成は、安山岩、砂岩、流紋岩、黒曜石などである。安山岩が全体の半数以上を占める。安山岩は、凹石や砥石の素材とされている。しかしながら、敲打痕や使用痕のない拳大前後の円礫や角礫も多く、また、重量が重い分割礫や板状礫もあることから、凹石や砥石の素材以外の利用も考慮する必要がある。

安山岩は、遺跡内に搬入された形状で大きく６つに分類が可能であろう。円礫、扁平な円礫、角礫、扁平な角礫、角礫でブロック状の分割礫、板状礫である。扁平な円礫は、長さ４～15ｃｍ、厚さ１～2.5ｃｍのものや、最大長16ｃｍ、厚さ５ｃｍのものもあり、凹石や砥石の素材となっている。

角礫でブロック状の分割礫は103、345、913、1096、1281の５点がある(写真36参照)。その内、345、1096、1281は10ｃｍ前後のサイコロ状あるいは五角形を呈し、その平坦面中央部に薄い剥離痕が認められ、一見すると凹石のようであるが顕著な敲打痕は認められない。103は、5.2kgを測る。

用途不明の角礫は30数点ある。板状礫は,接合資料(38＋176＋301＋344＋1261)によると(写真37参照)、長さ44ｃｍ＋α、幅11ｃｍ、厚さ3.5ｃｍのものがある。安山岩の原産地から節理に沿って剥落したものをそのまま搬入したものと推測できる。この接合資料は、被熱により一部が黒色に変色しており、被熱後、意図的に少なくとも６個体に分割されているようである。また、593や847のような長さ20ｃｍ以上、厚さ４ｃｍ以上、重量26ｋｇの大型なものもある。遺跡周辺での安山岩の原産地は、竹山が最も近く直線距離で約4.5ｋｍである。

砂岩は、打製・磨製石鏃と扁平打製石斧の素材として利用されている。調整剥片や剥片などがあることから、遺跡地内で製作されたものと考えられる。

流紋岩は、扁平打製石斧、片刃磨製石、横刃形石器の素材である。砂岩と同様に調整剥片が認められる。

黒曜石は３点のみである。自然面をもつ剥片、剥片、二次加工剥片であり、製品は認められない。

これらの石器は、集落地内での出土遺物ではなく、埋没谷内からの出土遺物であることから、先述した石器組成や石材組成が本来の姿ではないものと考えられる。しかしながら、意図的な遺棄や廃棄も含め、大型な安山岩分割礫、板状礫の搬入などの様相は、集落内での組成の一部として垣間見れるものである。　　(文責　鎌田)

写真図版

写真１　指宿市全景

写真２　１トレンチ掘削状況

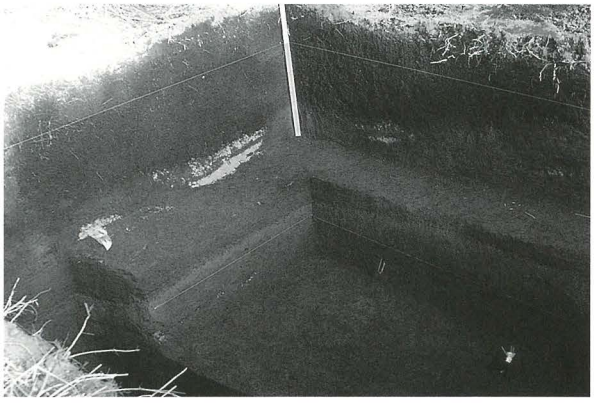


写真３　２トレンチ掘削状況

写真４　３トレンチ掘削状況

写真５　４トレンチ掘削状況

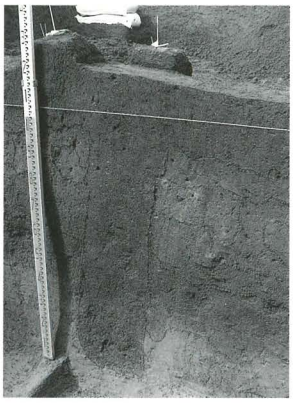


写真６　４トレンチ縄文時代晩期ピット断面

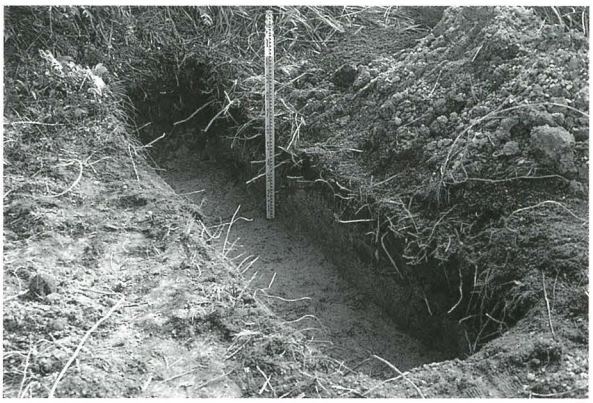


写真７　５トレンチ掘削状況

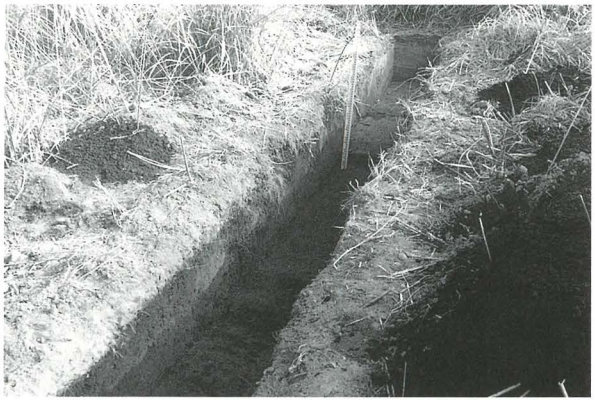


写真８　６トレンチ掘削状況

写真９　７トレンチ掘削状況

写真 10　８トレンチ掘削状況

写真 11　８トレンチ遺物出土状況

写真 12　９トレンチ掘削状況

写真 13　調査区全景（12 層 a 直下の旧地形）

写真 14　作業状況 1

写真 15　調査区東壁層位（10 トレンチ）

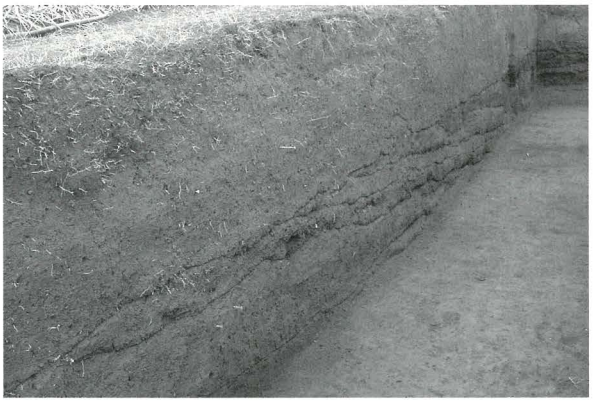


写真 16　調査区北壁層位（10 トレンチ）

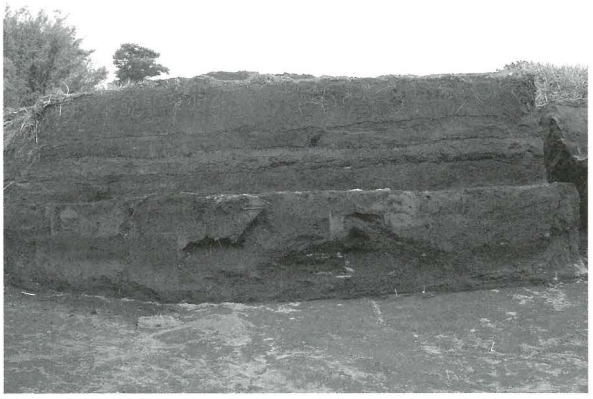


写真 17　調査区南壁層位 1

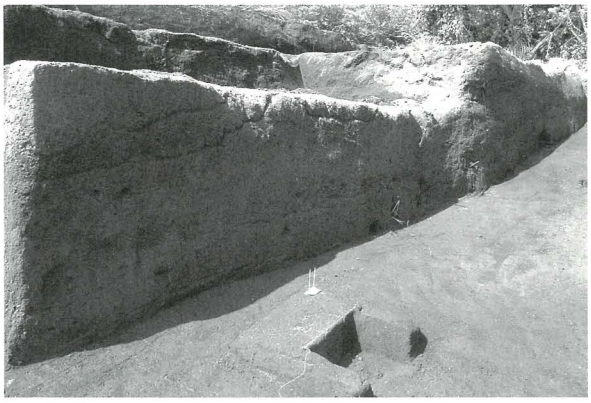


写真 18　調査区南壁層位 2

写真 19　古墳時代竪穴住居検出状況

写真 20　埋土遺物出土状況 1

写真 21　土器埋納遺構遺物出土状況

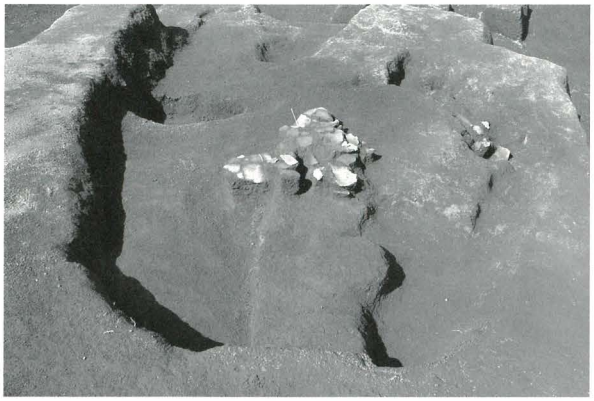


写真 22　埋土除去状況

写真 23　古墳時代竪穴住居完掘状況

写真 24　炭の集中部

写真 25　土坑炉

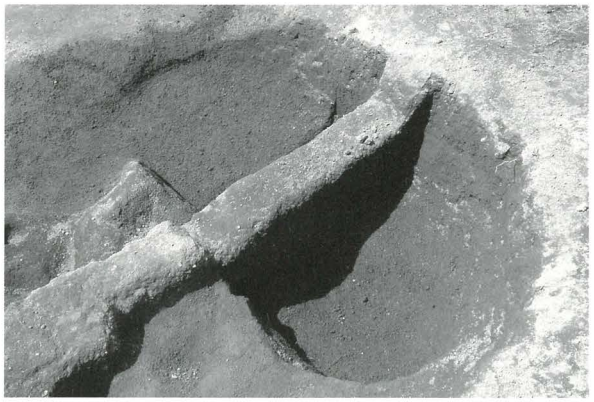


写真 26　付帯土坑（完掘状況）

写真 27　付帯土坑（検出状況）

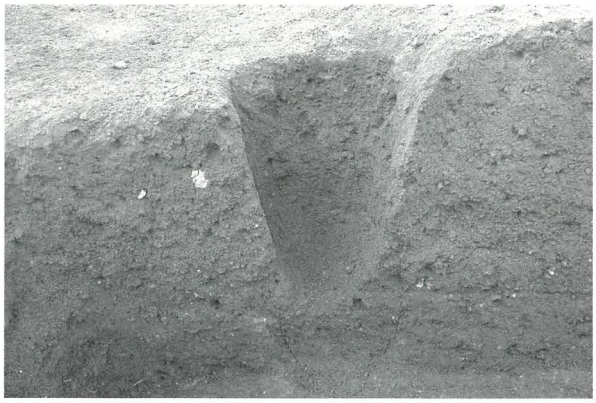


写真 28　主柱穴 A（埋納遺物除去後）

写真 29　主柱穴 A（完掘状況）

写真 30　主柱穴 B

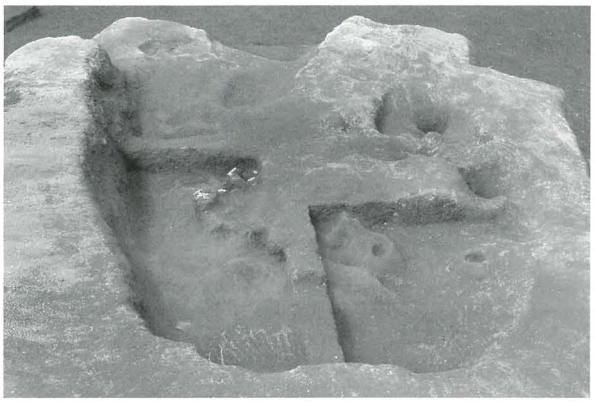


写真 31　掘形確認状況

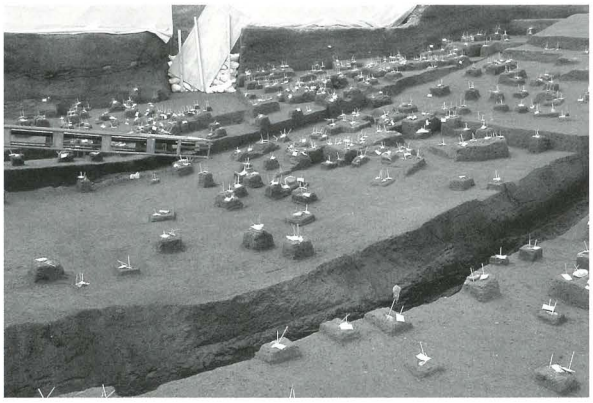


写真 32　弥生時代遺物出土状況遠景 1

写真 33　弥生時代遺物出土状況遠景 2

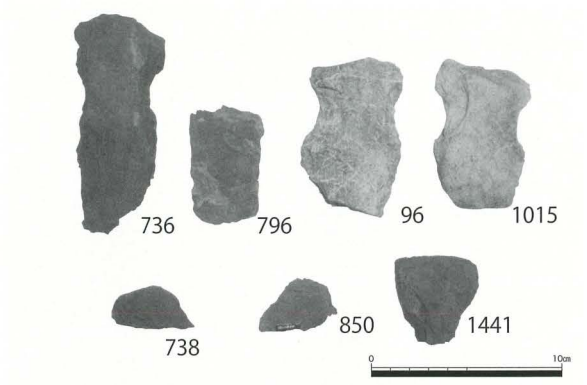


写真 34　第 12 層 b 出土の石器 1

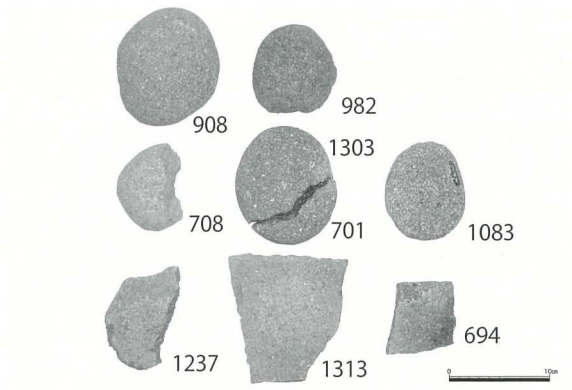


写真 35　第 12 層 b 出土の石器 2

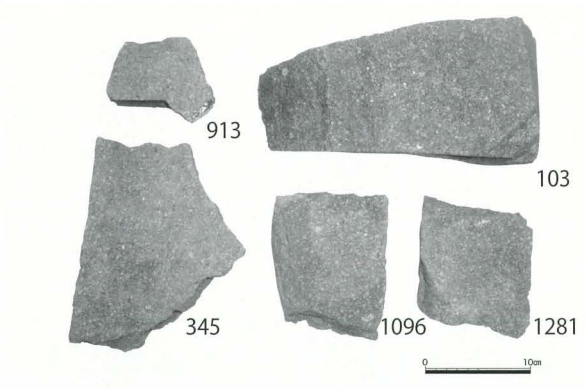


写真 36　第 12 層 b 出土の石器 3

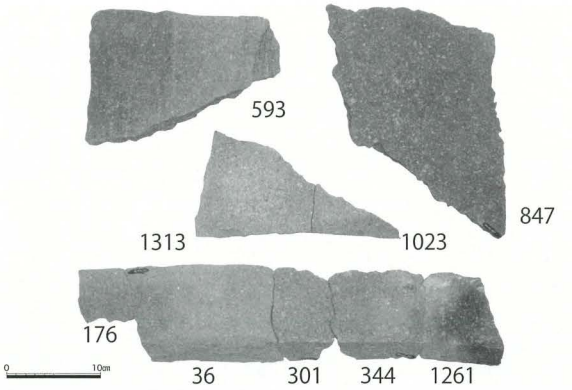


写真 37　第 12 層 b 出土の石器 4

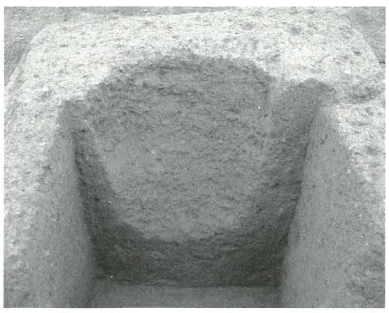


写真 38　ピット 1

写真 39　ピット 2

写真 40　ピット 3

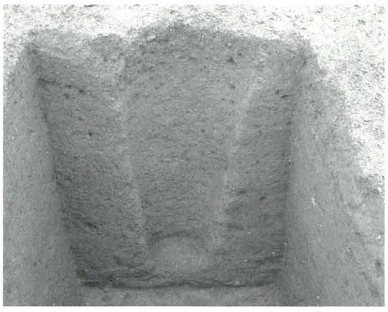


写真 41　ピット 4

写真 42　ピット 5

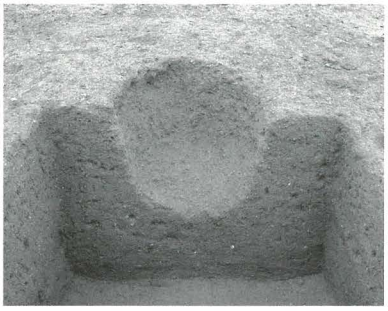


写真 43　ピット 6

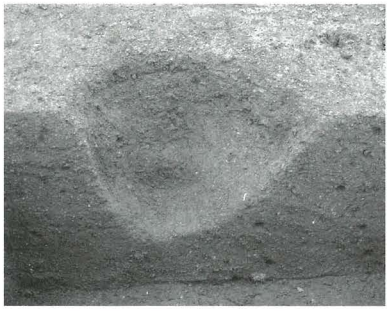


写真 44　ピット 7

写真 45　ピット 8

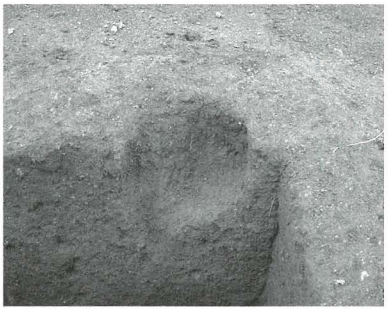


写真 46　ピット 9

写真 47　ピット 10

写真 48　ピット 11

写真 49　ピット 12

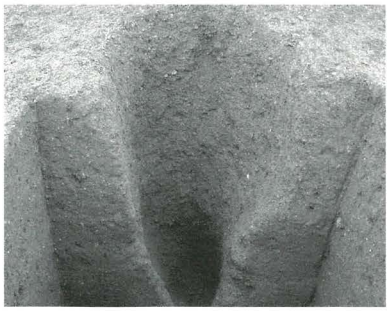


写真 50　ピット 13

写真 51　ピット 14

写真 52　ピット 15

写真 53　ピット 16

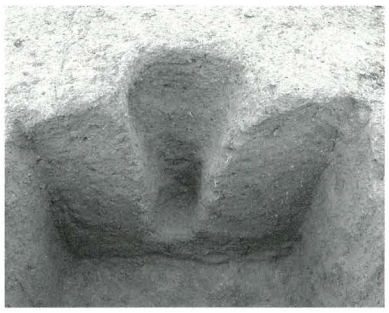


写真 54　ピット 17

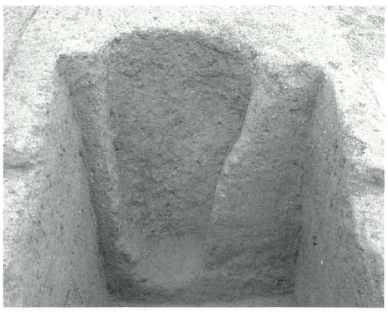


写真 55　ピット 18

写真 56　ピット 19

写真 57　ピット 20

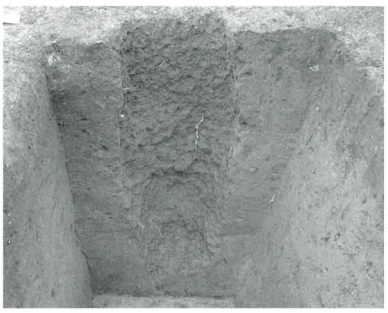


写真 58　ピット 21

写真 59　ピット 22

写真 60　ピット 23

写真 61　ピット 24

写真 62　ピット 25

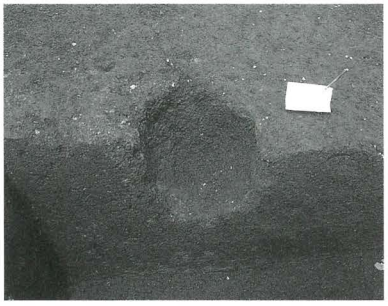


写真 63　ピット 26

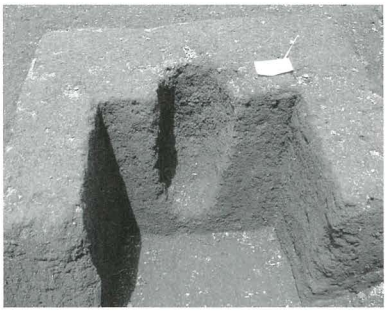


写真 64　ピット 27

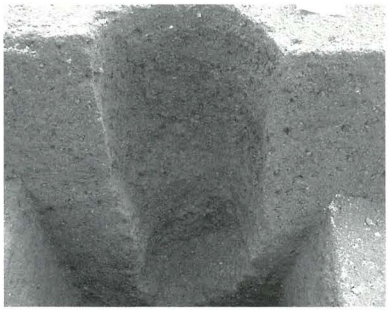


写真 65　ピット 28

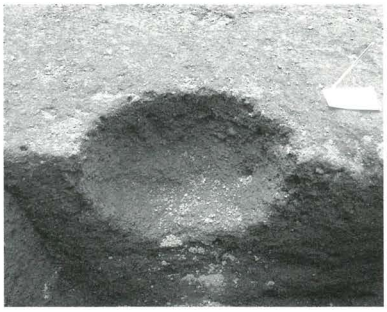


写真 66　ピット 29

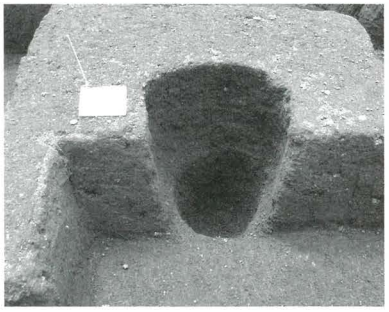


写真 67　ピット 30

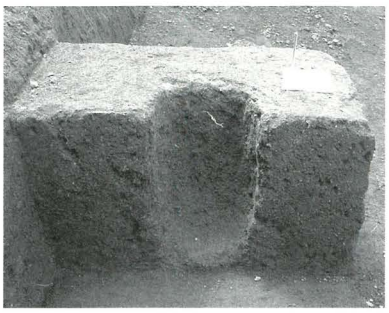


写真 68　ピット 31

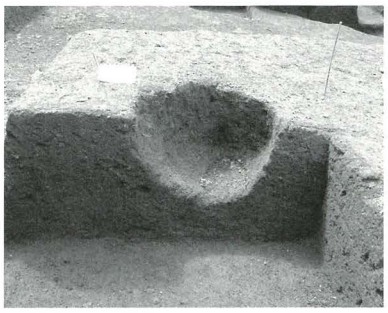


写真 69　ピット 32

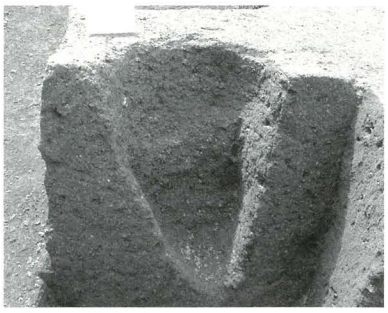


写真 70　ピット 33

写真 71　ピット 34

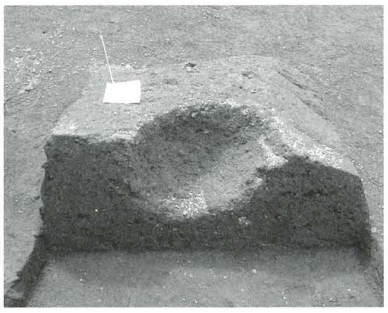


写真 72　ピット 35

写真 73　ピット 36

写真 74　ピット 37

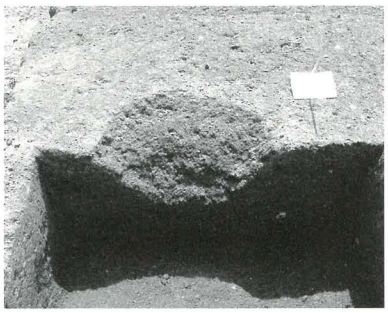


写真 75　ピット 38

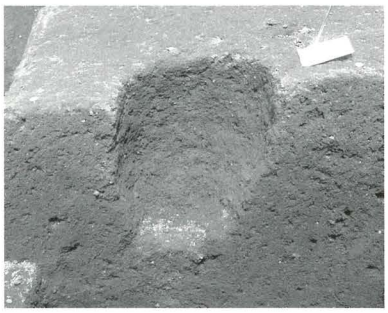


写真 76　ピット 39

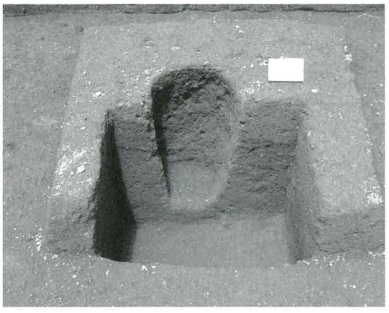


写真 77　ピット 40

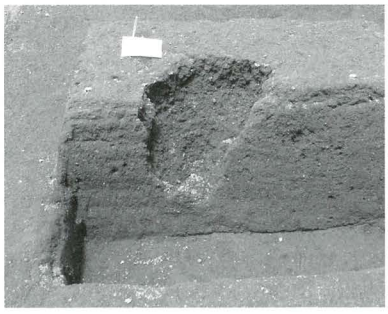


写真 78　ピット 41

写真 79　ピット 42

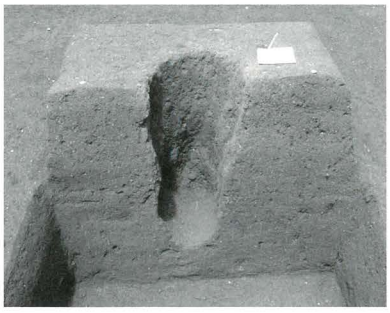


写真 80　ピット 43

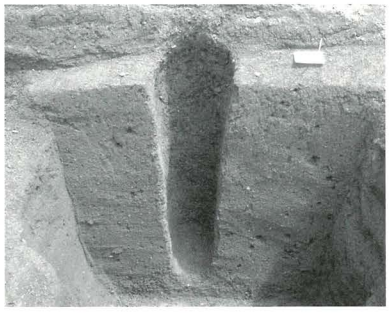


写真 81　ピット 44

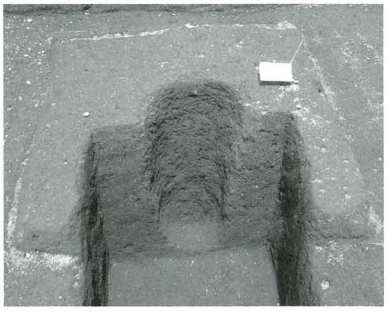


写真 82　ピット 45

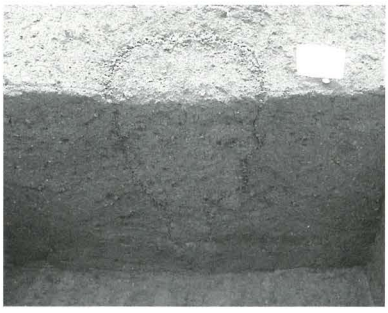


写真 83　ピット 46

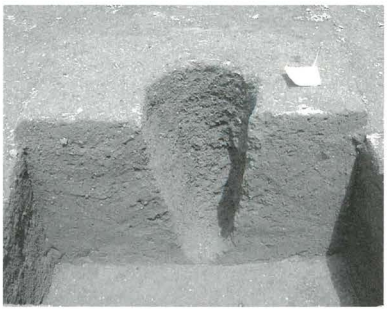


写真 84　ピット 47

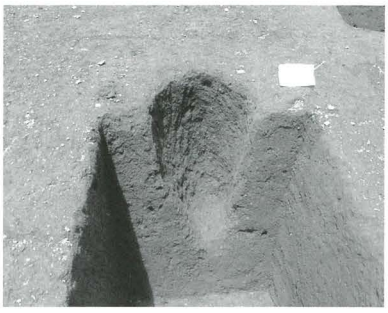


写真 85　ピット 48

写真 86　ピット 49

写真 87　ピット 50

写真 88　ピット 51

写真 89　ピット 52

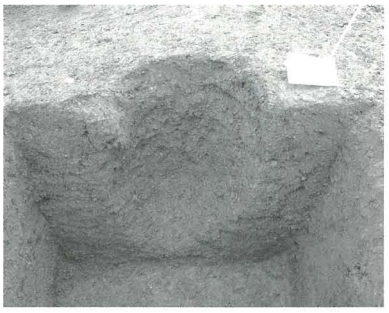


写真 90　ピット 53

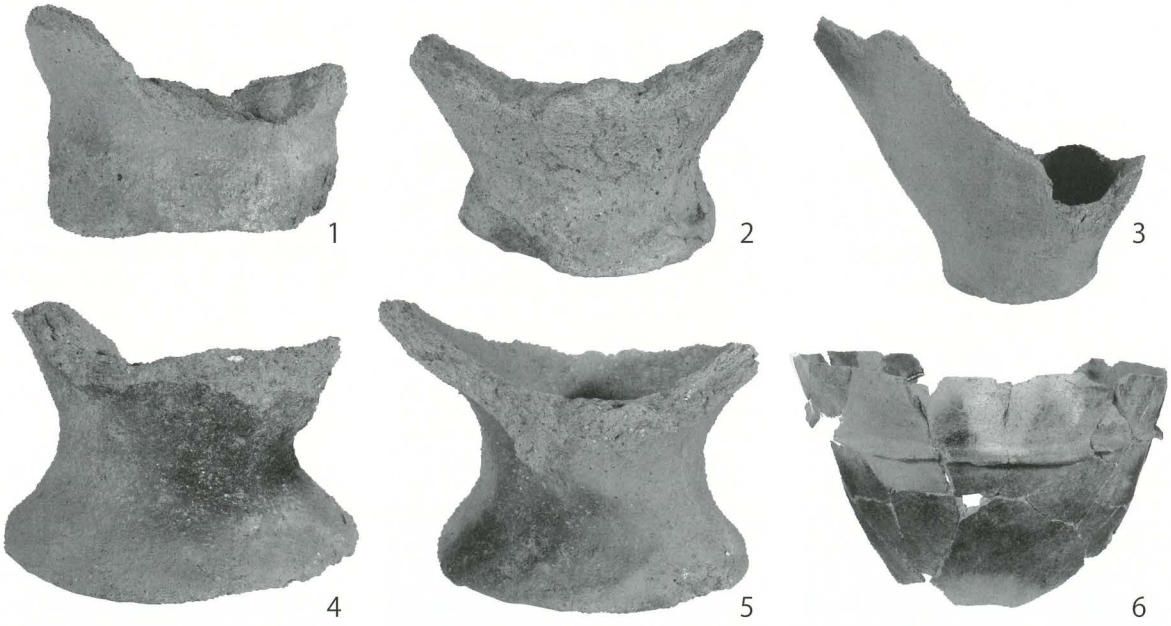


写真 91　出土遺物写真 1

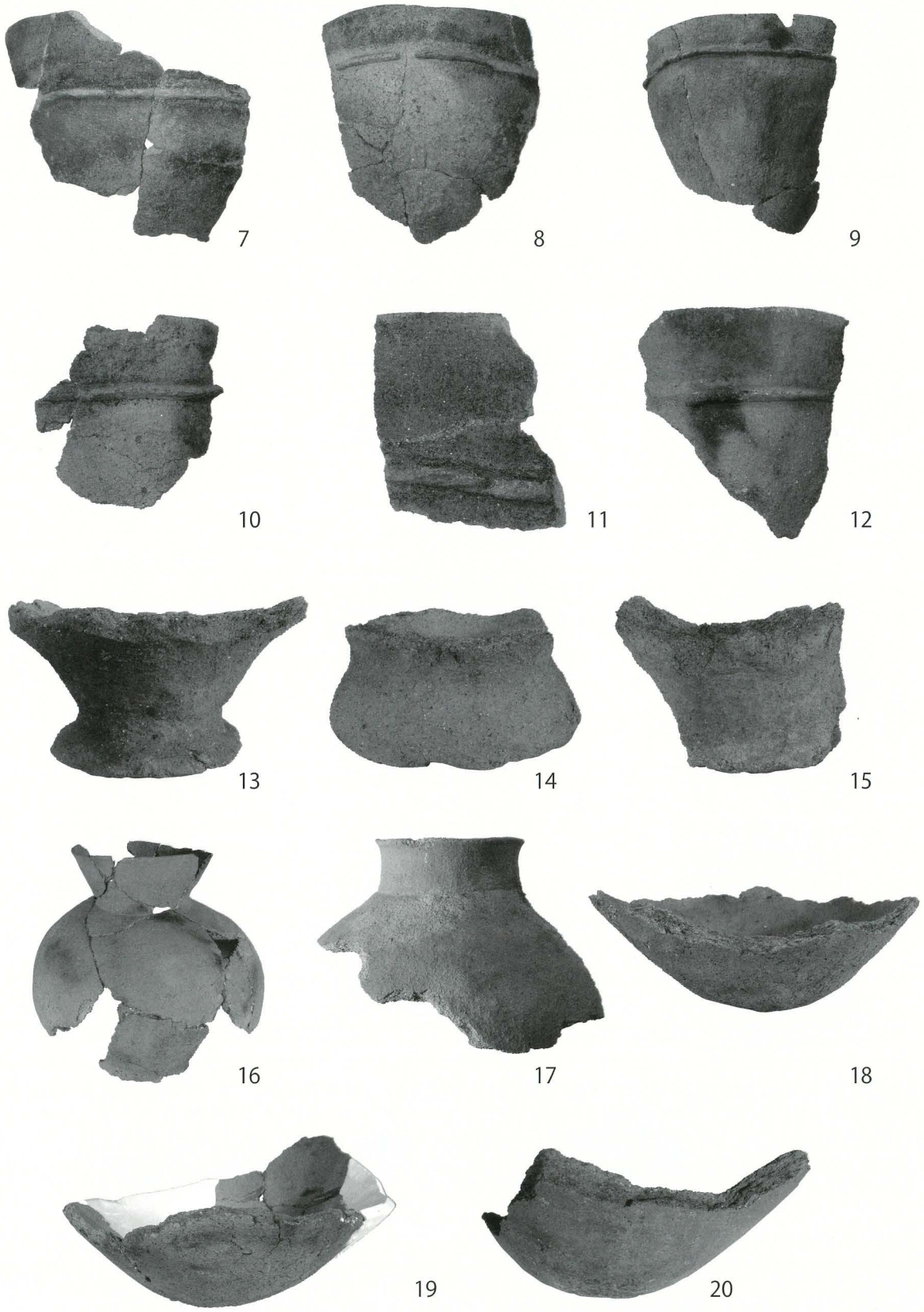
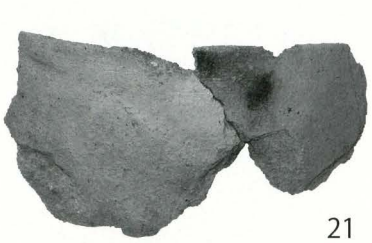
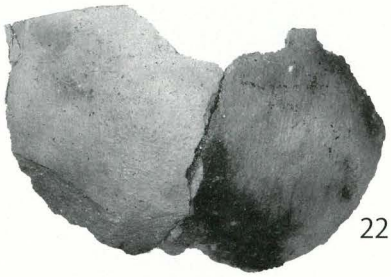
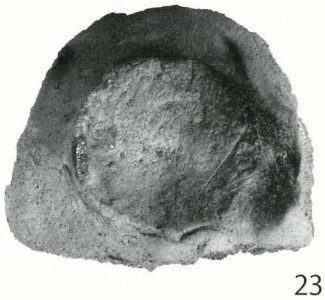


写真 92　出土遺物写真 2


21


22

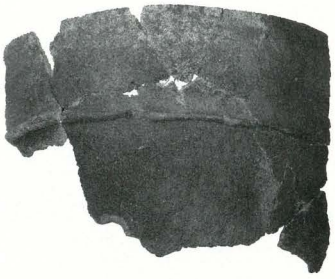

23

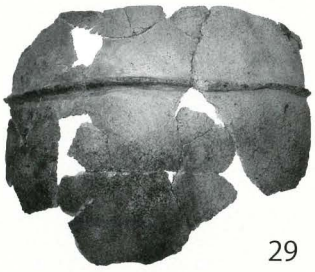
24

25

26

27


28


29

30

31

32

33

34

写真 93　出土遺物写真 3

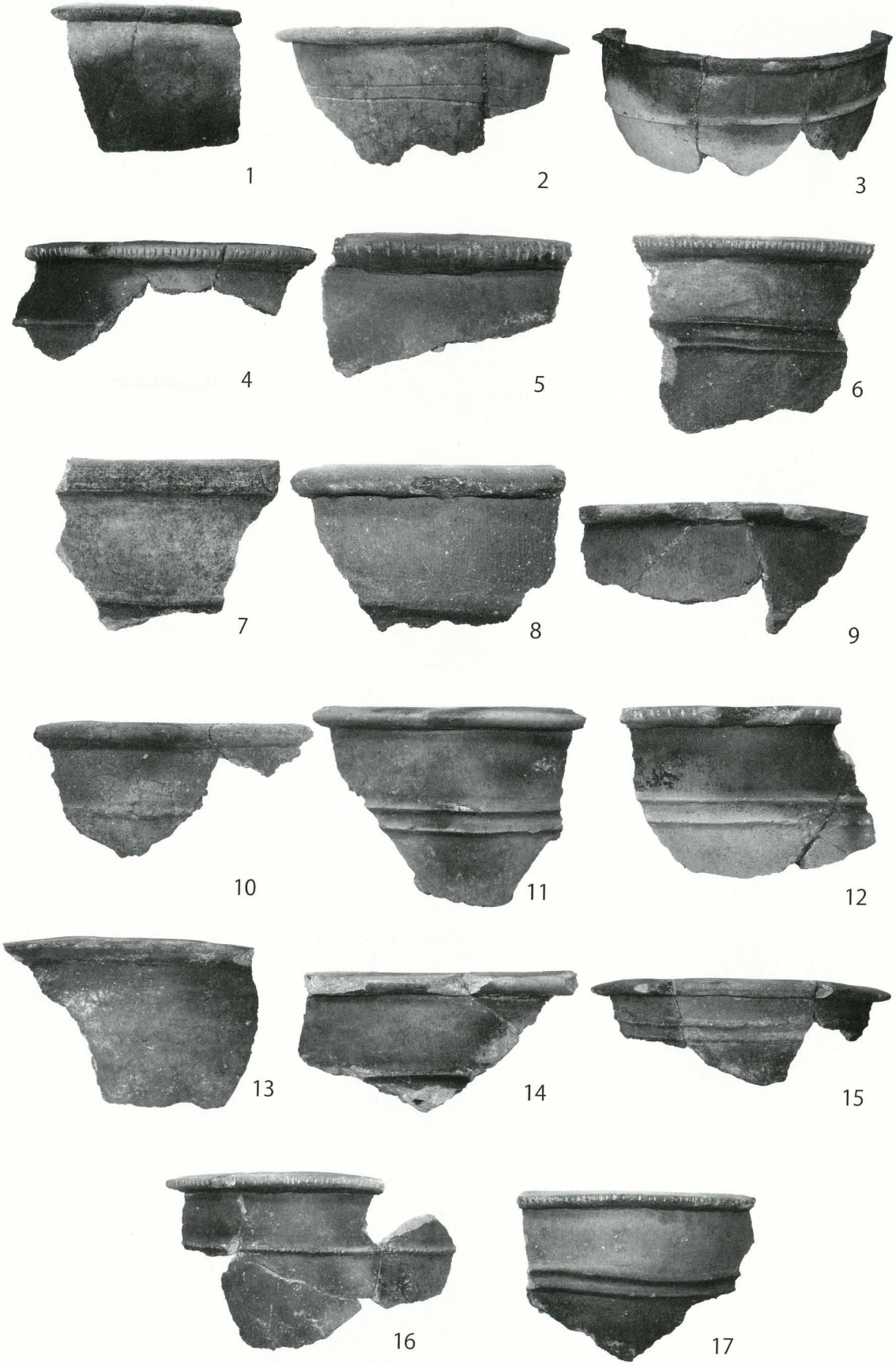


写真 94　出土遺物写真 4

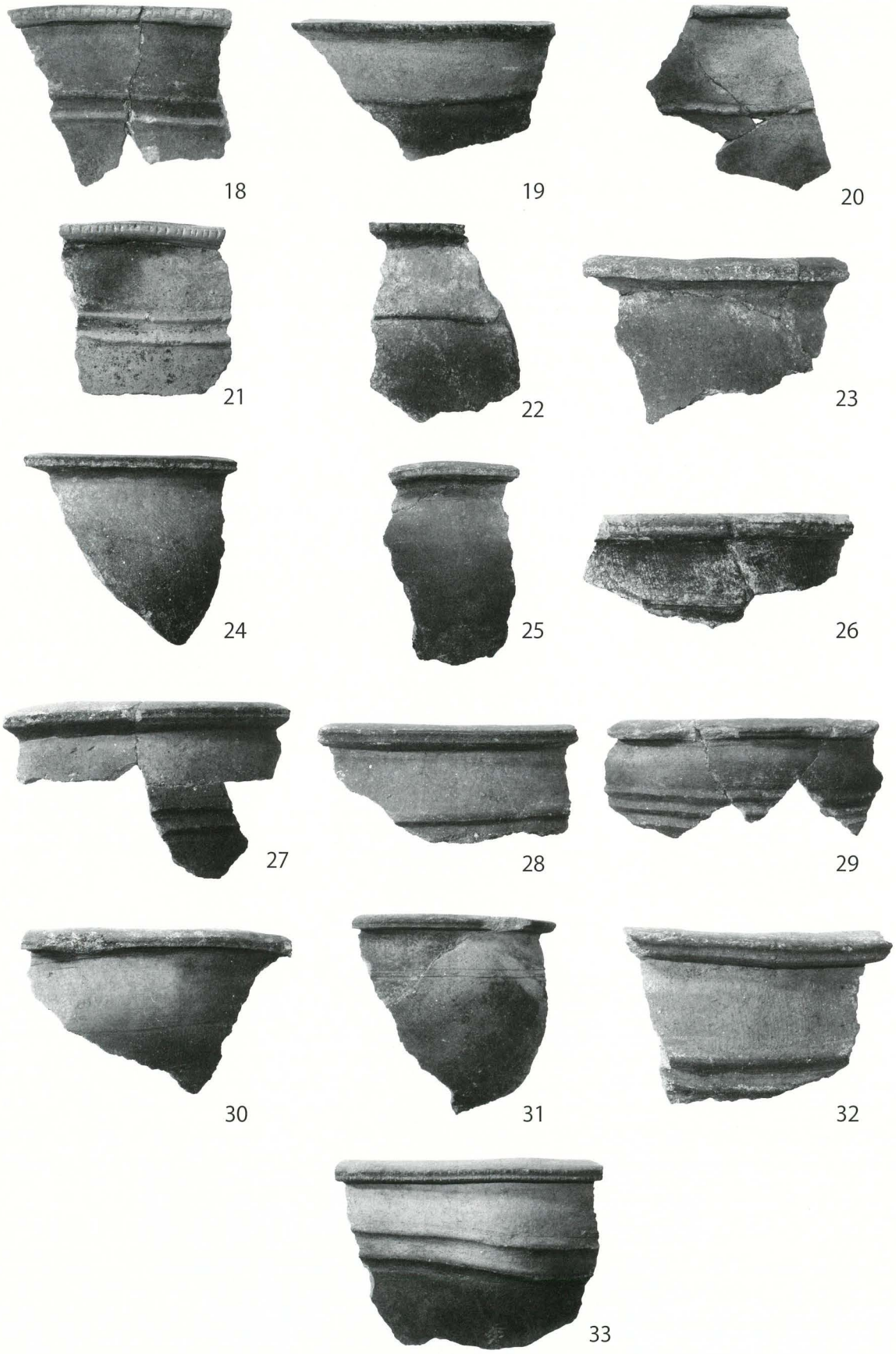


写真 95　出土遺物写真 5

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

写真 96　出土遺物写真 6

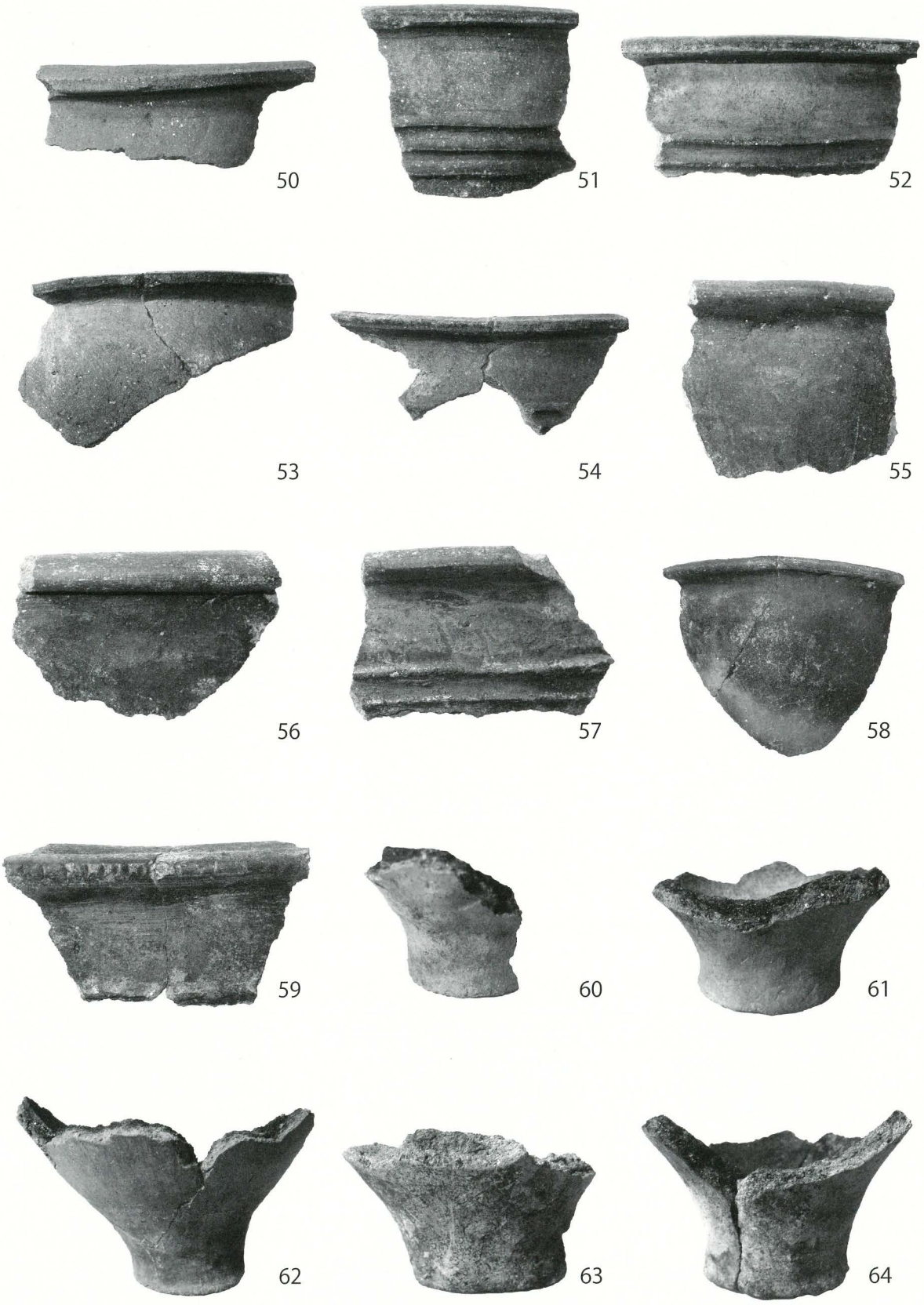


写真 97　出土遺物写真 7

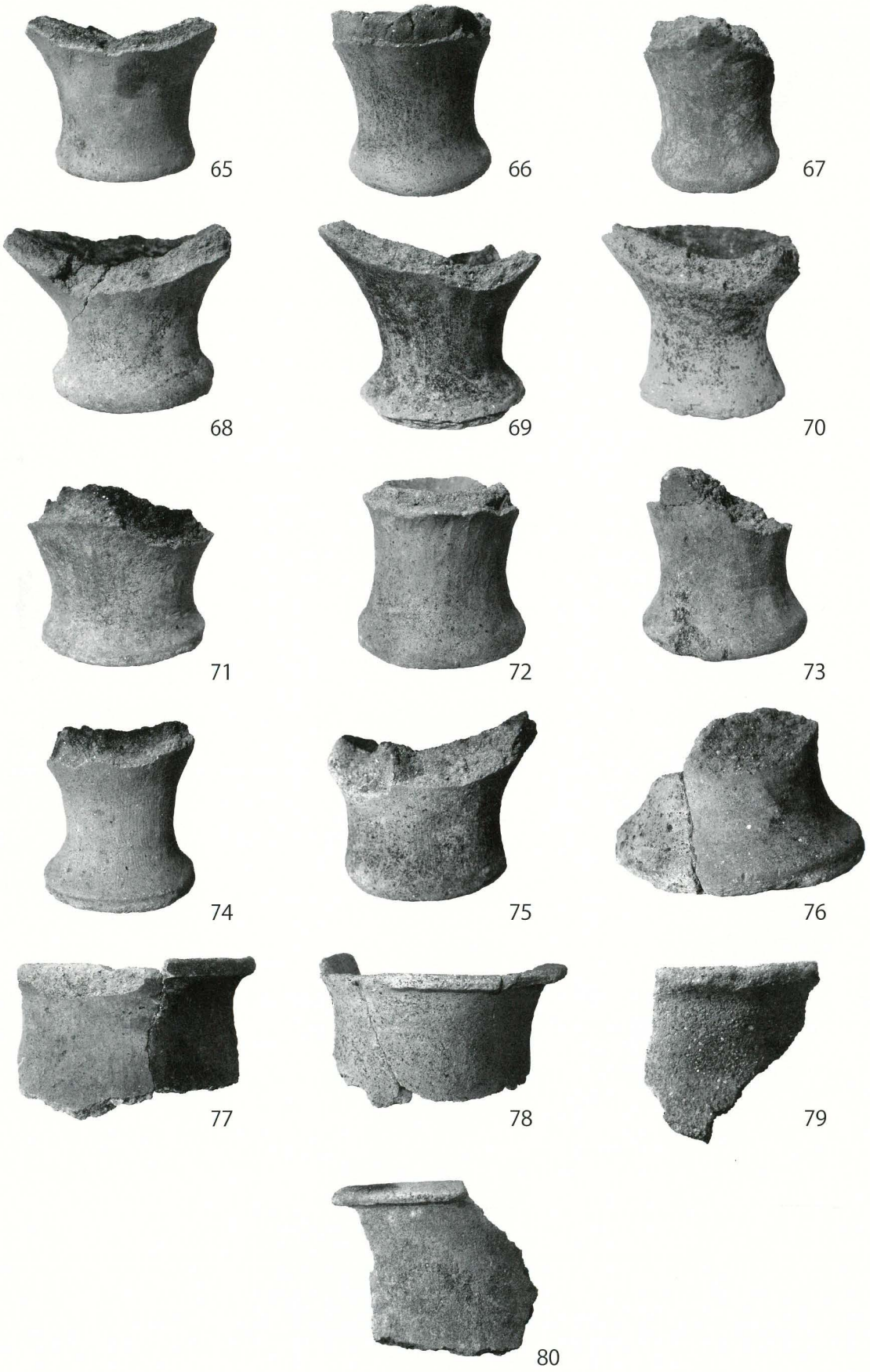


写真 98　出土遺物写真 8

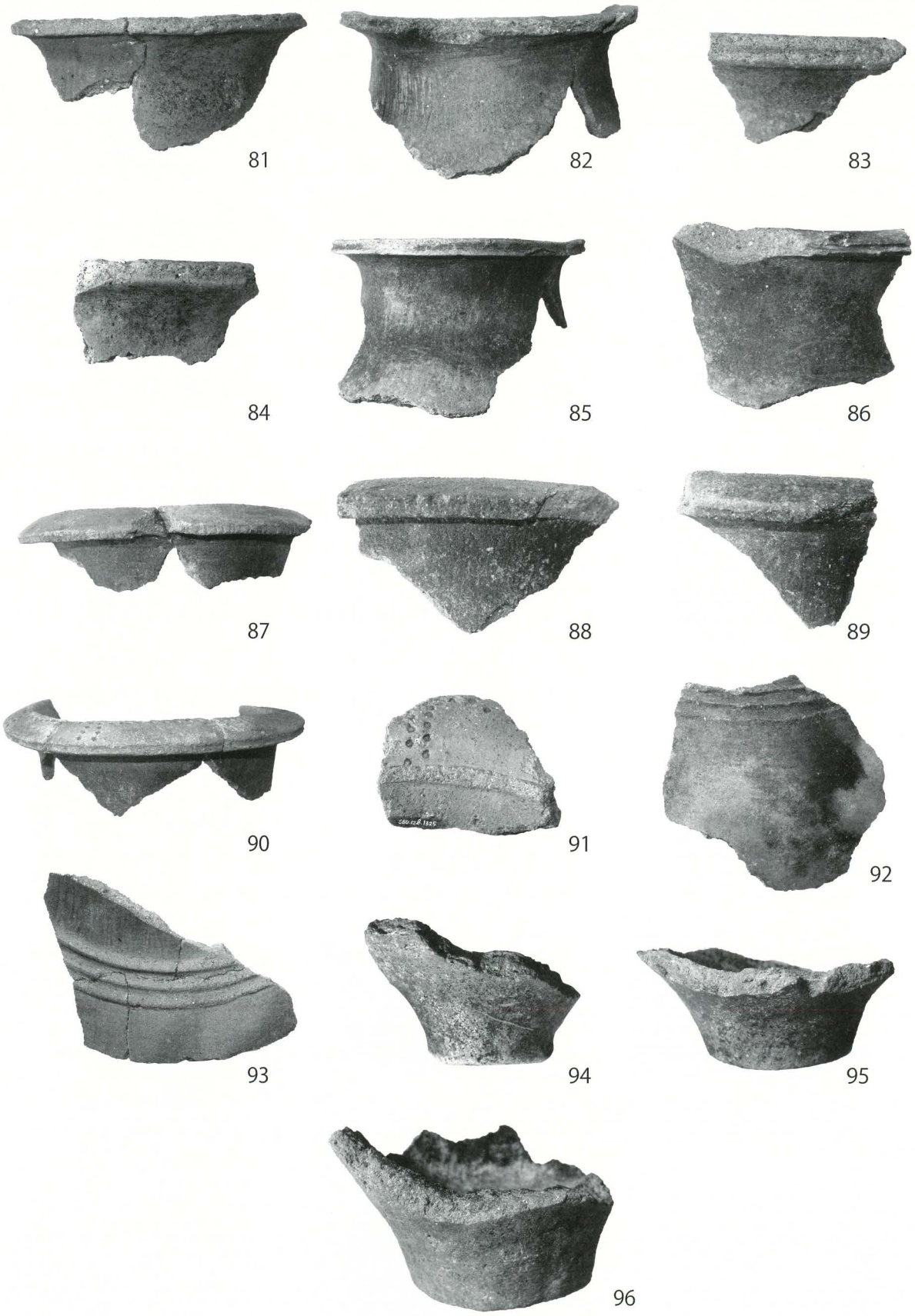


写真 99　出土遺物写真 9

97

98

99

100

101

102

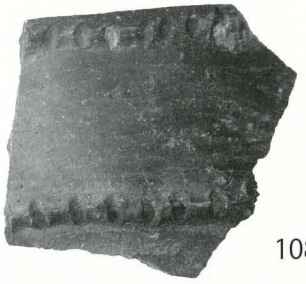
103

104

105

106

107


108

109

110

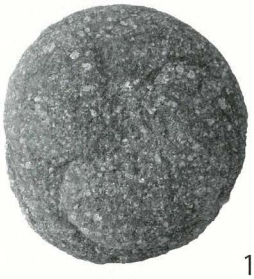
111

写真 100　出土遺物写真 10

112

113

114


115

116

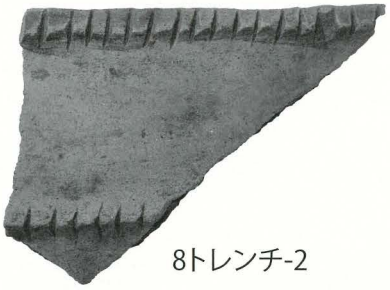
117

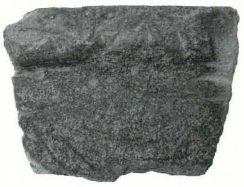
118

119

120

8トレンチ-1


8トレンチ-2


8トレンチ-3

8トレンチ-4

第10図-1

写真 101　出土遺物写真 11

表 10　報告書抄録

ふりがな	しんばんしょうしろ
書名	株式会社ニシムタ店舗建設に伴う発掘調査報告書　新番所後遺跡
副書名	―
巻次	―
シリーズ名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第 40 集
編著者名	中摩 浩太郎　渡部 徹也　鎌田 洋昭
編集機関	鹿児島県指宿市教育委員会（指宿市考古博物館 時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ）
所在地	〒891-0403 鹿児島県指宿市十二町 2290 TEL：0993－23－5100
発行年月日	平成 19 年 3 月 31 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
新番所後遺跡	指宿市十二町字尻垂ノ上	46210	2－58			2006.5.10～2006.6.27	840 ㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新番所後遺跡	集落	縄文時代	ピット	刻目突帯文土器・打製石斧	
		弥生時代	ピット群	入来式土器・高橋式土器・扁平片刃石斧・軽石製加工品	
		古墳時代	竪穴式住居 1 基	成川式土器	

新番所後遺跡

Shinbansyoushiro Archaeological Site

2007年3月

2007 March

発　行

指宿市教育委員会

The Ibusuki Board of Education

鹿児島県指宿市十二町2290

Junicho2290 Ibusuki-city, Kagoshima Pref. Japan

TEL 0993-23-5100

印刷所

株式会社　イースト朝日

East Asahi . Co.,Ltd.

鹿児島市南栄3丁目30-7

Nanei3-30-7 Kagoshima-city, Kagoshima Pref. Japan

TEL 099-266-5522